



Kaseya Server Setup

インストールガイド

バージョン R9

日本語

March 20, 2015

Agreement

The purchase and use of all Software and Services is subject to the Agreement as defined in Kaseya's "Click-Accept" EULATOS as updated from time to time by Kaseya at <http://www.kaseya.com/legal.aspx>. If Customer does not agree with the Agreement, please do not install, use or purchase any Software and Services from Kaseya as continued use of the Software or Services indicates Customer's acceptance of the Agreement."

目次

ウィザード使用方法	1
ステップバイステップインストール.....	3
1. 管理者としてログオンする.....	3
2. インストーラーのダウンロード	3
3. インストールウィザードの起動	3
4. 言語の選択	5
5. ライセンス契約の確認.....	5
6. 自分の Kaseya ライセンスコードの入力	5
7. SQL サーバー認証の提供	6
8. ウイルス対策保護チェック	7
9. システムチェックの実行	8
10. SSL 証明書	9
11. サーバー更新オプションの選択	10
12. インストールディレクトリの選択.....	10
13. マスター管理者アカウントの入力.....	11
14. ネットワーク設定の入力	11
15. メールサーバー設定の入力.....	12
16. インストールするアドオンの選択.....	13
ライセンスされていないアドオンモジュール	14
17. インストール変更の確認	15
18. インストールウィザードの実行	15
インストーラーの問題をレポートする	17
ポートインストールの構成	17
ブラウザのアクセスのテスト.....	17
アウトバウンド E メールをテストする。	19
エージェントのインストールテスト	19
監査結果のテスト表示.....	20
レポート生成のテスト.....	20
エージェントの更新	21
設定ウィザードの確認.....	21
パッチリリースをインストールする	22
インストールの前提条件	23
VSA をアップグレードする	23
URL アクセス	24
http://download.kaseya.com へのアクセス	24

http://vsupdate.kaseya.net へのアクセス	24
http://license.kaseya.net へのアクセス.....	24
管理者アクセス.....	24
管理:XP	25
管理:7、8、および 8.1.....	25
管理:2003 および 2003 R2	26
管理:2008、2008 R2、2012、および 2012 R2	27
画面の解像度	28
オペレーティングシステム	28
ドメインコントローラ.....	28
Exchange.....	28
SharePoint.....	28
Windows アップデート	28
Windows アップデート:XP、2003 および 2003 R2	28
Windows アップデート:7、2008 および 2008 R2	29
Windows アップデート:8、8.1、2012、および 2012 R2.....	29
Microsoft .Net Framework	30
DotNet:バージョン 2.0	30
DotNet:バージョン 3.5	30
DotNet:2008 R2 のバージョン 3.5.....	30
DotNet:バージョン 4.0	31
Java SE 7	31
IIS 要件	31
IIS インストール完了.....	32
IIS:XP	32
IIS:7	32
IIS:8 および 8.1.....	34
IIS:2003 および 2003 R2	35
IIS:2008 および 2008 R2	35
IIS:2012 および 2012 R2	37
IIS ロールサービス	39
IIS ロールサービス:7	39
IIS ロールサービス:8 および 8.1.....	40
IIS:2003 および 2003 R2	42
IIS ロールサービス:2008 および 2008 R2	42
IIS ロールサービス:2012 および 2012 R2	44
IIS アプリケーションプール.....	46
IIS ハンドラーマッピング	46
IIS SSL セキュリティ設定.....	46
IIS SSL セキュリティ設定:7、8、および 8.1.....	47
IIS SSL セキュリティ設定:XP、2003 および 2003 R2.....	47

IIS の SSL セキュリティ設定: 2008、2008 R2、2012、および 2012 R2	48
IIS の HTTP のバインド.....	48
IIS のポートチェック.....	48
'デフォルトウェブサイトはウェブサイト 1 です。	49
デフォルトウェブサイト:7 および 8	49
デフォルトウェブサイト:XP、2003 および 2003 R2	50
デフォルトウェブサイト:2008、2008 R2、2012、および 2012 R2	51
ASP.NET State Service.....	51
ASP.NET State Service:7 および 8	52
ASP.NET State Service:XP、2003 および 2003 R2.....	53
ASP.NET State Service:2008、2008 R2、2012、および 2012 R2	54
IIS IP アドレスとドメインの制限.....	54
localhost/127.0.0.1.....	54
メッセージ キュー サービスが (MSMQ)	55
MSMQ:XP	55
MSMQ:7 および 8.....	55
MSMQ:2003 および 2003 R2	56
MSMQ:2008 および 2008 R2	56
MSMQ:2012 および 2012 R2	57
MSMQ アクティブディレクトリコンポーネント	57
MSMQ AD:XP.....	57
MSMQ AD:7 および 8.....	58
MSMQ AD:2003 および 2003 R2.....	58
MSMQ AD:2008 および 2008 R2.....	59
MSMQ AD:2012 および 2012 R2.....	59
SQL の要件.....	60
SQL:インストール済み	60
SQL:照合および互換性	60
SQL:バージョン	61
SQL:ドメイン	61
SQL:サービスアカウント.....	62
SQL:CLR.....	62
SQL:フルテキスト検索.....	62
SQL:追加のデータベースとインスタンス	64
SQL:SQL Server のその他の要件	64
SQL:SSRS のポート	64
RAM がインストールされています.....	65
ディスクのスペース	65
ファイアウォールのポート	65
Windows Temp フォルダへのアクセス	66
アンチウイルス保護	67

アンチウイルス保護	67
Kaseya Server を移動する	68
アップデート前チェックリスト	68
Kaseya Server をバックアップする	69
更新を計画する	69
アンチ-ウイルス・ソフトウェア	69
Kaseya Server を移動する	69
Kaseya Server をアーカイブする	72
SSL 証明書を使用する	74
コマンドラインオプション	75
非インターネットインストール	75
ウェブプロキシ証明書を設定する	77
SQL Server Reporting Services の設定	78
SSRS 構成ガイドライン	79
SSRS URL を指定	79
SSRS2005 にデフォルト設定を再適用	86
リモート SSRS 2005 構成	89
リモート SSRS 2008 構成	93
カスタム証明書をリモートレポートサーバーに加える	97
レポートロゴ URL の設定	103
インデックス	107

ウィザード使用方法

Kaseya Server Setup について

Kaseya Server Setup では、Virtual System Administrator™ (VSA) 、およびライセンスされているすべてのアドオンモジュールがインストールされます。それ以上の複数のインストールを実行しないでください。KInstall.exe インストーラをお持ちでない場合は、Kaseya のウェブサイト 『<http://web.kaseya.com/upgrade-9.html> 』を見て 』 からダウンロードできます。

ウィザードは次のとおりに作動します。

- Kaseya Server Setup をステップごとに 『3 ページ 』 実行する。
- すべての前提条件が、多くの場合テストおよび構成される 『8 ページ 』
- インストールされている場合は SQL Server に接続される 『6 ページ 』。または
 - SQL Server Express が自動的にインストールおよび構成される 『6 ページ 』。
- Kaseya Server のインストールまたはアップグレード 『10 ページ 』 と同時に、ライセンスされているすべてのアドオンモジュール 『13 ページ 』 のインストールまたはアップグレードを実行できます。

ウィザード使用方法

ユーザーアシスタンス

SQLサーバー認証

☐ SQL Expressのインストール
☒ このコンピューターのデフォルト SQL インスタンスを使用する
☐ 名前およびライセンスをこの、または別のコンピューターに使用します。

ユーザー名(sa
 パスワード(

証明書の確認

クリックして現在のステップのヘルプを表示します

Kaseya VSA サーバーは全てのユーザーデータを SQL Serverデータベース保管します。
 SQLサーバー がインストール準備できていない場合 SQL Expressインストールのため、オプション1を選択してください。
 SQLサーバーがすでにインストールされている場合はオプション2または3を選択し、SQLサーバーにあなたの認証を入力してください。

キャンセル 戻る 次へ

システムチェック

テスト名	テスト説明	Fix It	ヘルプ	結果
Exchange	Microsoft Exchangeがインストールされていますか？		?	Exchangeがインストールされていません。
SharePoint	SharePointがインストールされていますか？		?	SharePointが見つかりません。
Windowsアップデート/パッチ	Windowsが完全にアップデート/パッチされていますか？		?	Windowsアップデートをインストールしてから、14日以上過ぎています。 Windowsアップデートが、'Thursday, May 22, 2014 5:42 PM' で検出され、 'Thursday, May 22, 2014 5:25 PM' にダウンロードされ、'Thursday, May 22, 2014 5:25 PM' にインストールされました。 インストーラを終了して、Windowsアップデートを実行してから、先に進めてください。 インストール・プロセス中にシステムが完全にアップデートされていると想定します。
DotNetバージョン2.0	Microsoft .NET Framework 2.0がインストールされていますか？		?	バージョン2.0.507...
DotNetバージョン4.0	Microsoft .NET Framework 4.0がインストールされていますか？		?	フルおよび...
IISインストール完了	IISインストール完了？		?	IISがインストール...
IISロールサービス	KaseyaはIISロールサービスのインストールを要求しましたか？		?	Found Role Serv...
IISアプリケーションプール	IISアプリケーションプールが正常に設定されましたか？	修正	?	アプリケーション...
IIS - IP Address and Domain Restrictions	IIS - Sets IP Address and Domain Restrictions to prevent interference with reapply-schema.		?	IIS IP Address and Domain Restrictions are setup correctly to run reapply schema.

テスト結果: 35 (緑), 2 (黄), 5 (赤)
 移動テスト Run All Fixes エラーと警告のみ表示する。

キャンセル 戻る 次へ

[システムチェック]で各テストのヘルプアイコンをクリックします

アドオンインストール

あなたのライセンスは(TESTJH)アドオンモジュールに従ってエントリーされます。

モジュール名	インストール?	情報	インストールされたバージョン	インストールされるバージョン	説明
Patch Management	✓	?	8.0.0.0	9.0.0.0	インストール中バージョン9.0.0.0
Desktop Management	✓	?	8.0.0.0	9.0.0.0	インストール中バージョン9.0.0.0
Discovery	✓	?	8.0.0.0	9.0.0.0	インストール中バージョン9.0.0.0
Mobility	✓	?	8.0.0.0	9.0.0.0	インストール中バージョン9.0.0.0
Policy Management	✓	?	8.0.0.0	9.0.0.0	インストール中バージョン9.0.0.0
Time Tracking	✓	?	8.0.0.0	9.0.0.0	インストール中バージョン9.0.0.0
Network Monitoring	✓	?	8.0.0.0	9.0.0.0	インストール中バージョン9.0.0.0
Service Desk	✓	?	8.0.0.0	9.0.0.0	インストール中バージョン9.0.0.0
Antivirus/AntiMalware	✓	?	8.0.0.0	9.0.0.0	インストール中バージョン9.0.0.0
Backup Disaster Recovery	✓	?	8.0.0.0	9.0.0.0	インストール中バージョン9.0.0.0
Data Backup	✓	?	8.0.0.0	9.0.0.0	インストール中バージョン9.0.0.0
Image Deployment	□	?	6.5.0.0	1.1.0.3	インストールされているバージョン 6.5.0.0 は、使用可能なバージョン 1.1.0.3 より新しいです。
Endpoint Security	✓	?	8.0.0.0	9.0.0.0	インストール中バージョン9.0.0.0
Service Billing	✓	?	8.0.0.0	9.0.0.0	インストール中バージョン9.0.0.0

すべてを選択

キャンセル 戻る 次へ

[アドオンインストール]で各アドオンモジュールのヘルプアイコンをクリックします

ステップバイステップインストール

このセクションで

1. 管理者としてログオンする	3
2. インストーラーのダウンロード	3
3. インストールウィザードの起動	3
4. 言語の選択	5
5. ライセンス契約の確認	5
6. 自分の Kaseya ライセンスコードの入力	5
7. SQL サーバー認証の提供	6
8. ウイルス対策保護チェック	7
9. システムチェックの実行	8
10. SSL 証明書	9
11. サーバー更新オプションの選択	10
12. インストールディレクトリの選択	10
13. マスター管理者アカウントの入力	11
14. ネットワーク設定の入力	11
15. メールサーバー設定の入力	12
16. インストールするアドオンの選択	13
17. インストール変更の確認	15
18. インストールウィザードの実行	15
インストーラーの問題をレポートする	17

1. 管理者としてログオンする

インストールするマシンに、**管理者**としてログオンします。

2. インストーラーのダウンロード

KInstall.exe インストーラファイルをダウンロードします。

注： インストーラファイルをもっていない場合は、**Kaseya** のウェブサイト 『
<http://web.kaseya.com/upgrade-9.html> を見て 』を参照してください。

3. インストールウィザードの起動

KInstall.exe をダブルクリックして、インストールウィザードを起動します。



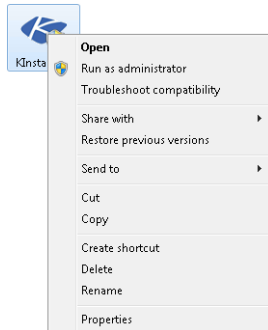
管理者として実行

オペレーティングシステムによっては、KInstall.exe のインストールを開始するときに、

ステップバイステップインストール

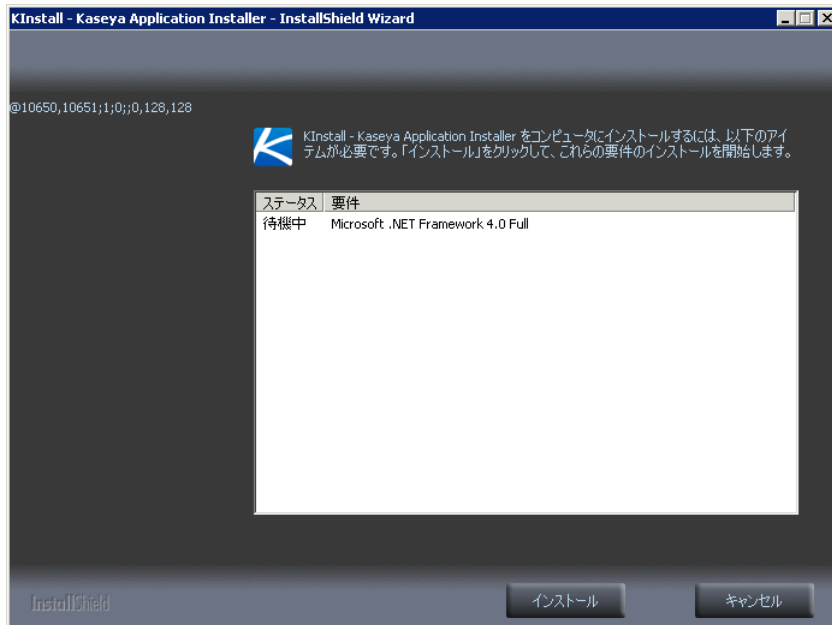
KInstall.exe を右クリックし、[管理者として実行]オプションを選択しなければならないことがあります。サポートされているオペレーティングシステムでこのことが当てはまるものは次の通りです。

- Windows 7
- Windows Server 2008
- Windows Server 2008 R2
- Windows Server 2012
- Windows Server 2012 R2



Kaseya Server Setup の最初の実行

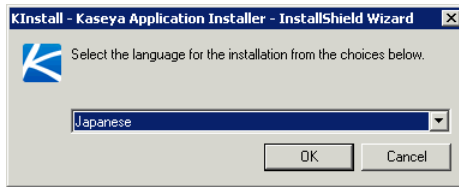
Microsoft .NET Framework 4.0 などの必要物がインストールされているかが表示される場合があります。



必要物によっては、コンピュータの再起動を要する場合があります。その場合は、再起動後に、KInstall.exe インストールウィザードを再開するように求められます。

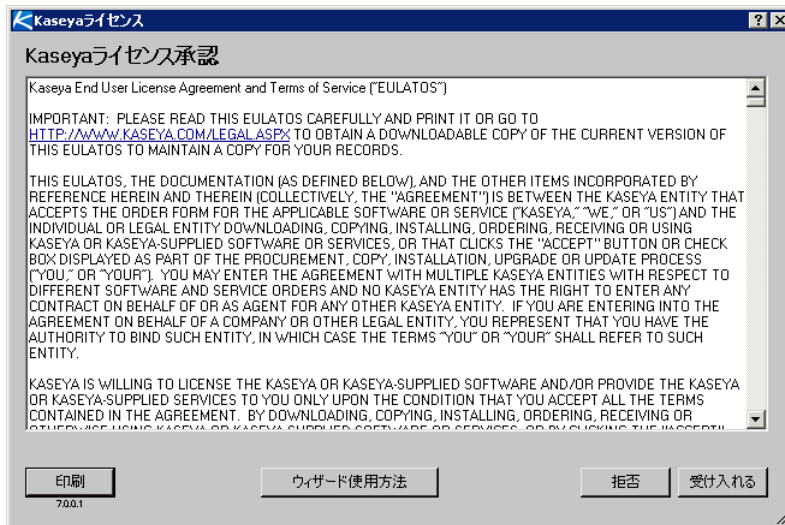
4. 言語の選択

言語の選択



5. ライセンス契約の確認

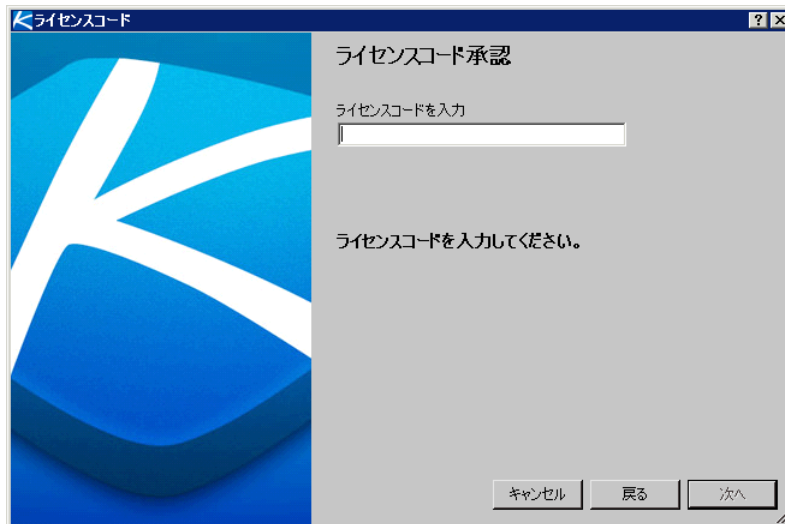
インストールウィザードの最初のページが表示されます。このダイアログに表示される Kaseya End User License ("EULA")を確認します。



6. 自分の Kaseya ライセンスコードの入力

ライセンスコードを入力します。このライセンスコードは、**Kaseya のウェブサイト** 『<http://web.kaseya.com/upgrade-9.html>』を見て から **KInstall.exe** インストーラのダウンロードを要求した後に E メールで送付されたものです。

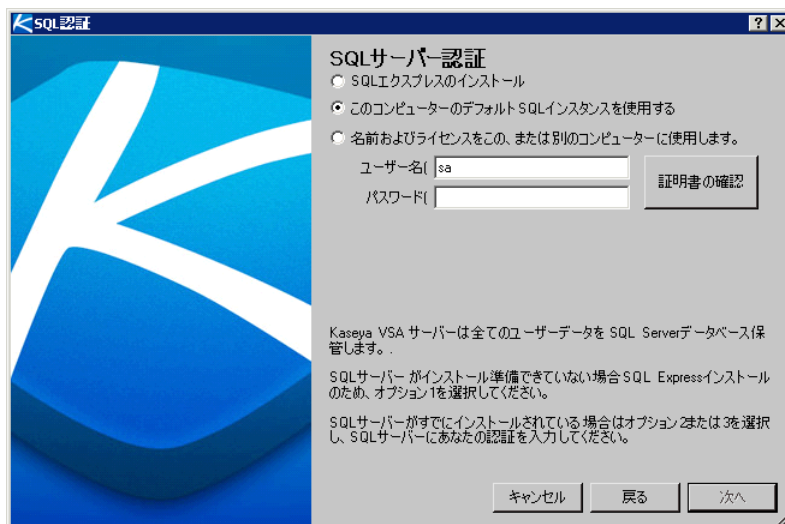
注：自分のライセンスが認証されない場合は、Kaseya までお電話（米国: 415.694.5700）でご連絡ください。



7. SQL サーバー認証の提供

これらのシステムチェックのいくつかで SQL Server 認証が必要な場合は、その中から一つを提供する必要があります。

注：KInstall.exe をキャンセルした後に再度実行する場合、そのたびにこのウィザードのページに戻ります。SQL Server の資格情報を再入力する必要があります。



- オプション 1 - SQL Server を指定せずに**システムチェック**を実行する場合は、このオプションを選択します。
 - 最初に**システムチェック**が実行されると、フィックスイットリンクが表示され、SQL Express のダウンロードおよびダウンロードが自動的に実行されます。

- オプション 2- ローカルシステムにすでにインストールされている SQL Server のデフォルトインスタンスを使用する場合は、このオプションを選択して SQL のユーザー名とパスワードを入力します。
 - **ユーザー名** - SQL Server 管理者のログオン。sa がデフォルトです。
 - **パスワード** - このユーザーのパスワード。
 - **証明書の確認** - SQL Server との接続確認。
- オプション 3- SQL の名称付インスタンス (ローカルシステムかリモートシステムにあり) を使用する場合は、そのインスタンス名を入力します。
 - **ユーザー名** - SQL Server 管理者のログオン。sa がデフォルトです。
 - **パスワード** - このユーザーのパスワード。
 - **サーバー名** - システムと同名の場合が多いが必ずしもそうではない。**SQL Servers を検索**をクリックして、ローカルネットワークの使用可能な SQL Server またはインスタンスをブラウズします。
 - **インスタンス名** - この SQL Server で実行されているインスタンス。一つのサーバーで複数のインスタンスを実行することができます。
 - **証明書の確認** - SQL Server との接続確認。

SQL Server がすでにインストールされている場合

Kaseya Server Setup の実行前に SQL Server が既にインストールされている場合は、**[システムチェック]**を使用して、SQL Server の要件がすべて満たされているかどうかを確認できます。

1. **SQL Server 資格情報** ページで **オプション 2 または 3** を選択します。
2. SQL Server 資格情報の入力
3. **次** ボタンをクリックして、**システムチェック** ページを表示します
4. **稼働テスト** ボタンをクリックして SQL Server のすべての要件が満たされているかどうかを確認します。
5. 満たされていない場合は、**システムチェック** の指示に従ってください。**SQL:SQL Server のその他の要件** 『64 ページ』を参照することもできます。

Kaseya Server Setup で SQL Express を自動的にインストールする場合

1. **SQL Server 資格情報** ページで **オプション 1** を選択します。
2. **次** ボタンをクリックして、**システムチェック** ページを表示します。
3. **[稼働]** ボタンをクリックします。
 - [SQL インストール済み] 行に赤の X が表示され、**[修正]** リンクが表示されます。
4. [SQL インストール済み] 行の **[修正]** リンクをクリックします。
 - SQL Server Express が自動的にダウンロードおよびインストールされます。これは、数分かかります。
 - SQL Server Express がインストールされると、テストが再度自動的に実行されます。
 - SQL インストール行に緑のチェックボックスが表示されます。

8. ウィルス対策保護チェック

Kaseya Server Setup は、インストール先のシステムでウィルス対策保護が有効になっているかどうかのテストをこれから開始することを警告します。

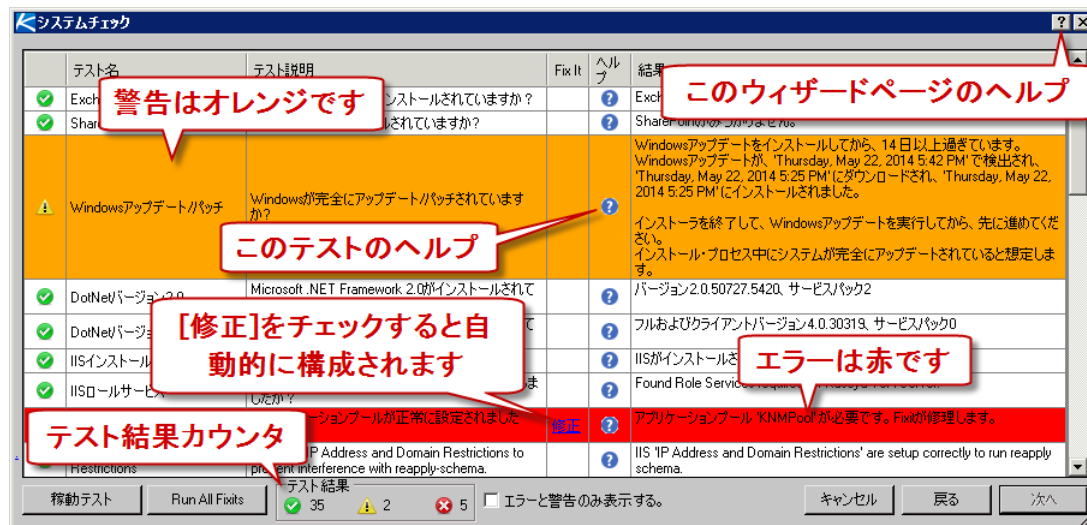
ステップバイステップインストール

- [次へ]ボタンをクリックすると、EICAR 標準ウイルス対策テストファイルがシステムにダウンロードされます。
- ウィルス対策保護が有効の場合、警報メッセージが表示されることがあります。
- **警報メッセージが表示された場合、ウイルス保護を無効にしてからインストールを続行する必要があります。**
- チェックボックスをチェックすると、次回インストールを実行するときには、このダイアログは表示されません。その場合でも、インストールまたはアップグレードを実行するたびにテストが実行されます。



9. システムチェックの実行

[稼働]ボタンをクリックします。



システムチェックにより、システムがインストールを成功させるために必要なすべての前提条件がテストされます。

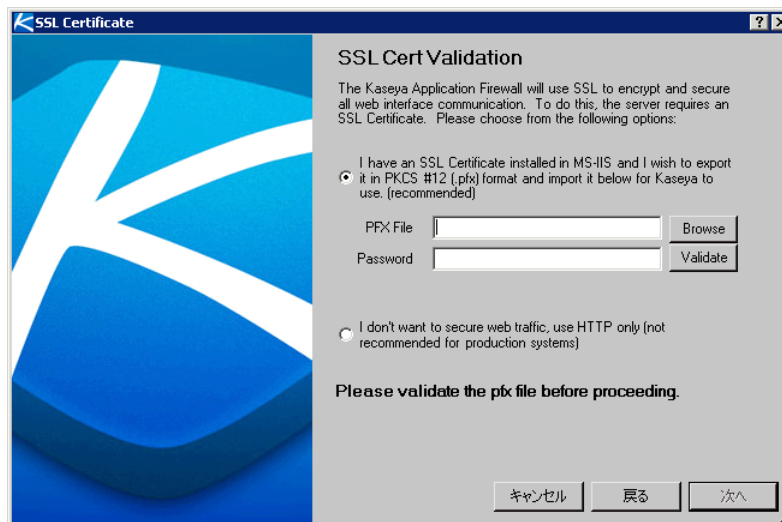
- **システムチェック**の実行中は、**停止テスト**ボタンが表示されます。**停止テスト**をクリックすれば、テスト対象の行の結果を即時確認することができます。
- 赤の行は修正しないとインストールを続行できません。オレンジの行はオプションです。
- 行のヘルプアイコンをクリックすると、前提条件を構成するためのユーザーへのアシスタンスが表示されます。
- 場合によっては、**システムチェック**で前提条件が修正されることもあります。修正をするには、行の**フィックスイット**リンクをクリックするだけで済みます。
- **システムチェック**で欠落前提条件を 修正できなかったときは、その前提条件を構成しつつインストーラーを起動させておけば、ほとんどの場合すぐにインストールを続行できます。
- 欠落した前提条件を修正する場合に**システムチェック**をキャンセルしなければならない場合、(例えば、システムを再起動しないと前提条件の構成を完了しなければならない場合) インストーラーを再起動すれば中断したところから再開できます。
- 最小限のすべての前提条件が合致すると、**次**ボタンが有効になるため続行可能となります。

10. SSL 証明書

注： 実稼動環境では、SSL 証明書を使用することが強く推奨されます。詳細については、「SSL 証明書を使用する」 『74 ページ』を参照してください。

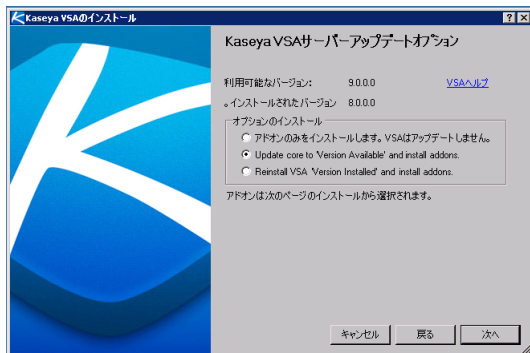
- IIS に SSL 証明書が既にインストールされている場合は、**[SSL 証明書が既に MS-IIS にインストール済みであり、...]**オプションを選択します。これにより、SSL 証明書が Kaseya Server に適用されます。
 - **PFX ファイル** - ブラウズしてインポートする **PFX ファイル**を選択します。
 - **パスワード** - PFX ファイルを使用するためのパスワードを入力します。
- SSL 証明書なしで Kaseya Server を実行する場合は、**[Web トラフィックを保護せず、HTTP のみを使用する...]**オプションを選択します。

注： 後で SSL 証明書をインポートするときには、Kaseya Server のホストシステムで、**[スタート] > [すべてのプログラム] > [Kaseya] > [SSL 構成ツール]** を選択します。



11. サーバー更新オプションの選択

このページは更新の場合のみ表示されます。



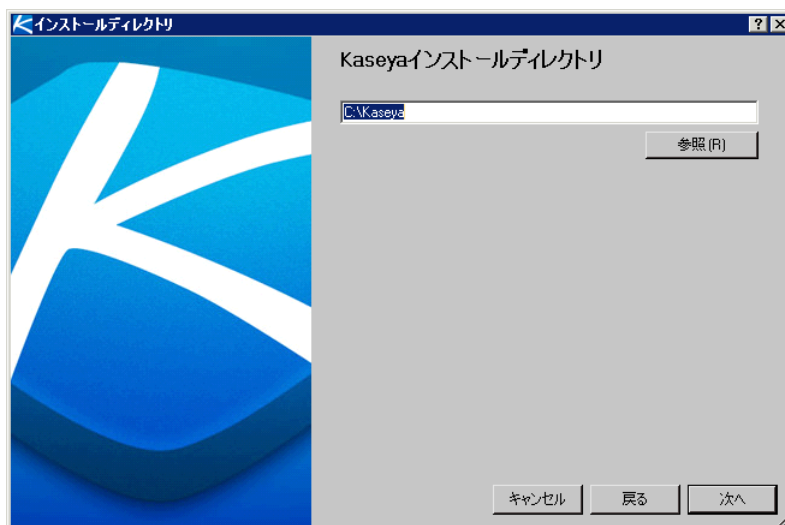
次の2つのオプションがあります：

- オプション1 - 既存の Kaseya Server をアップグレードしてからアドオンをインストールする。
- オプション2 - アドオンのみインストールする。Kaseya Server のアップグレードを省略する。アドオンは次のページで選択します。

12. インストールディレクトリの選択

更新時、このページは表示されません。

Kaseya をインストールするディレクトリを選択します。



13. マスター管理者アカウントの入力

更新時、このページは表示されません。

アカウント名とパスワードを入力するよう求められます。これによって、**マスター**の役割と**マスター**のスコップを持つユーザーが作成されます。ユーザー名とパスワードの両方とも、大文字、小文字を区別します。

注：これは **VSA** のユーザー名です。データベースのユーザー名ではありません。

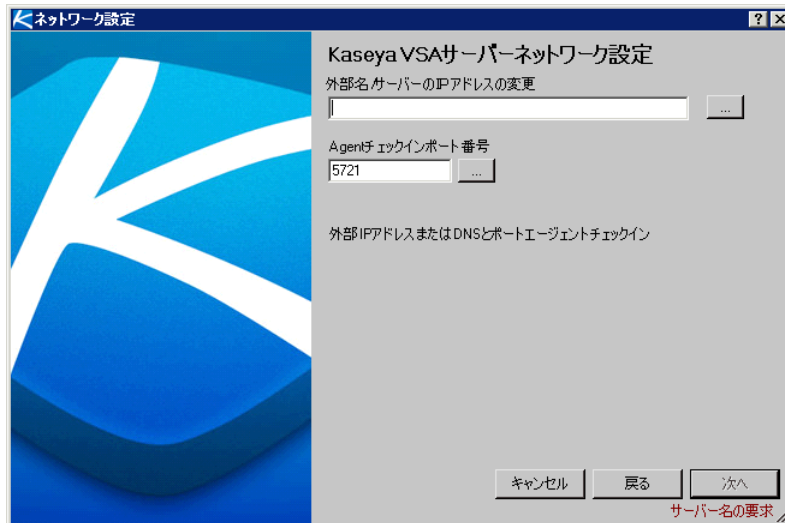
14. ネットワーク設定の入力

更新時、このページは表示されません。

Kaseya Server のホスト名または IP アドレスを入力します。ホスト名は、ローカルのネットワークおよびインターネットにあるすべてのシステムが解決可能でなければなりません。Kaseya のエージェントは、この名前または IP アドレスを使用して Kaseya Server と通信します。ユーザーは、Kaseya Server と接続するために Kaseya のエージェントが使用するデフォルトのポート番号を変更できます。ポート番号は、インストール後に変更することもできます。

注：ポート番号を **80** に設定しないでください。ポート **80** は既に **IIS** が使用しているため、競合が発生します。

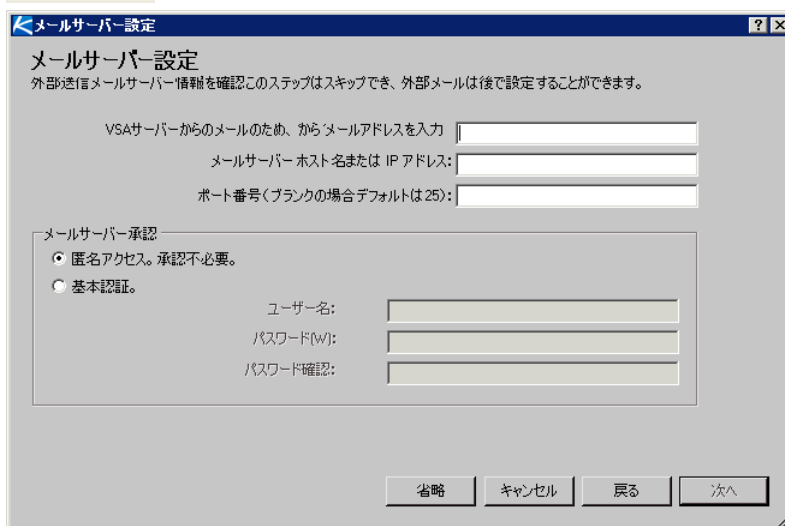
ベストプラクティス：パブリック IP アドレスを使用できますが、Kaseya Server に対してドメインネームサーバー (DNS) 名を使用することが推奨されます。この習慣は、IP アドレスを変更しなくてよいための予防として推奨されます。孤児になったエージェントを再接続するより、DNS エントリーを修正の方が簡単です。



15. メールサーバー設定の入力

更新時、このページは表示されません。

アウトバウンド E メールサーバーの情報を指定します。有効な E メールアドレスを入力します。このアドレスは、Kaseya Server から送信されるメッセージの"送信元"アドレスとして使用されます。Kaseya は、チケット発行システムのアドレスまたはグループ配信アドレスを使用することを推奨しています。個人用の E メールアドレスは使用しないでください。一般的な選択は、support@<会社のドメイン> です。



利用可能であれば、以下の情報を入力します。

注：アップデート後にアウトバウンド E メール設定を行う場合は、VSA の[システム]>[アウトバウンド E メール]で設定できます。これらのフィールドを空白のままにして、[次へ]ボタンをクリックすると、確認メッセージボックスが表示されます。

- この VSA サーバーから送信される Eメールの「送信元」Eメールアドレスを入力します： - アウトバウンド E メールに表示されるデフォルトの「送信元」アドレスを入力します。
- メールサーバーのホスト名または IP アドレス - Eメールサーバーのホスト名です。例：
smtp.gmail.com.
- ポート - 通常は 25 ですが、ホスト Eメールサーバーが別のポート番号を要求することがあります。
- 匿名アクセス - 認証は不要です。
- 基本認証 - 認証が必要です。
 - ユーザー名 - ホスト Eメールサーバーの使用を許可されたアカウントのユーザー名を入力します。
 - パスワード - アカウントのパスワードを入力します。
 - パスワードの確認 - アカウントのパスワードを再入力します。

16. インストールするアドオンの選択

アドオンインストールページには、インストールまたはアップグレードのライセンスを受けたすべてのアドオンがすべてリストアップされています。

- ほとんどの場合、インストールチェックボックスはデフォルトでチェックされています。
- インストールできる新たなアドオンでも、今すぐインストールしない場合はチェックを解除してください。後で KInstall.exe を再実行して、これらのアドオンをインストールすることができます。
- 場合によっては、別のアドオンが依存しているため、インストールチェックボックスがロックされていることがあります。依存アドオンのチェックを解除しないと、オリジナルのチェックボックスのロックを解除できません。

アドオンインストール ? X

あなたのライセンスは (TESTJH) アドオンモジュールに従ってエントリされます。

モジュール名	インストール?	情報	インストールされたバージョン	インストールされるバージョン	説明
Patch Management	☒	?	8.0.0.0	9.0.0.0	インストール中バージョン 9.0.0.0
Desktop Management	☒	?	8.0.0.0	9.0.0.0	インストール中バージョン 9.0.0.0
Discovery	☒	?	8.0.0.0	9.0.0.0	インストール中バージョン 9.0.0.0
Mobility	☒	?		9.0.0.0	インストール中バージョン 9.0.0.0
Policy Management	☒	?	8.0.0.0	9.0.0.0	インストール中バージョン 9.0.0.0
Time Tracking	☒	?	8.0.0.0	9.0.0.0	インストール中バージョン 9.0.0.0
Network Monitoring	☒	?	8.0.0.0	9.0.0.0	インストール中バージョン 9.0.0.0
Service Desk	☒	?	8.0.0.0	9.0.0.0	インストール中バージョン 9.0.0.0
Antivirus/AntiMalware	☒	?	8.0.0.0	9.0.0.0	インストール中バージョン 9.0.0.0
Backup Disaster Recovery	☒	?	8.0.0.0	9.0.0.0	インストール中バージョン 9.0.0.0
Data Backup	☒	?	8.0.0.0	9.0.0.0	インストール中バージョン 9.0.0.0
Image Deployment	☐	?	6.5.0.0	1.1.0.3	インストールされているバージョン 6.5.0.0 は、使用可能なバージョン 1.1.0.3 より新しいです。
Endpoint Security	☒	?	8.0.0.0	9.0.0.0	インストール中バージョン 9.0.0.0
Service Billing	☒	?	8.0.0.0	9.0.0.0	インストール中バージョン 9.0.0.0

すべてを選択 キャンセル 戻る 次へ

ライセンスされていないアドオンモジュール

既存の Kaseya Server を R9 にアップグレードするときに、インストールされているアドオンのライセンスがないことを **Kaseya Server Setup** が検出した場合、インストールを完了するには、2 とおりの操作のいずれかを行う必要があります。

1. 既存の Kaseya ライセンスを更新して、インストールするアドオンモジュールに適合させるか、
2. ライセンスを受けていないアドオンモジュールをアンインストールしてください。

いずれの場合も、上記の操作を行ってから、**Kaseya Server Setup** をキャンセルし、**Kaseya Server Setup** を再起動する必要があります。

既存の Kaseya ライセンスの更新

1. ライセンスは受けていないものの、これからライセンスを受けるアドオンモジュールを特定します。
 - ライセンスを受けないアドオンについては、下記の**ライセンスされていないアドオンモジュール**を参照してください。
2. インストールしたアドオンモジュールのライセンス許諾については、Kaseya の 24 時間顧客サポート (415.694.5700) までご連絡ください。
 - ほとんどの場合は、新たなライセンスコードが顧客サポートから提供されます。新しいライセンスコードが提供された場合は、既存の VSA 6.5 または 6.3 のライセンスコードをアップデートしてから **Kaseya Server Setup** を再度実行します。
3. VSA で、**[システム]>[サーバー管理]>[ライセンスマネージャ]**を選択します。
4. **[コードをアップデート]** ボタンをクリックします。
5. **ライセンスコードを入力**フィールドに新たなライセンスコードを入力します。
6. 再度 VSA にログオンし、新しいライセンスコードが**[ライセンスマネージャ]**ページに表示されることを確認します。

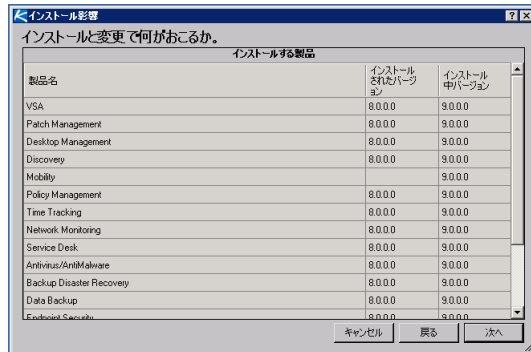
ライセンスされていないアドオンモジュールのアンインストール

Kaseya Server Setup のインストールを完了する前に、ライセンスされていないアドオンモジュールをアンインストールできます。

1. まず、**Kaseya Server Setup** の実行をキャンセルします。
2. **[コントロール パネル]>[プログラムのアンインストール]**を選択します。
3. ライセンスを受けていないアドオンモジュールを一つずつ右クリックし、**アンインストール**オプションを選択します。

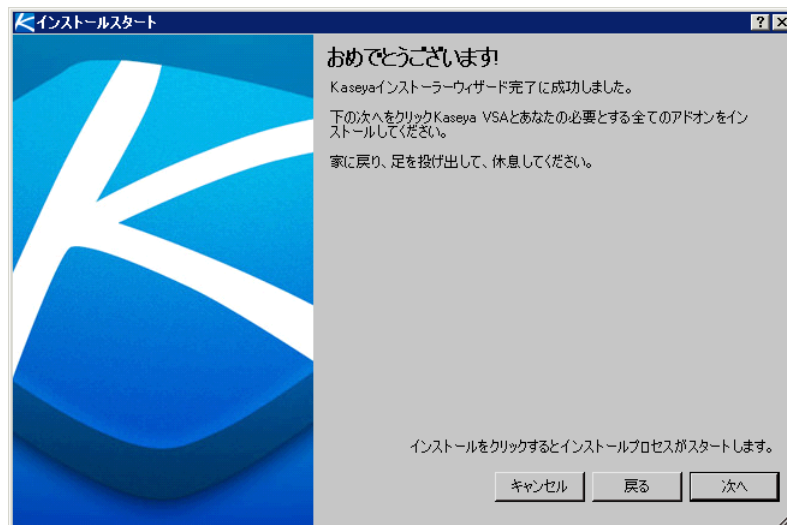
17. インストール変更の確認

インストールによって、システムに加えられようとしている変更が要約されます。



18. インストールウィザードの実行

インストールウィザードによって、インストールを開始する準備が整います。



ステップバイステップインストール

選択したインストーラーがダウンロードされ、インストールするまで待機します。



注：インストールの完了後、ポートインストールの構成 『17 ページ 』に進んでください。

インストーラの問題をレポートする

インストールで問題が発生した場合...

Reapply schema より 前のインストーラの問題の場合

1. **エラーのスクリーンショット** - 編集、すべてを選択、コピーして、ワードパッドに貼り付けます。
2. Windows で、Kaseya の `html` ファイルを見つけてコピーします。
3. スクリーンショットやファイルをチケットに添付します。
4. 次のようなシステム構成を提供してください：OS、DB、WEB OS など。
5. インストールが壊れている場合、たいていはエージェントや他の仕組みを使用しても、そのマシンに到達することはできません。インストーラの問題に関する、次のような RDP アクセスを提供してください：マシン名、ユーザー名およびパスワード。
6. **プロセスは、エラーのポイントで実行中のままにしておいてください。**

Reapply schema の間のインストーラの問題の場合

1. **エラーのスクリーンショット** - 編集、すべてを選択、コピーして、ワードパッドに貼り付けます。
2. `<KaseyaRoot>\DBInstall\TempFiles` にあるファイルを見つけます。
3. スクリーンショットやファイルをチケットに添付します。
4. 再適用で問題が発生したパス番号を特定します。
5. 次のようなシステム構成を提供してください：OS、DB、WEB OS など。
6. 次のようなリモート・アクセスのログイン情報を提供してください：マシン名、ユーザー名およびパスワード。
7. **プロセスは、エラーのポイントで実行中のままにしておいてください。**

ポートインストールの構成

ブラウザのアクセスのテスト

インストールが完了すると、ウェブブラウザのウィンドウにログオンページが表示されます。**13. マスター管理者アカウントの入力** 『11 ページ』で入力したユーザー名とパスワードを使用して、ログオンします。

注： 正常にログオンできない場合は、「新しいマスターユーザーの作成」を参照してください。

ポートインストールの構成

Microsoft Internet Explorer ブラウザのウィンドウを開いて「<http://<VSAのアドレス>>」と入力し、内部およびリモートの場所から Kaseya Server に到達できることを確認します。サーバーのアドレスへのアクセスで問題がある場合、ネットワークのドメインネームサーバー(DNS)による名前/IP の解決を確認します。



Kaseya
Evaluation Edition

Enter Your Username and Password

Username

Password

☐ Remember my username on this computer

System Version
9.0.0.0

Patch Level
9.0.0.6

Getting Started
[Forgot Password?](#)

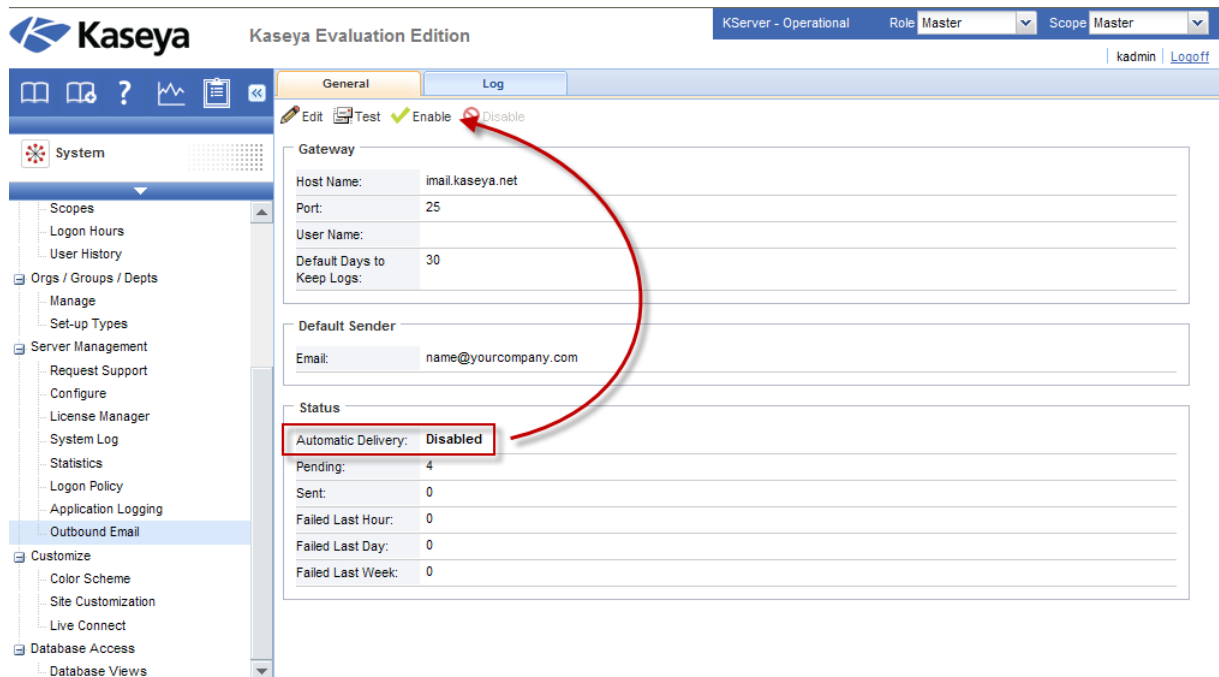
System Status
Operational

Customer ID
TESTJH

Copyright © 2000-2015 Kaseya International Limited.
All rights reserved.

[Open Source](#)
[Privacy Statement](#)
[Software and Services T&Cs](#)

アウトバウンドEメールをテストする。



1. [システム]>[アウトバウンドEメール]ページに移動します。
2. [テスト]ボタンをクリックし、有効なEメールアドレスを入力して、テストEメールを送信します。
テストEメールが5分以内に届かない場合は、[アウトバウンドEメール]>[ログ]タブを確認します。
3. 自動配送を有効にする前に、選択したEメールの送信をテストする必要があります。[自動配布]が有効の場合、Kaseya Serverにより作成されたEメールは即座に送信されます。[自動配布]が無効の場合、[ログ]タブをクリックしてから、Kaseya Serverにより作成された個々のアウトバウンドEメールを選択し、右クリックして送信する必要があります。

エージェントのインストールテスト

エージェントがVSAに接続可能であることを確認するために、マシンにエージェントをインストールします。

注：VSA にインストールされているエージェントが Kaseya Server エージェントのみの場合は、*最初の*エージェントをインストールし、**Discovery** モジュール『<http://help.kaseya.com/webhelp/JA/KDIS/9000000/index.asp#7293.htm> を見て』を使用してそのエージェントのネットワークをスキャンするように要求するメッセージが通知バーに表示されることがあります。

エージェントを手動でインストールする最速の方法は次のとおりです。

1. エージェントをインストールする任意のマシンにログオンする。
2. そのマシンに次の URL を入力する。
`http://<VSA のアドレス>/dl.asp`
3. デフォルトのインストールパッケージをクリックして、そのマシンへのエージェントのインストールを開始する。
 - その他のインストールパッケージがリストアップされている場合は、必要なインストールパッケージを選択する。
 - インストールが開始されると、その完了を確認するための確定をしなければならない場合があります。
4. 次のアドレスにある VSA にログオンする。
`http://<VSA のアドレス>`
5. VSA 内で、[エージェント] > [エージェントステータス]『<http://help.kaseya.com/webhelp/JA/VSA/9000000/index.asp#250.htm> を見て』]ページを選択する。
 - 作成したばかりのエージェントの新規マシンのアカウントがこのページのリストに表示されます。

注： エージェントのインストールと構成の概要については、『エージェント構成と配置』『http://help.kaseya.com/webhelp/JA/VSA/9000000/JA_agentdeployment_R9.pdf#zoom=70&navpanes=0 を見て』クイックスタートガイドを参照してください。

監査結果のテスト表示

マシンに初めてエージェントをインストールするときには、マシンのすべてのハードウェアおよびソフトウェアコンポーネントに関するインベントリが作成され、VSA にその内容がレポートされます。

エージェントをインストールして数分待ってから、VSA の[監査] > [マシンサマリー]『<http://help.kaseya.com/webhelp/JA/VSA/9000000/index.asp#554.htm> を見て』ページに移動します。この 1 ページに、インストールしたマシンについての監査で返されたすべてのデータが表示されます。

レポート生成のテスト

1. [情報センター] > [レポート] > [レポート]ページに移動します。このページを最初に表示した時は、[レポート]ページのプライベート・ユーザーフォルダが選択されています。
2. [新規] > [レガシーレポート]ボタンをクリックします。
3. [監査] > [ディスク使用]レポートテンプレートを選択します。

4. [次へ]をクリックします。
5. [保存]をクリックします。ディスク使用レポートは、プライベートフォルダに保存されます。
6. 新しいディスク使用レポートについて、[レポートを実行する]をクリックします。
7. [フィルタ]タブで、任意の編成を選択します。
8. [提出]をクリックして、レポートを実行します。レポートは、1分以内に生成されるはずです。
9. [再発]列の一度の横に緑色のチェックボックスのアイコンが表示されている場合、レポートが正常に生成されています。Report Services は、正しく設定されています。アイコンをクリックして、発行されたレポートを表示してみます。VSAによってエージェントが配置されていない場合、レポートにはヘッダーとフッターの情報のみが表示されます。これは正常です。エージェントを配置してから、レポートを再実行すると、ページの本文に結果が表示されます。
10. [再発]列の一度の横に赤色の感嘆符のアイコンが表示されている場合、レポートの生成時にエラーが発生しています。アイコンをクリックすると、エラーに関する詳細なメッセージが表示されます。Reporting Services の設定方法については、このドキュメントの [SQL Server Reporting Services の設定](#) [79 ページ] セクションをガイダンスとして参照してください。

エージェントの更新

既存の VSA をアップデートする場合は、[エージェント] > [\[エージェントの更新\]](#) [http://help.kaseya.com/webhelp/JA/VSA/9000000/index.asp#549.htm] を見て [] ページを使用して、モニタリングに使用するエージェントをすべて v6.5 にアップデートする必要があります。

設定ウィザードの確認

設定ウィザードを使用すると、特定の組織のマシン運営ポリシーの構成および適用が素早くできます。構成が済むと、その組織に代わって自分が管理する各マシンに割り当てられます。ポリシーはマシン管理の多数の側面を管理します。

- スケジューリングの監査
- モニタリング
- 警報
- パッチ管理
- エージェント手順を用いたルーチンマシン管理

ポリシーを用いれば、各マシンを個々に管理する必要がなくなります。ポリシーは割当てまたは変更するだけで済みます。ポリシー割当てまたは割当てポリシー内の変更は、30 分以内にすべてのメンバーのマシンに伝わるため、自分でスケジュールを設定する必要はありません。適用されると、管理対象マシンがそれらの割当てポリシーに適合しているかまたは否かがすぐにわかります。個々のポリシーでコンプライアンス追跡をすると、自分が管理している組織全般にわたって IT サービスが一貫して提供する必要がある情報が判明します。

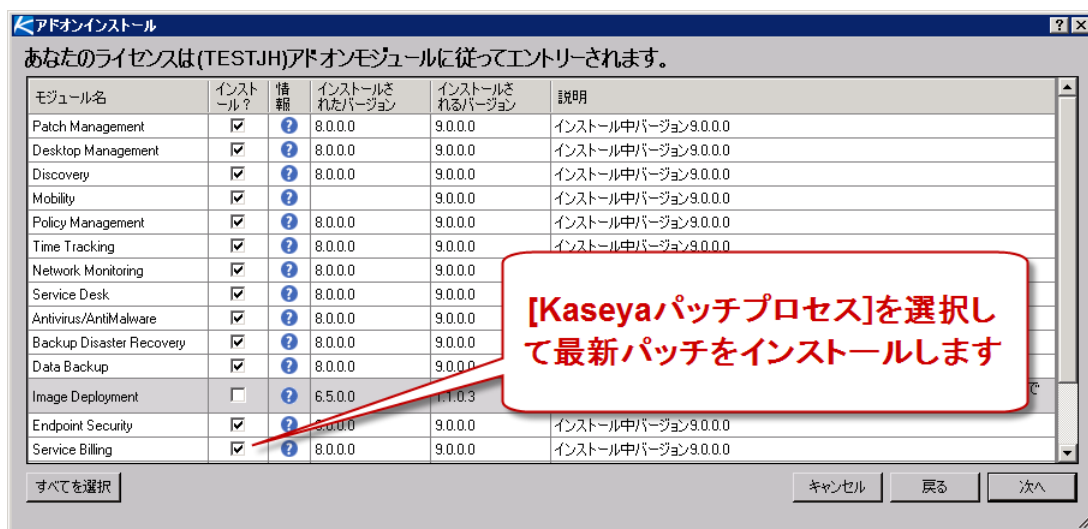
詳細については、[Systems Management Configuration オンラインヘルプ](#) [http://help.kaseya.com/webhelp/JA/SSP/9000000/index.asp#11220.htm] を見て [] を参照してください。

パッチリリースをインストールする

パッチリリースが利用可能になった場合、そのパッチリリースを使用して Kaseya Server をアップデートできます。パッチリリースノート『<http://help.kaseya.com/webhelp/JA/RN/index.asp#PatchReleaseNotes.htm>』を見て』の確認後、次の操作を行います。

1. **Kaseya Server Setup** を再実行します。Kaseya Server のホストシステムで、[スタート]>[すべてのプログラム]>[Kaseya]>[**Kinstall**]『<http://help.kaseya.com/webhelp/JA/VSA/9000000/install/index.asp#home.htm>』を見て』をクリックします。
2. インストールウィザードの手順を実行します。
3. ウィザードの[**アドオンインストール**]ページで、[**Kaseya パッチプロセス**]アドオンを選択します。
4. インストールウィザードの手順を実行します。

注：インストールを再実行すると、Kaseya サービスが再起動します。ホスト環境の速度に応じて、お使いの VSA が約 30～60 分オフラインになります。



インストールの前提条件

Kaseya Server Setup ウィザードは、このセクションで説明するほとんどの前提条件の **9. システムチェックの実行** 『8 ページ』を実行します。

注：SQL Serverを手動でインストールしたか、その予定がある場合は、**SQL:SQL Server**のその他の要件『64 ページ』に記載されている、[システムチェック]でまだテストされていない前提条件のリストを参照してください。

このセクションで

VSA をアップグレードする	23
URL アクセス	24
管理者アクセス	24
画面の解像度	28
オペレーティングシステム	28
ドメインコントローラ	28
Exchange	28
SharePoint	28
Windows アップデート	28
Microsoft .Net Framework	30
Java SE 7	31
IIS 要件	31
メッセージ キュー サービスが (MSMQ)	55
MSMQ アクティブディレクトリコンポーネント	57
SQL の要件	60
RAM がインストールされています	65
ディスクのスペース	65
ファイアウォールのポート	65
Windows Temp フォルダへのアクセス	66
アンチウイルス保護	67

VSA をアップグレードする

Kaseya Server Setup のアップグレードは、VSA のバージョン 6.3 以降からのみ実行できます。お使いの VSA のバージョンが 6.3 より前の場合は、**Kaseya のウェブサイト** 『<http://web.kaseya.com/upgrade-9.html>』を見て』でまず 6.3 へのアップグレード方法を確認してください。次に、**Kaseya Server Setup** を再実行します。『**VSA v6.3 インストール/アップグレードガイド**』『<http://help.kaseya.com/webhelp/EN/VSA/6030000/Install/index.asp?home.htm>』を見て』を確認することもできます。

URL アクセス

http://download.kaseya.com へのアクセス

システムチェックが次の場所にインターネットアクセスができない場合に警告を発します。

- http://download.kaseya.com/download

http://vsaupdate.kaseya.net へのアクセス

システムチェックが次の場所にインターネットアクセスができない場合に警告を発します。

- http://vsaupdate.kaseya.net/vsaupdate

この URL にアクセスすると、VSA およびすべてのアドオンのホットフィックスができます。

http://license.kaseya.net へのアクセス

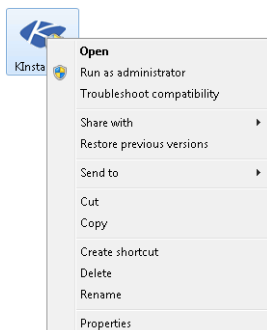
システムチェックが次の場所にインターネットアクセスができない場合に警告を発します。

- http://license.kaseya.net

管理者アクセス

KInstall.exe ウィザードを実行するときには、2 種類の管理者アクセスを検討する必要があります。

1. KInstall.exe の稼働中には、**管理者**としてログオンする必要があります。これはどのオペレーティングシステムの場合でも当てはまります。
2. オペレーティングシステムによっては、KInstall.exe のインストールを開始するときに、KInstall.exe を右クリックし、**[管理者として実行]**オプションを選択しなければならないことがあります。サポートされているオペレーティングシステムでこのことが当てはまるものは次の通りです。
 - Windows 7
 - Windows 8
 - Windows Server 2008
 - Windows Server 2008 R2
 - Windows Server 2012



ユーザーアカウントタイプを管理者に変更する方法は、次のトピックのうちでサポートされている

オペレーティングシステムの項を参照してください。

このセクションで

管理:XP	25
管理:7、8、および 8.1	25
管理:2003 および 2003 R2	26
管理:2008、2008 R2、2012、および 2012 R2	27

管理:XP

KInstall.exe の稼働中には、**管理者**としてログオンする必要があります。これはどのオペレーティングシステムの場合でも当てはまります。

ユーザーアカウントタイプを管理者アカウントに変更する

XP

1. **Windows エクスプローラ**を開きます。
2. **Windows Explorer** アドレスバーから、次の場所にナビゲートします。Control Panel\User Accounts
3. **アカウントの変更**を選択します。
4. 変更するアカウントを選択します。
5. **アカウントの種類の変更**をクリックします。
6. アカウントタイプを**コンピュータ管理者**に変更します。

注： 使用しているユーザーアカウントに、この手順を行うために十分な権限がない場合は、管理者アクセスをもつ別のユーザーとしてログオンし、このユーザーアカウントを変更する必要があります。

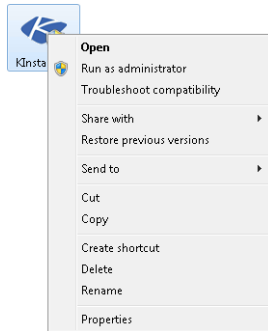
管理:7、8、および 8.1

KInstall.exe ウィザードを実行するときには、2 種類の管理者アクセスを検討する必要があります。

1. KInstall.exe の稼働中には、**管理者**としてログオンする必要があります。これはどのオペレーティングシステムの場合でも当てはまります。
2. オペレーティングシステムによっては、KInstall.exe のインストールを開始するときに、KInstall.exe を右クリックし、**[管理者として実行]**オプションを選択しなければならないことがあります。サポートされているオペレーティングシステムでこのことが当てはまるものは次の通りです。
 - Windows 7、8、および 8.1
 - Windows Server 2008

インストールの前提条件

- Windows Server 2008 R2
- Windows Server 2012



ユーザーアカウントタイプを管理者アカウントに変更する

Windows 7 および 8

1. **Windows エクスプローラ**を開きます。
2. **Windows のエクスプローラー**のアドレスバーから、[コントロール パネル] > [ユーザー アカウントと家族のための安全設定] > [アカウントの種類の変更]に移動します。
3. **アカウントの種類の変更**をクリックします。
4. アカウントタイプを**管理者**に変更します。

注： 使用しているユーザーアカウントに、この手順を行うために十分な権限がない場合は、管理者アクセスをもつ別のユーザーとしてログオンし、このユーザーアカウントを変更する必要があります。

管理:2003 および 2003 R2

KInstall.exe の稼働中には、**管理者**としてログオンする必要があります。これはどのオペレーティングシステムの場合でも当てはまります。

ユーザーアカウントタイプを管理者アカウントに変更する

Windows 2003 および Windows 2003 R2

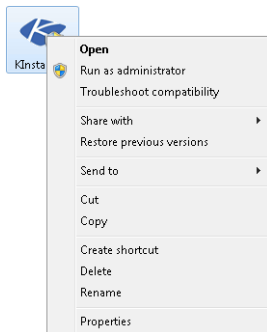
1. **[開始] > [ファイル名を指定して実行]**ダイアログをクリックします。
2. **lusrmgr.msc** を入力します。
3. **ユーザー**フォルダを選択します。
4. 管理者アクセスを与えるユーザー名を右クリックします。
5. **プロパティ**オプションを選択します。
6. **メンバー**タブをクリックします。
7. テキストボックスに「Administrators」と入力し、**[OK]**ボタンをクリックします。

注： 使用しているユーザーアカウントに、この手順を行うために十分な権限がない場合は、管理者アクセスをもつ別のユーザーとしてログオンし、このユーザーアカウントを変更する必要があります。

管理:2008、2008 R2、2012、および 2012 R2

KInstall.exe ウィザードを実行するときには、2 種類の管理者アクセスを検討する必要があります。

1. KInstall.exe の稼働中には、**管理者**としてログオンする必要があります。これはどのオペレーティングシステムの場合でも当てはまります。
2. オペレーティングシステムによっては、KInstall.exe のインストールを開始するときに、KInstall.exe を右クリックし、**[管理者として実行]**オプションを選択しなければならないことがあります。サポートされているオペレーティングシステムでこのことが当てはまるものは次の通りです。
 - Windows 7、8、および 8.1
 - Windows Server 2008
 - Windows Server 2008 R2
 - Windows Server 2012
 - Windows Server 2012 R2



ユーザーアカウントタイプを管理者アカウントに変更する

Windows 2008、Windows 2008 R2およびWindows 2012

1. **Windows エクスプローラ**を開きます。
2. **Windows のエクスプローラ**のアドレスバーから、**[コントロール パネル] > [ユーザー アカウント] > [ユーザー アカウント]**に移動します。
3. **アカウントの種類の変更**をクリックします。
4. アカウントタイプを**管理者**に変更します。

注： 使用しているユーザーアカウントに、この手順を行うために十分な権限がない場合は、管理者アクセスをもつ別のユーザーとしてログオンし、このユーザーアカウントを変更する必要があります。

画面の解像度

Kaseya Server Setup インストーラを使用するには、画面の解像度が 1024x768 ピクセル以上である必要があります。

オペレーティングシステム

Kaseya Server は次のオペレーティングシステムでサポートされています。

- Server 2008、2008 R2、2012、2012 R2
- Windows 8.1、8、7、Vista、および XP Pro は評価の目的でのみ、Kaseya エージェントが 5 つ以下のシステムでサポートされています。

詳細は **システム要件** 『

<http://help.kaseya.com/WebHelp/EN/VSA/9000000/reqs/index.asp#home.htm> を見て 』を参照してください。

ドメインコントローラ

ドメインコントローラとして構成されているシステムに Kaseya Server をインストールすることはできません。

Exchange

Microsoft Exchange Server を実行するように構成されているシステムに、Kaseya Server をインストールすることはできません。

SharePoint

Microsoft SharePoint がインストールされているシステムに、Kaseya Server をインストールすることはできません。

Windows アップデート

Windows Update が 14 日以内に実行されていない場合、**システムチェック** から警告が発せられます。

Windows アップデート:XP、2003 および 2003 R2

Windows Update が 14 日以内に実行されていない場合、**システムチェック** から警告が発せられます。

Windows Update のチェック

Windows XP、Windows 2003 および Windows 2003 R2

1. **スタート**をクリックします。
2. **Windows Update** をクリックします。
3. 何らかの重要なアップデートが利用可能な場合は、**今すぐインストール**をクリックします。

注：アップデートの種類によっては、システムをリブートしてから、**Kaseya Server Setup** を再起動しなければならない場合があります。

Windows アップデート:7、2008 および 2008 R2

Windows Update が 14 日以内に実行されていない場合、**システムチェック**から警告が発せられます。

Windows Update のチェック

Windows 7

1. [スタート] > [プログラムとファイルの検索] に、「Windows Update」と入力します。
2. **アップデートのチェック**をクリックします。
3. 何らかの重要なアップデートが利用可能な場合は、**アップデートのインストール**をクリックします。

注：アップデートの種類によっては、システムをリブートしてから、**Kaseya Server Setup** を再起動しなければならない場合があります。

Windows アップデート:8、8.1、2012、および 2012 R2

Windows Update が 14 日以内に実行されていない場合、**システムチェック**から警告が発せられます。

Windows Update のチェック

Windows 8、8.1、2012、および 2012 R2

1. **エクスプローラ**を開きます。
2. **エクスプローラー**のアドレスバーから、[コントロール パネル] > [すべてのコントロール パネル項目] > [Windows Update] に移動します。
3. **アップデートのチェック**をクリックします。
4. 何らかの重要なアップデートが利用可能な場合は、**アップデートのインストール**をクリックします。

注：アップデートの種類によっては、システムをリブートしてから、**Kaseya Server Setup** を再起動しなければならない場合があります。

Microsoft .Net Framework

Kaseya Server には、3 種類の Microsoft .NET Framework が必要です。

- Microsoft .Net Framework 2.0 Service Pack 2 またはそれ以降
- Microsoft .Net Framework 3.5 Service Pack 1 またはそれ以降
- Microsoft .Net Framework 4.0 Service Pack 1 またはそれ以降

これらの欠落している前提条件の横にある[修正]リンクをクリックすると、**Kaseya Server Setup** ウィザードによりそれらのアイテムがインストールされます。

DotNet:バージョン 2.0

Microsoft .NET Framework 2.0 は、ソフトウェアフレームワークと、VSA およびいくつかのアドオン製品で使用されるライブラリセットで構成されます。この欠落している前提条件の横にある[修正]リンクをクリックすると、**Kaseya Server Setup** により修正が実行されます。

DotNet Framework 2.0 を手動でインストールするには

1. **Microsoft .NET Framework 2.0 Service Pack 2** 『<http://www.microsoft.com/download/en/details.aspx?id=1639>』を見て 『』からご使用のオペレーティングシステムに合ったパッケージをダウンロードします。
2. .NET Frameworks のサービスパックが `\Windows\Microsoft.NET\Framework` ディレクトリにインストールされていることを確認します。

DotNet:バージョン 3.5

Microsoft .NET Framework 3.5 は、ソフトウェアフレームワークと、VSA およびいくつかのアドオン製品で使用されるライブラリセットで構成されます。インストールされていない場合、**Kaseya Server Setup** により自動的にインストールされます。この欠落している前提条件の横にある[修正]リンクをクリックすると、**Kaseya Server Setup** により修正が実行されます。

DotNet Framework 3.5 を手動でインストールするには

1. **Microsoft .NET Framework 3.5 Service Pack 1** (フルパッケージ) 『<http://www.microsoft.com/download/en/details.aspx?id=25150>』を見て 『』からパッケージをダウンロードします。
2. .NET Frameworks のサービスパックが `\Windows\Microsoft.NET\Framework` ディレクトリにインストールされていることを確認します。

DotNet:2008 R2 のバージョン 3.5

Microsoft .NET Framework 3.5 は、ソフトウェアフレームワークと、VSA およびいくつかのアドオン製品で使用されるライブラリセットで構成されます。インストールされていない場合、**Kaseya Server Setup** により自動的にインストールされます。この欠落している前提条件の横にある[修正]リンクをクリックすると、**Kaseya Server Setup** により修正が実行されます。

DotNet Framework 3.5 を 2008 R2 に手動でインストールするには

DotNet Framework 3.5 は、2008 R2 の機能として有効になります。この機能を有効にするには

1. [管理ツール]>[サーバーマネージャ]に移動します。
2. [機能]をクリックします。

3. **機能の追加**リンクをクリックします。
 - **機能の追加ウィザード**が表示されます。
4. **.Net Framework 3.5.1 Features**にチェックを入れます。
 - **必要な役割サービスを追加**が表示されたらこれをクリックします。
5. [次へ]を3回クリックします。
6. **インストール**をクリックします。インストールウィザードがインストールを完了するまで待機します。
7. **閉じる**をクリックします。
8. .NET Frameworks のサービスパックが\Windows\Microsoft.NET\Framework ディレクトリにインストールされていることを確認します。

DotNet:バージョン 4.0

Microsoft .NET Framework 4.0は、ソフトウェアフレームワークと、VSA およびいくつかのアドオン製品で使用されるライブラリセットで構成されます。インストールされていない場合、**Kaseya Server Setup**により自動的にインストールされます。この欠落している前提条件の横にある[修正]リンクをクリックすると、**Kaseya Server Setup**により修正が実行されます。

DotNet Framework 4.0 を手動でインストールするには

1. **Microsoft .NET Framework 4** (スタンドアロンインストーラー) 『<http://www.microsoft.com/download/en/details.aspx?id=17718> を見て 』 からパッケージをダウンロードします。
2. .NET Frameworks のサービスパックが\Windows\Microsoft.NET\Framework ディレクトリにインストールされていることを確認します。

Java SE 7

Kaseya Server R9 には、Java SE 7、アップデート 51 以降が必要です。Java パッケージがインストールされていない場合、システムチェックにより、インストールやアップグレードが継続的な実行が妨げられます。

1. システムに適する **Java パッケージをダウンロードしてインストールする** 『<http://www.oracle.com/technetwork/java/javase/downloads/jre7-downloads-1880261.html> を見て 』 必要があります。
 - このタスクは、[システムチェック]で自動実行されません。
 - このタスクの実行中に、**Kaseya Server Setup** を無効にする必要はありません。
2. 必要に応じて、[システムチェック]の[稼動テスト]ボタンをクリックして2回目のテストを行い、**Java のバージョン**テストに合格することを確認します。

IIS 要件

次のインターネットインフォメーションサービス (IIS) の前提条件が **Kaseya Server Setup** に適用されます。

これらの欠落している前提条件の横にある[修正]リンクをクリックすると、**Kaseya Server Setup** ウィザードによりそれらのアイテムがインストールされます。

インストールの前提条件

注：オペレーティングシステムによっては、IIS のインストールに 20 分～1 時間かかる場合があります。

このセクションで

IIS インストール完了	32
IIS ロールサービス	39
IIS アプリケーションプール	46
IIS ハンドラーマッピング	46
IIS SSL セキュリティ設定	46
IIS の HTTP のバインド	48
IIS のポートチェック	48
'デフォルトウェブサイトはウェブサイト 1 です。	49
ASP.NET State Service	51
IIS IP アドレスとドメインの制限	54
Localhost/127.0.0.1	54

IIS インストール完了

Kaseya Server に、インターネットインフォメーションサービス (IIS) をインストールする必要があります。

この欠落している前提条件の横にある[\[修正\]](#)リンクをクリックすると、**Kaseya Server Setup** により修正が実行されます。

注：オペレーティングシステムによっては、IIS のインストールに 20 分～1 時間かかる場合があります。

IIS:XP

Kaseya Server に、インターネットインフォメーションサービス (IIS) をインストールする必要があります。

この欠落している前提条件の横にある[\[修正\]](#)リンクをクリックすると、**Kaseya Server Setup** により修正が実行されます。

注：オペレーティングシステムによっては、IIS のインストールに 20 分～1 時間かかる場合があります。追加の IIS コンポーネントをインストールするには、XP インストールディスクを挿入する必要があります。

IIS:7

Kaseya Server に、インターネットインフォメーションサービス (IIS) をインストールする必要があります。

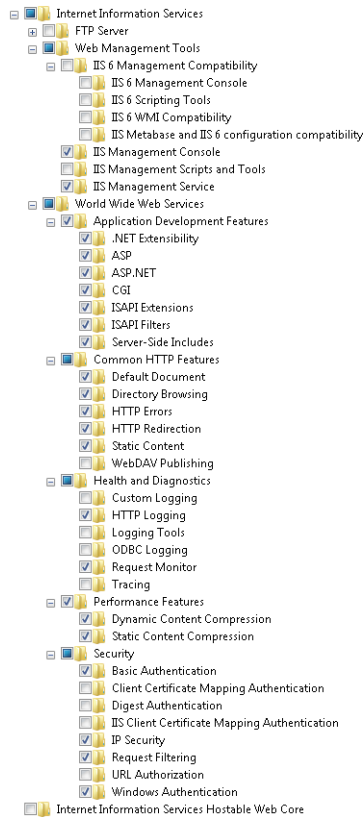
この欠落している前提条件の横にある[\[修正\]](#)リンクをクリックすると、**Kaseya Server Setup** により修正が実行されます。

注：オペレーティングシステムによっては、IIS のインストールに 20 分～1 時間かかる場合があります。

Windows 7 に IIS を手動でインストールする

1. **Windows エクスプローラ**を開きます。
2. **Windows のエクスプローラー**のアドレスバーから、`[コントロール パネル] > [プログラム] > [プログラムと機能]`に移動します。

3. **[Windows の機能を有効化または無効化]**をクリックします。
4. ボックスをチェックして、**[Internet Information Services (IIS)]**を選択します。
5. **[World Wide Web サービス]**を展開します。
6. 次のオプションにチェックが入れられていることを確認してください。



OK をクリック。

IIS のすべてのバージョンの確認

`http://localhost` をブラウザして、IIS の動作を確認します。お使いの IIS のバージョンによっては、IIS 6 の Under Construction というラベルのページが表示されるか、IIS 7 または IIS 8 のロゴのページが表示されます。「このページは表示できません」や「サーバーが見つかりません」などのメッセージがブラウザに表示された場合、IIS は正しく設定されていません。この場合は、KInstall.exe のインストールを進めないでください。IIS がインストールされて、正しく設定されていないと、インストールは失敗します。

プロキシサーバーの確認がチェックされていない

ウェブブラウザを開いた状態で、サーバーがプロキシサーバーを経由してインターネットにアクセスするように設定されて「いない」ことを確認します。以下のステップに従ってください。

1. ブラウザのメニューバーの**ツール**または歯車アイコンを選択します。
2. **[インターネットオプション]** を選択します。
3. **[接続]**タブで、**[LAN の設定]**ボタンを設定して
4. **[プロキシサーバーのオプション]**がチェックされて「いない」ことを確認します。

インストールの前提条件

IIS:8 および 8.1

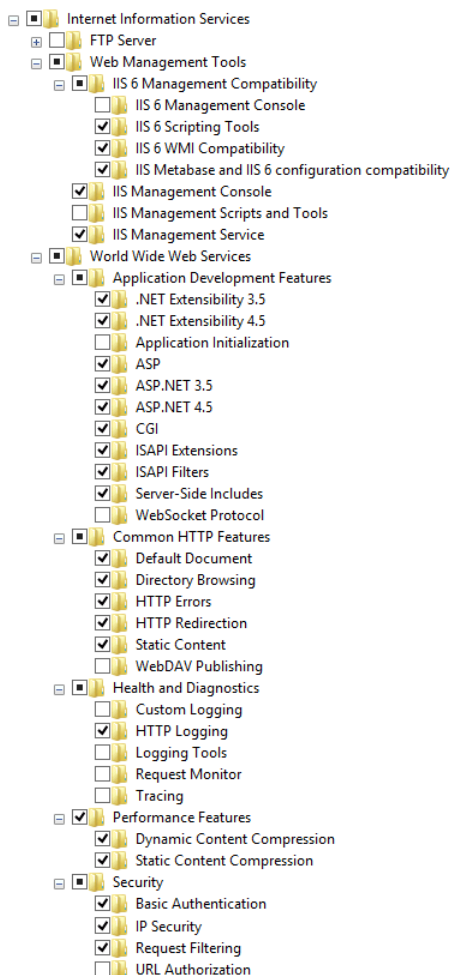
Kaseya Server に、インターネットインフォメーションサービス (IIS) をインストールする必要があります。

この欠落している前提条件の横にある[\[修正\]](#)リンクをクリックすると、**Kaseya Server Setup** により修正が実行されます。

注：オペレーティングシステムによっては、IIS のインストールに 20 分～1 時間かかる場合があります。

Windows 8 および 8.1 に手動で IIS をインストールする

1. **Windows エクスプローラ**を開きます。
2. **Windows のエクスプローラー**のアドレスバーから、**[コントロール パネル] > [プログラム] > [プログラムと機能]**に移動します。
3. **[Windows の機能を有効化または無効化]**をクリックします。
4. ボックスをチェックして、**[Internet Information Services (IIS)]**を選択します。
5. **[World Wide Web サービス]**を展開します。
6. 次のオプションにチェックが入れていることを確認してください。



OK をクリック。

IIS のすべてのバージョンの確認

http://localhost をブラウザして、IIS の動作を確認します。お使いの IIS のバージョンによっては、IIS 6 の Under Construction というラベルのページが表示されるか、IIS 7 または IIS 8 のロゴのページが表示されます。「このページは表示できません」や「サーバーが見つかりません」などのメッセージがブラウザに表示された場合、IIS は正しく設定されていません。この場合は、KInstall.exe のインストールを進めないでください。IIS がインストールされて、正しく設定されていないと、インストールは失敗します。

プロキシサーバーの確認がチェックされていない

ウェブブラウザを開いた状態で、サーバーがプロキシサーバーを経由してインターネットにアクセスするように設定されて「いない」ことを確認します。以下のステップに従ってください。

1. ブラウザのメニューバーの **ツール** または歯車アイコンを選択します。
2. **[インターネットオプション]** を選択します。
3. **[接続]** タブで、**[LAN の設定]** ボタンを設定して
4. **[プロキシサーバーのオプション]** がチェックされて「いない」ことを確認します。

IIS:2003 および 2003 R2

Kaseya Server に、インターネットインフォメーションサービス (IIS) をインストールする必要があります。

この欠落している前提条件の横にある **[修正]** リンクをクリックすると、**Kaseya Server Setup** により修正が実行されます。

注：オペレーティングシステムによっては、IIS のインストールに 20 分～1 時間かかる場合があります。

IIS のすべてのバージョンの確認

http://localhost をブラウザして、IIS の動作を確認します。お使いの IIS のバージョンによっては、IIS 6 の Under Construction というラベルのページが表示されるか、IIS 7 または IIS 8 のロゴのページが表示されます。「このページは表示できません」や「サーバーが見つかりません」などのメッセージがブラウザに表示された場合、IIS は正しく設定されていません。この場合は、KInstall.exe のインストールを進めないでください。IIS がインストールされて、正しく設定されていないと、インストールは失敗します。

プロキシサーバーの確認がチェックされていない

ウェブブラウザを開いた状態で、サーバーがプロキシサーバーを経由してインターネットにアクセスするように設定されて「いない」ことを確認します。以下のステップに従ってください。

1. ブラウザのメニューバーの **ツール** または歯車アイコンを選択します。
2. **[インターネットオプション]** を選択します。
3. **[接続]** タブで、**[LAN の設定]** ボタンを設定して
4. **[プロキシサーバーのオプション]** がチェックされて「いない」ことを確認します。

IIS:2008 および 2008 R2

Kaseya Server に、インターネットインフォメーションサービス (IIS) をインストールする必要があります。

この欠落している前提条件の横にある **[修正]** リンクをクリックすると、**Kaseya Server Setup** により

インストールの前提条件

修正が実行されます。

注：オペレーティングシステムによっては、IIS のインストールに 20 分～1 時間かかる場合があります。

Windows 2008 および 2008 R2 に手動で IIS をインストールする

1. **スタート**をクリックします。
2. **[プログラムとファイルの検索]**の編集ボックスに「**サーバーマネージャ**」と入力します。
3. **[役割]**をクリックします。
4. **[役割の追加]**リンクをクリックします。
 - **役割の追加ウィザード**が表示されます。
5. **次へ**をクリックして**サーバー役割**ページを表示させます。
6. **Web サーバー (IIS)**にチェックを入れ、**次へ**をクリックします。
 - **必要な機能を追加**が表示されたらこれをクリックします。
7. **次へ**を 2 回クリックして**役割サービス**ページを表示させます。
 - **必要な機能を追加**が表示されたらこれをクリックします。
8. 下記に示すオプションをすべて選択します。

Role Service	Status
Web Server	Installed
Common HTTP Features	Installed
Static Content	Installed
Default Document	Installed
Directory Browsing	Installed
HTTP Errors	Installed
HTTP Redirection	Installed
Application Development	Installed
ASP.NET	Installed
.NET Extensibility	Installed
ASP	Installed
CGI	Installed
ISAPI Extensions	Installed
ISAPI Filters	Installed
Server Side Includes	Installed
Health and Diagnostics	Installed
HTTP Logging	Installed
Logging Tools	Not installed
Request Monitor	Not installed
Tracing	Not installed
Custom Logging	Not installed
ODBC Logging	Not installed
Security	Installed
Basic Authentication	Installed
Windows Authentication	Installed
Digest Authentication	Not installed
Client Certificate Mapping Authentication	Not installed
IIS Client Certificate Mapping Authentication	Not installed
URL Authorization	Not installed
Request Filtering	Installed
IP and Domain Restrictions	Installed
Performance	Installed
Static Content Compression	Installed
Dynamic Content Compression	Installed
Management Tools	Installed
IIS Management Console	Installed
IIS Management Scripts and Tools	Not installed
Management Service	Not installed
IIS 6 Management Compatibility	Not installed
IIS 6 Metabase Compatibility	Not installed
IIS 6 WMI Compatibility	Not installed
IIS 6 Scripting Tools	Not installed
IIS 6 Management Console	Not installed
FTP Publishing Service	Not installed
FTP Server	Not installed
FTP Management Console	Not installed

9. **[次へ]**、**[インストール]**をクリックします。
 - インストールが完了するのを待機します。

10. **閉じる**をクリックします。

IIS のすべてのバージョンの確認

http://localhost をブラウザして、IIS の動作を確認します。お使いの IIS のバージョンによっては、IIS 6 の Under Construction というラベルのページが表示されるか、IIS 7 または IIS 8 のロゴのページが表示されます。「このページは表示できません」や「サーバーが見つかりません」などのメッセージがブラウザに表示された場合、IIS は正しく設定されていません。この場合は、KInstall.exe のインストールを進めないでください。IIS がインストールされて、正しく設定されていないと、インストールは失敗します。

プロキシサーバーの確認がチェックされていない

ウェブブラウザを開いた状態で、サーバーがプロキシサーバーを経由してインターネットにアクセスするように設定されて「いない」ことを確認します。以下のステップに従ってください。

1. ブラウザのメニューバーの**ツール**または歯車  アイコンを選択します。
2. **[インターネットオプション]** を選択します。
3. **[接続]** タブで、**[LAN の設定]** ボタンを設定して
4. **[プロキシサーバーのオプション]** がチェックされて「いない」ことを確認します。

IIS:2012 および 2012 R2

Kaseya Server に、インターネットインフォメーションサービス (IIS) をインストールする必要があります。

この欠落している前提条件の横にある**[修正]**リンクをクリックすると、**Kaseya Server Setup** により修正が実行されます。

注：オペレーティングシステムによっては、IIS のインストールに 20 分～1 時間かかる場合があります。

Windows 2012、2012 R2 に手動で IIS をインストールする

1. **サーバー管理**をクリックします。
2. **ダッシュボード**をクリックします。
3. **役割と機能の追加**をクリックします。
 - **役割と機能の追加ウィザード**が表示されます。
4. **次へ**をクリックして**サーバー役割**ページを表示させます。
5. **Web サーバー (IIS)**オプションを展開します。

インストールの前提条件

6. 下記に示すオプションをすべて選択します。

- ☒ Web Server (IIS) (Installed)
 - ☒ Web Server (Installed)
 - ☒ Common HTTP Features (Installed)
 - ☒ Default Document (Installed)
 - ☒ Directory Browsing (Installed)
 - ☒ HTTP Errors (Installed)
 - ☒ Static Content (Installed)
 - ☒ HTTP Redirection (Installed)
 - ☐ WebDAV Publishing
 - ☒ Health and Diagnostics (Installed)
 - ☒ HTTP Logging (Installed)
 - ☐ Custom Logging
 - ☐ Logging Tools
 - ☐ ODBC Logging
 - ☐ Request Monitor
 - ☐ Tracing
 - ☒ Performance (Installed)
 - ☒ Static Content Compression (Installed)
 - ☒ Dynamic Content Compression (Installed)
 - ☒ Security (Installed)
 - ☒ Request Filtering (Installed)
 - ☒ Basic Authentication (Installed)
 - ☐ Centralized SSL Certificate Support
 - ☐ Client Certificate Mapping Authentication
 - ☐ Digest Authentication
 - ☐ IIS Client Certificate Mapping Authentication
 - ☒ IP and Domain Restrictions (Installed)
 - ☐ URL Authorization
 - ☐ Windows Authentication
 - ☒ Application Development (Installed)
 - ☒ .NET Extensibility 3.5 (Installed)
 - ☒ .NET Extensibility 4.5 (Installed)
 - ☐ Application Initialization
 - ☒ ASP (Installed)
 - ☒ ASP.NET 3.5 (Installed)
 - ☒ ASP.NET 4.5 (Installed)
 - ☒ CGI (Installed)
 - ☒ ISAPI Extensions (Installed)
 - ☒ ISAPI Filters (Installed)
 - ☒ Server Side Includes (Installed)
 - ☐ WebSocket Protocol
 - ☐ FTP Server
 - ☐ IIS Hostable Web Core
 - ☒ Management Tools (Installed)
 - ☒ IIS Management Console (Installed)
 - ☒ IIS 6 Management Compatibility (Installed)
 - ☒ IIS 6 Metabase Compatibility (Installed)
 - ☐ IIS 6 Management Console
 - ☒ IIS 6 Scripting Tools (Installed)
 - ☒ IIS 6 WMI Compatibility (Installed)
 - ☐ IIS Management Scripts and Tools
 - ☒ Management Service (Installed)
 - ☐ Windows Deployment Services
 - ☐ Windows Server Update Services

7. [次へ]、[インストール]をクリックします。

- インストールが完了するのを待機します。

8. 閉じるをクリックします。

IISのすべてのバージョンの確認

http://localhost をブラウザして、IIS の動作を確認します。お使いの IIS のバージョンによっては、IIS 6 の Under Construction というラベルのページが表示されるか、IIS 7 または IIS 8 のロゴのページが表示されます。「このページは表示できません」や「サーバーが見つかりません」などのメッセージがブラウザに表示された場合、IIS は正しく設定されていません。この場合は、KInstall.exe のインストールを進めないでください。IIS がインストールされて、正しく設定されていないと、インストールは失敗します。

プロキシサーバーの確認がチェックされていない

ウェブブラウザを開いた状態で、サーバーがプロキシサーバーを経由してインターネットにアクセスするように設定されて「いない」ことを確認します。以下のステップに従ってください。

1. ブラウザのメニューバーの**ツール**または歯車  アイコンを選択します。
2. **[インターネットオプション]** を選択します。
3. **[接続]** タブで、**[LAN の設定]** ボタンを設定して
4. **[プロキシサーバーのオプション]** がチェックされて「いない」ことを確認します。

IIS ロールサービス

Kaseya Server を使用するには、特定のオペレーティングシステム用に特定の IIS の役割サービスをインストールする必要があります。

この欠落している前提条件の横にある**[修正]**リンクをクリックすると、**Kaseya Server Setup** により修正が実行されます。

注： IIS の役割サービスは、XP の全バージョンおよび 2003 の全バージョンに適用されません。

このセクションで

IIS ロールサービス:7	39
IIS ロールサービス:8 および 8.1	40
IIS:2003 および 2003 R2	42
IIS ロールサービス:2008 および 2008 R2	42
IIS ロールサービス:2012 および 2012 R2	44

IIS ロールサービス:7

Kaseya Server を使用するには、特定の IIS の役割サービスをインストールする必要があります。

この欠落している前提条件の横にある**[修正]**リンクをクリックすると、**Kaseya Server Setup** により修正が実行されます。

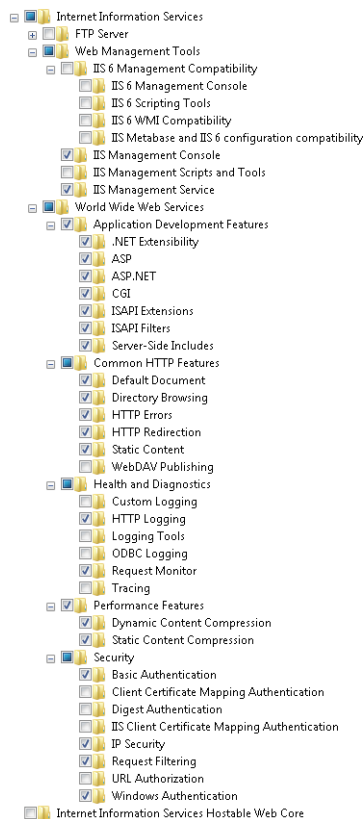
注： オペレーティングシステムによっては、IIS のインストールに 20 分～1 時間かかる場合があります。

Windows 7 に IIS ロールサービスを手動でインストールする

1. **Windows エクスプローラ**を開きます。
2. **Windows のエクスプローラー**のアドレスバーから、**[コントロール パネル] > [プログラム] > [プログラムと機能]**に移動します。
3. **[Windows の機能を有効化または無効化]**をクリックします。
4. ボックスをチェックして、**[Internet Information Services (IIS)]**を選択します。
5. **[World Wide Web サービス]**を展開します。

インストールの前提条件

6. 次のオプションにチェックが入れていることを確認してください。



7. **OK** をクリック。

IIS のすべてのバージョンの確認

`http://localhost` をブラウザして、IIS の動作を確認します。お使いの IIS のバージョンによっては、IIS 6 の **Under Construction** というラベルのページが表示されるか、IIS 7 または IIS 8 のロゴのページが表示されます。「このページは表示できません」や「サーバーが見つかりません」などのメッセージがブラウザに表示された場合、IIS は正しく設定されていません。この場合は、**KInstall.exe** のインストールを進めないでください。IIS がインストールされて、正しく設定されていないと、インストールは失敗します。

プロキシサーバーの確認がチェックされていない

ウェブブラウザを開いた状態で、サーバーがプロキシサーバーを経由してインターネットにアクセスするように設定されて「いない」ことを確認します。以下のステップに従ってください。

1. ブラウザのメニューバーの**ツール**または歯車アイコンを選択します。
2. **[インターネットオプション]** を選択します。
3. **[接続]** タブで、**[LAN の設定]** ボタンを設定して
4. **[プロキシサーバーのオプション]** がチェックされて「いない」ことを確認します。

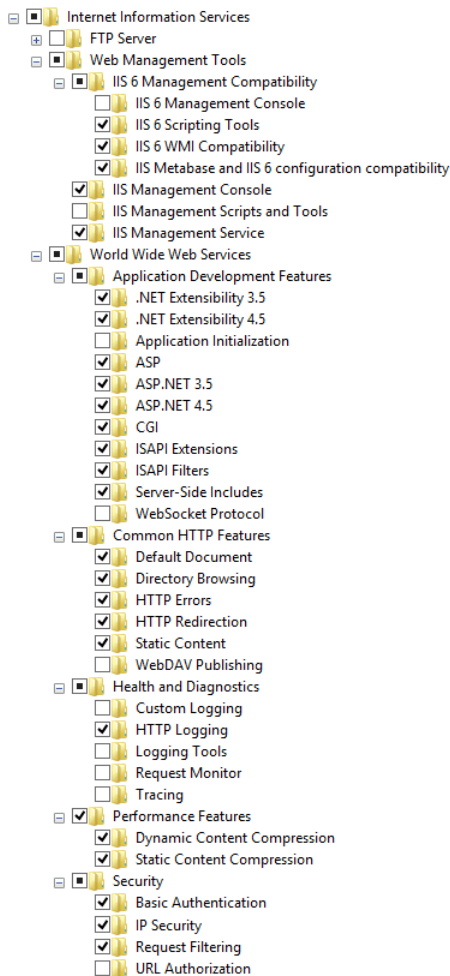
IIS ロールサービス:8 および 8.1

Kaseya Server を使用するには、特定の IIS の役割サービスをインストールする必要があります。この欠落している前提条件の横にある**[修正]**リンクをクリックすると、**Kaseya Server Setup** により修正が実行されます。

注：オペレーティングシステムによっては、IIS のインストールに 20 分～1 時間かかる場合があります。

Windows 8 に IIS ロールサービスを手動でインストールする

1. Windows エクスプローラを開きます。
2. Windows のエクスプローラーのアドレスバーから、[コントロール パネル] > [プログラム] > [プログラムと機能] に移動します。
3. [Windows の機能を有効化または無効化] をクリックします。
4. ボックスをチェックして、[Internet Information Services (IIS)] を選択します。
5. [World Wide Web サービス] を展開します。
6. 次のオプションにチェックが入れていることを確認してください。



7. OK をクリック。

IIS のすべてのバージョンの確認

http://localhost をブラウザして、IIS の動作を確認します。お使いの IIS のバージョンによっては、IIS 6 の Under Construction というラベルのページが表示されるか、IIS 7 または IIS 8 のロゴのページが表示されます。「このページは表示できません」や「サーバーが見つかりません」などのメッセージがブラウザに表示された場合、IIS は正しく設定されていません。この場合は、KInstall.exe のインストールを進めないでください。IIS がインストールされて、正しく設定されていないと、インストールは失敗します。

インストールの前提条件

プロキシサーバーの確認がチェックされていない

ウェブブラウザを開いた状態で、サーバーがプロキシサーバーを経由してインターネットにアクセスするように設定されて「いない」ことを確認します。以下のステップに従ってください。

1. ブラウザのメニューバーの**ツール**または歯車アイコンを選択します。
2. **[インターネットオプション]** を選択します。
3. **[接続]** タブで、**[LAN の設定]** ボタンを設定して
4. **[プロキシサーバーのオプション]** がチェックされて「いない」ことを確認します。

IIS:2003 および 2003 R2

Kaseya Server に、インターネットインフォメーションサービス (IIS) をインストールする必要があります。

この欠落している前提条件の横にある**[修正]**リンクをクリックすると、**Kaseya Server Setup** により修正が実行されます。

注：オペレーティングシステムによっては、IIS のインストールに 20 分～1 時間かかる場合があります。

IIS のすべてのバージョンの確認

http://localhost をブラウザして、IIS の動作を確認します。お使いの IIS のバージョンによっては、IIS 6 の Under Construction というラベルのページが表示されるか、IIS 7 または IIS 8 のロゴのページが表示されます。「このページは表示できません」や「サーバーが見つかりません」などのメッセージがブラウザに表示された場合、IIS は正しく設定されていません。この場合は、KInstall.exe のインストールを進めないでください。IIS がインストールされて、正しく設定されていないと、インストールは失敗します。

プロキシサーバーの確認がチェックされていない

ウェブブラウザを開いた状態で、サーバーがプロキシサーバーを経由してインターネットにアクセスするように設定されて「いない」ことを確認します。以下のステップに従ってください。

1. ブラウザのメニューバーの**ツール**または歯車アイコンを選択します。
2. **[インターネットオプション]** を選択します。
3. **[接続]** タブで、**[LAN の設定]** ボタンを設定して
4. **[プロキシサーバーのオプション]** がチェックされて「いない」ことを確認します。

IIS ロールサービス:2008 および 2008 R2

Kaseya Server を使用するには、特定の IIS の役割サービスをインストールする必要があります。

この欠落している前提条件の横にある**[修正]**リンクをクリックすると、**Kaseya Server Setup** により修正が実行されます。

注：オペレーティングシステムによっては、IIS のインストールに 20 分～1 時間かかる場合があります。

Windows 2008 および 2008 R2 に手動で IIS ロールサービスをインストールする

1. **[管理ツール]>[サーバーマネージャ]**に移動します。
2. **[役割]**をクリックします。
3. **[役割の追加]**リンクをクリックします。

- **役割の追加ウィザード**が表示されます。
- 4. **次へ**をクリックして**サーバー役割**ページを表示させます。
- 5. **Web サーバー (IIS)**にチェックを入れ、**次へ**をクリックします。
 - **必要な機能を追加**が表示されたらこれをクリックします。
- 6. **次へ**を 2 回クリックして**役割サービス**ページを表示させます。
 - **必要な機能を追加**が表示されたらこれをクリックします。
- 7. 下記に示すオプションをすべて選択します。

Role Service	Status
Web Server	Installed
Common HTTP Features	Installed
Static Content	Installed
Default Document	Installed
Directory Browsing	Installed
HTTP Errors	Installed
HTTP Redirection	Installed
Application Development	Installed
ASP.NET	Installed
.NET Extensibility	Installed
ASP	Installed
CGI	Installed
ISAPI Extensions	Installed
ISAPI Filters	Installed
Server Side Includes	Installed
Health and Diagnostics	Installed
HTTP Logging	Installed
Logging Tools	Not installed
Request Monitor	Not installed
Tracing	Not installed
Custom Logging	Not installed
ODBC Logging	Not installed
Security	Installed
Basic Authentication	Installed
Windows Authentication	Installed
Digest Authentication	Not installed
Client Certificate Mapping Authentication	Not installed
IIS Client Certificate Mapping Authentication	Not installed
URL Authorization	Not installed
Request Filtering	Installed
IP and Domain Restrictions	Installed
Performance	Installed
Static Content Compression	Installed
Dynamic Content Compression	Installed
Management Tools	Installed
IIS Management Console	Installed
IIS Management Scripts and Tools	Not installed
Management Service	Not installed
IIS 6 Management Compatibility	Not installed
IIS 6 Metabase Compatibility	Not installed
IIS 6 WMI Compatibility	Not installed
IIS 6 Scripting Tools	Not installed
IIS 6 Management Console	Not installed
FTP Publishing Service	Not installed
FTP Server	Not installed
FTP Management Console	Not installed

- 8. **[次へ]**、**[インストール]**をクリックします。
 - インストールが完了するのを待機します。
- 9. **閉じる**をクリックします。

IIS のすべてのバージョンの確認

http://localhost をブラウザして、IIS の動作を確認します。お使いの IIS のバージョンによっては、IIS 6 の Under Construction というラベルのページが表示されるか、IIS 7 または IIS 8 のロゴのページが表示されます。「このページは表示できません」や「サーバーが見つかりません」などのメッセージがブラウザに表示された場合、IIS は正しく設定されていません。この場合は、KInstall.exe のインストールを進めないでください。IIS がインストールされて、正しく設定されていないと、インストールは失敗します。

インストールの前提条件

プロキシサーバーの確認がチェックされていない

ウェブブラウザを開いた状態で、サーバーがプロキシサーバーを経由してインターネットにアクセスするように設定されて「いない」ことを確認します。以下のステップに従ってください。

1. ブラウザのメニューバーの**ツール**または歯車アイコンを選択します。
2. **[インターネットオプション]** を選択します。
3. **[接続]**タブで、**[LAN の設定]**ボタンを設定して
4. **[プロキシサーバーのオプション]**がチェックされて「いない」ことを確認します。

IIS ロールサービス:2012 および 2012 R2

Kaseya Server を使用するには、特定の IIS の役割サービスをインストールする必要があります。

この欠落している前提条件の横にある**[修正]**リンクをクリックすると、**Kaseya Server Setup**により修正が実行されます。

注：オペレーティングシステムによっては、IIS のインストールに 20 分～1 時間かかる場合があります。

Windows 2012 および 2012 R2 に手動で IIS をインストールする

1. **サーバー管理**をクリックします。
2. **ダッシュボード**をクリックします。
3. **役割と機能の追加**をクリックします。
 - **役割と機能の追加ウィザード**が表示されます。
4. **次へ**をクリックして**サーバー役割**ページを表示させます。
5. **Web サーバー (IIS)**オプションを展開します。

6. 下記に示すオプションをすべて選択します。

- ☒ Web Server (IIS) (Installed)
 - ☒ Web Server (Installed)
 - ☒ Common HTTP Features (Installed)
 - ☒ Default Document (Installed)
 - ☒ Directory Browsing (Installed)
 - ☒ HTTP Errors (Installed)
 - ☒ Static Content (Installed)
 - ☒ HTTP Redirection (Installed)
 - ☐ WebDAV Publishing
 - ☒ Health and Diagnostics (Installed)
 - ☒ HTTP Logging (Installed)
 - ☐ Custom Logging
 - ☐ Logging Tools
 - ☐ ODBC Logging
 - ☐ Request Monitor
 - ☐ Tracing
 - ☒ Performance (Installed)
 - ☒ Static Content Compression (Installed)
 - ☒ Dynamic Content Compression (Installed)
 - ☒ Security (Installed)
 - ☒ Request Filtering (Installed)
 - ☒ Basic Authentication (Installed)
 - ☐ Centralized SSL Certificate Support
 - ☐ Client Certificate Mapping Authentication
 - ☐ Digest Authentication
 - ☐ IIS Client Certificate Mapping Authentication
 - ☒ IP and Domain Restrictions (Installed)
 - ☐ URL Authorization
 - ☐ Windows Authentication
 - ☒ Application Development (Installed)
 - ☒ .NET Extensibility 3.5 (Installed)
 - ☒ .NET Extensibility 4.5 (Installed)
 - ☐ Application Initialization
 - ☒ ASP (Installed)
 - ☒ ASP.NET 3.5 (Installed)
 - ☒ ASP.NET 4.5 (Installed)
 - ☒ CGI (Installed)
 - ☒ ISAPI Extensions (Installed)
 - ☒ ISAPI Filters (Installed)
 - ☒ Server Side Includes (Installed)
 - ☐ WebSocket Protocol
 - ☐ FTP Server
 - ☐ IIS Hostable Web Core
 - ☒ Management Tools (Installed)
 - ☒ IIS Management Console (Installed)
 - ☒ IIS 6 Management Compatibility (Installed)
 - ☒ IIS 6 Metabase Compatibility (Installed)
 - ☐ IIS 6 Management Console
 - ☒ IIS 6 Scripting Tools (Installed)
 - ☒ IIS 6 WMI Compatibility (Installed)
 - ☐ IIS Management Scripts and Tools
 - ☒ Management Service (Installed)
 - ☐ Windows Deployment Services
 - ☐ Windows Server Update Services

7. [次へ]、[インストール]をクリックします。

- インストールが完了するのを待機します。

8. 閉じるをクリックします。

IIS のすべてのバージョンの確認

http://localhost をブラウザして、IIS の動作を確認します。お使いの IIS のバージョンによっては、IIS 6 の Under Construction というラベルのページが表示されるか、IIS 7 または IIS 8 のロゴのページが表示されます。「このページは表示できません」や「サーバーが見つかりません」などのメッセージがブラウザに表示された場合、IIS は正しく設定されていません。この場合は、KInstall.exe のインストールを進めないでください。IIS がインストールされて、正しく設定されていないと、インストールは失敗します。

プロキシサーバーの確認がチェックされていない

ウェブブラウザを開いた状態で、サーバーがプロキシサーバーを経由してインターネットにアクセスするように設定されて「いない」ことを確認します。以下のステップに従ってください。

インストールの前提条件

1. ブラウザのメニューバーの**ツール**または歯車アイコンを選択します。
2. **[インターネットオプション]**を選択します。
3. **[接続]**タブで、**[LAN の設定]**ボタンを設定して
4. **[プロキシサーバーのオプション]**がチェックされて「いない」ことを確認します。

IIS アプリケーションプール

Kaseya Server を使用するには、アプリケーションプールを 2 つ構成する必要があります。

1. **エクスプローラ**を開きます。
2. **エクスプローラ**のアドレスバーから、**[コントロール パネル] > [システムとセキュリティ]**
> [管理ツール]に移動します。
3. **インターネット インフォメーション サービス (IIS) マネージャ**をクリックします。
4. **アプリケーションプール**を選択します。
5. 次の項目を追加します。
 - DefaultAppPool
 - ✓ **名前** - DefaultAppPool
 - ✓ **.NET Framework のバージョン** - v2.0
 - ✓ **マネージ パイプライン モード** - クラシック
 - ✓ **識別** - ApplicationPoolIdentity
 - ASP.NET v4.0
 - ✓ **名前** - ASP.NET v4.0
 - ✓ **.NET Framework のバージョン** - v4.0
 - ✓ **マネージ パイプライン モード** - 統合
 - ✓ **識別** - ApplicationPoolIdentity

IIS ハンドラーマッピング

Kaseya Server Setup は、Kaseya Server で使用する 30 個以上のハンドラーマッピングを IIS サーバーに追加します。

この欠落している前提条件の横にある**[修正]**リンクをクリックすると、**Kaseya Server Setup**により修正が実行されます。

IIS SSL セキュリティ設定

インターネットインフォメーションサービスの**[SSL を要求する]**チェックボックスのチェックを解除して、https://localhost ではなく http://localhost に Kaseya Server がアクセスできるようにする必要があります。

SSL 要求チェックボックスを手動で無効にする

Windows 7 および 8

1. **エクスプローラ**を開きます。
2. **エクスプローラ**のアドレスバーから、**[コントロール パネル] > [システムとセキュリティ]**
> [管理ツール]に移動します。

3. **インターネット インフォメーション サービス (IIS) マネージャ**をクリックします。
4. **[デフォルトウェブサイト]**をクリックします。
5. 右側のペインの **SSL 設定**をクリックします。
6. **SSL が必要**にチェックが入れていないことを確認します。

IIS SSL セキュリティ設定:7、8、および8.1

インターネットインフォメーションサービスの**[SSL を要求する]**チェックボックスのチェックを解除して、https://localhost ではなく **http://localhost** に Kaseya Server がアクセスできるようにする必要があります。

SSL 要求チェックボックスを手動で無効にする

Windows 7 および8

1. **エクスプローラ**を開きます。
2. **エクスプローラ**のアドレスバーから、**[コントロール パネル] > [システムとセキュリティ]** > **[管理ツール]**に移動します。
3. **インターネット インフォメーション サービス (IIS) マネージャ**をクリックします。
4. **[デフォルトウェブサイト]**をクリックします。
5. 右側のペインの **SSL 設定**をクリックします。
6. **SSL が必要**にチェックが入れていないことを確認します。

IIS SSL セキュリティ設定:XP、2003 および2003 R2

インターネットインフォメーションサービスの**[SSL を要求する]**チェックボックスのチェックを解除して、https://localhost ではなく **http://localhost** に Kaseya Server がアクセスできるようにする必要があります。

SSL 要求チェックボックスを手動で無効にする

XP、2003 および2003 R2

1. **エクスプローラ**を開きます。
2. **エクスプローラ**のアドレスバーから、**[コントロール パネル] > [管理ツール]**に移動します。
3. **インターネット インフォメーション サービス (IIS) マネージャ**をクリックします。
4. **[デフォルトウェブサイト]**をクリックします。
5. 右側のペインの **SSL 設定**をクリックします。
6. **SSL が必要**にチェックが入れていないことを確認します。

IIS の SSL セキュリティ設定: 2008、2008 R2、2012、および 2012 R2

インターネットインフォメーションサービスの[SSL を要求する]チェックボックスのチェックを解除して、https://localhost ではなく http://localhost に Kaseya Server がアクセスできるようにする必要があります。

SSL 要求チェックボックスを手動で無効にする

Windows 2008、2008 R2、2012、および 2012 R2

1. **エクスプローラ**を開きます。
2. **エクスプローラ**のアドレスバーから、[コントロール パネル] > [システムとセキュリティ] > [管理ツール]に移動します。
3. **インターネット インフォメーション サービス (IIS) マネージャ**をクリックします。
4. **サイト**を選択します。
5. [デフォルトウェブサイト]をクリックします。
6. 右側のペインの **SSL 設定**をクリックします。
7. **SSL が必要**にチェックが入れていないことを確認します。

IIS の HTTP のバインド

Microsoft IIS は、セキュリティのため、Kaseya Application Firewall と連携するように自動的に構成されます。

R9 をインストールすると、Kaseya は Microsoft IIS がポート 18081 をリッスンするように自動的に構成します。これにより、既存の IIS 構成が上書きされ、IIS は Kaseya アプリケーションのウェブ GUI としてのみ稼働します。IIS に他のウェブサイトが指定されている場合、R9 のインストール後にそれらのウェブサイトは機能しなくなります。

R9 によりインストールされる Kaseya Application Firewall (KAF) は、高いレベルのセキュリティを提供し、アプリケーションのセキュリティを脅かす攻撃を緩和する目的で、すべての受信/送信ウェブトラフィックを遮断します。このため、KAF はポート 80 と 443 のウェブトラフィックをすべて検査してから処理し、内部で IIS のポート 18081 に渡します。

Kaseya Server をインストールすると、デフォルトの IIS http ポートのバインドが 80 から 18081 に変更されます。また、net.tcp、net.pipe、net.msmq、および msmq.formatname など、他の指定済みバインドも削除されます。

この欠落している前提条件の横にある[\[修正\]](#)リンクをクリックすると、**Kaseya Server Setup**により修正が実行されます。

注： 関連するポートの構成については、「[IIS のポートチェック](#)」『48 ページ』および「[SQL: SSRS ポート](#)」『64 ページ』を参照してください。

IIS のポートチェック

ポートチェックでは、他のサーバーがポート 80 またはポート 443 を使用しているかどうかを調べま

す。いずれかが検知された場合、このテストは不合格になります。ポート 80 またはポート 443 を使用しているすべてのサーバーが無効になるまで、インストールを続行することはできません。

ポートチェックテストに合格してインストールを続行するには、これらの変更を手動で行ってから、**システムチェック**『8 ページ』を再実行する必要があります。

注：これらのポートを使用できない理由については、「**IIS の HTTP のバインド**」『48 ページ』を参照してください。

'デフォルトウェブサイトはウェブサイト 1 です。

IIS サーバーに必要な事柄は次の通りです。

- Default Web Site が定義済みであり、かつ
- その Default Web Site に ID 1 が割り当てられていること。

この欠落している前提条件の横にある[\[修正\]](#)リンクをクリックすると、**Kaseya Server Setup**により修正が実行されます。

デフォルトウェブサイト:7 および8

IIS サーバーに必要な事柄は次の通りです。

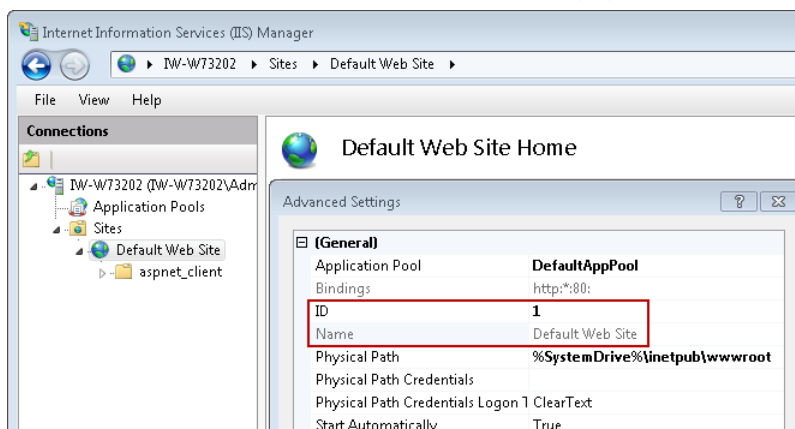
- Default Web Site が定義済みであり、かつ
- その Default Web Site に ID 1 が割り当てられていること。

この欠落している前提条件の横にある[\[修正\]](#)リンクをクリックすると、**Kaseya Server Setup**により修正が実行されます。

デフォルトウェブサイトの名称および ID を確認するには

Windows 7 および8

1. **エクスプローラ**を開きます。
2. **エクスプローラ**のアドレスバーから、**[コントロール パネル] > [システムとセキュリティ]** > **[管理ツール]**に移動します。
3. **インターネット インフォメーション サービス (IIS) マネージャ**をクリックします。



4. **[デフォルトウェブサイト]**を右クリックします。

インストールの前提条件

- Default Web Site がリストされていない場合は、リストの最初のサイトを右クリックします。
- 5. [Web サイトの管理] > [詳細設定] オプションを選択します。
 - [ID] フィールドに 1 が表示されなければなりません。
 - [名前] フィールドに Default Web Site が表示されなければなりません。

デフォルトウェブサイト:XP、2003 および 2003 R2

IIS サーバーに必要な事柄は次の通りです。

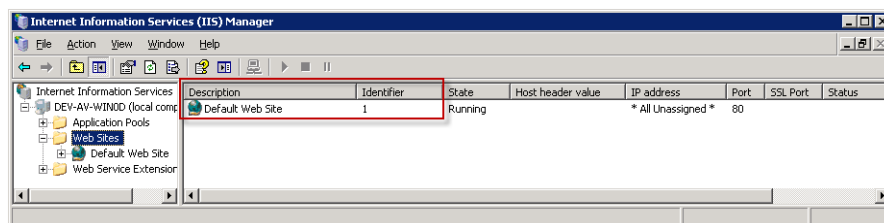
- Default Web Site が定義済みであり、かつ
- その Default Web Site に ID 1 が割り当てられていること。

この欠落している前提条件の横にある[修正]リンクをクリックすると、Kaseya Server Setup により修正が実行されます。

デフォルトウェブサイトの名称および ID を確認するには

XP、2003 および 2003 R2

1. エクスプローラを開きます。
2. エクスプローラのアドレスバーから、[コントロール パネル] > [管理ツール] に移動します。
3. インターネット インフォメーション サービス (IIS) マネージャをクリックします。
4. ウェブサイトを選択します。



- ウェブサイトのリストが表示されます。
- [名前] 列に、Default Web Site の行が表示されなければなりません。
- Default Web Site の[ID]には、1 が表示されなければなりません。

ウェブサイトの名称を手動でデフォルトウェブサイトに変更する

1. Kaseya Server と共に使用するウェブサイトの名前を選択します。
2. 名前 オプションを選択して右クリックします。
3. 名前を Default Web Site に変更します。

デフォルトウェブサイトの識別子を手動で変更する

Default Web Site の ID がまだ 1 に設定されていない場合は、次の手順に従います。

1. Default Web Site を停止します。
2. 管理者レベルアクセスでコマンドラインウィンドウが開きます。
3. ディレクトリをシステムドライブ上の \Inetpub\AdminScripts ディレクトリに変更します。
4. 次のコマンドを実行します。ただし、次のコマンドライン例の 2 を、現在 Default Web Site に割り当てられている ID 番号に置き換えます。

```
cscript adsutil.vbs move w3svc/2 w3svc/1
```

注：別のウェブサイトで既にID 1が使用されている場合は、まずこのコマンドを使用してそのIDを別の番号に変更します。

5. 停止していたウェブサイトを開きます。

デフォルトウェブサイト:2008、2008 R2、2012、および2012 R2

IIS サーバーに必要な事柄は次の通りです。

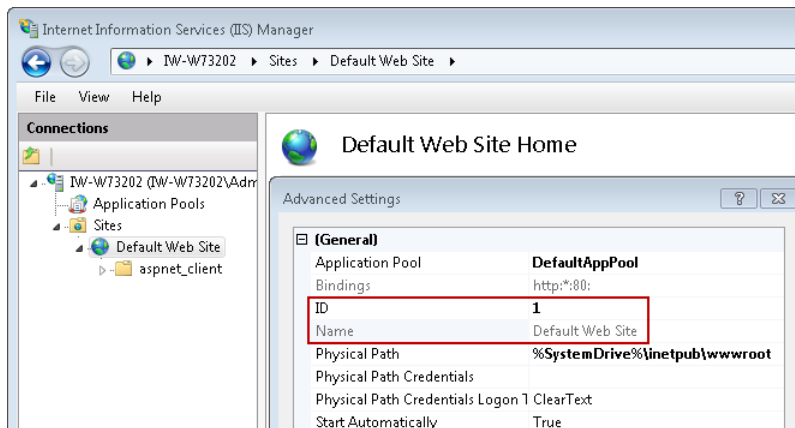
- Default Web Site が定義済みであり、かつ
- その Default Web Site に ID 1 が割り当てられていること。

この欠落している前提条件の横にある[\[修正\]](#)リンクをクリックすると、**Kaseya Server Setup** により修正が実行されます。

デフォルトウェブサイトの名称および ID を確認するには

Windows 2008、2008 R2、2012、および2012 R2

1. **エクスプローラ**を開きます。
2. **エクスプローラ**のアドレスバーから、[\[コントロール パネル\]](#) > [\[システムとセキュリティ\]](#) > [\[管理ツール\]](#)に移動します。
3. **インターネット インフォメーション サービス (IIS) マネージャ**をクリックします。
4. **サイト**を選択します。



- [\[デフォルトウェブサイト\]](#)を右クリックします。
 - Default Web Site がリストされていない場合は、リストの最初のサイトを右クリックします。
- [\[Web サイトの管理\]](#) > [\[詳細設定\]](#) オプションを選択します。
 - [\[ID\]](#) フィールドに 1 が表示されなければなりません。
 - [\[名前\]](#) フィールドに Default Web Site が表示されなければなりません。

ASP.NET State Service

ASP.net State Service の[\[スタートアップの種類\]](#)を[\[自動\]](#)に設定する必要があります。

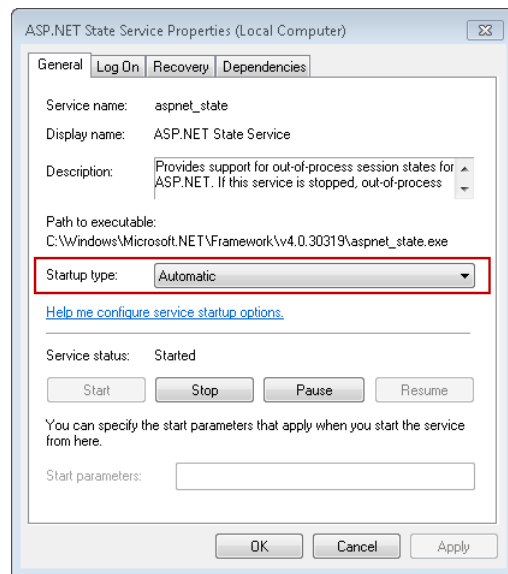
この欠落している前提条件の横にある[\[修正\]](#)リンクをクリックすると、**Kaseya Server Setup** により

インストールの前提条件

修正が実行されます。

ASP.NET State Service:7 および8

バージョンが手動でインストールされている場合、ASP.net でインストールされている ASP.net State Service も手動で起動する必要があります。この欠落している前提条件の横にある[\[修正\]](#)リンクをクリックすると、**Kaseya Server Setup** により修正が実行されます。

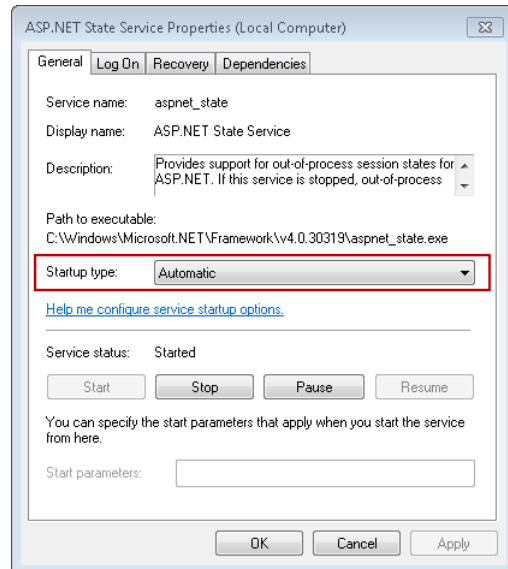


ASP.NET State Service を手動で自動に設定する

1. **エクスプローラ**を開きます。
2. **エクスプローラ**のアドレスバーから、**[コントロール パネル] > [システムとセキュリティ]** > **[管理ツール]**に移動します。
3. **サービス**を選択します。
4. **ASP.NET State Service** を右クリックし、**プロパティ**オプションを選択します。
5. **[スタートアップの種類]**を**[自動]**に設定します。
6. 当サービスが起動していない場合は**スタート**をクリックします。
7. **OK** をクリック。

ASP.NET State Service:XP、2003 および2003 R2

バージョンが手動でインストールされている場合、ASP.net でインストールされている ASP.net State Service も手動で起動する必要があります。この欠落している前提条件の横にある[\[修正\]](#)リンクをクリックすると、**Kaseya Server Setup** により修正が実行されます。

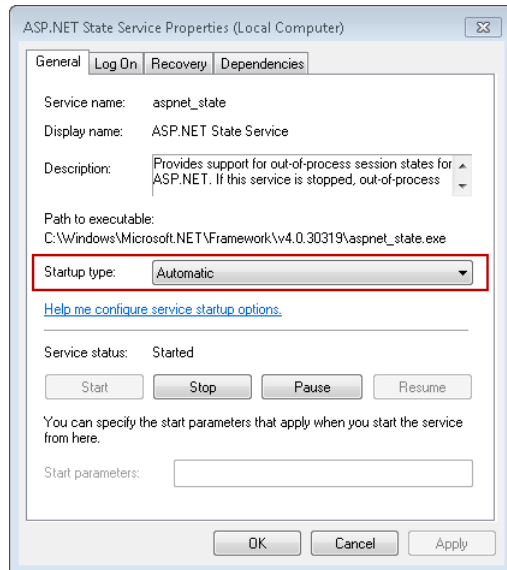


ASP.NET State Service を手動で自動に設定する

1. **エクスプローラ**を開きます。
2. **エクスプローラ**のアドレスバーから、**[コントロール パネル] > [管理ツール]**に移動します。
3. **サービス**を選択します。
4. **ASP.NET State Service** を右クリックし、**プロパティ**オプションを選択します。
5. **[スタートアップの種類]**を**[自動]**に設定します。
6. 当サービスが起動していない場合は**スタート**をクリックします。
7. **OK** をクリック。

ASP.NET State Service:2008、2008 R2、2012、および 2012 R2

バージョンが手動でインストールされている場合、ASP.net でインストールされている ASP.net State Service も手動で起動する必要があります。この欠落している前提条件の横にある[\[修正\]](#)リンクをクリックすると、**Kaseya Server Setup** により修正が実行されます。



ASP.NET State Service を手動で自動に設定する

1. **エクスプローラ**を開きます。
2. **エクスプローラ**のアドレスバーから、**[コントロール パネル] > [システムとセキュリティ]** > **[管理ツール]**に移動します。
3. **サービス**を選択します。
4. **ASP.NET State Service** を右クリックし、**プロパティ**オプションを選択します。
5. **[スタートアップの種類]**を**[自動]**に設定します。
6. 当サービスが起動していない場合は**スタート**をクリックします。
7. **OK** をクリック。

IIS IP アドレスとドメインの制限

Windows 2012 および Windows 8 のみに適用されます。

このテストでは、**[IIS] > [IP アドレスおよびドメインの制限] > [ダイナミック制限の設定の編集] > [一定時間内の要求回数に基づいて IP アドレスを拒否する]**チェックボックスがチェックされているかどうかを確認します。チェックが入れられている場合は、そのチェックを外すか、スキーマ再適用の**最大要求数**および**指定時間**設定を調整して実行を完了させる必要があります。これらの設定は、マシンによって異なります。

Localhost/127.0.0.1

KaseyaVSA を正しく作動させるためには、VSA サーバー上で 127.0.0.1 (当マシン) にアクセスできるようにする必要があります。

このテストが失敗した場合、次のような理由が考えられます。

- IE ESC Internet Explorer Enhanced Security が有効になっている 『<https://manage.kickassvps.com/index.php?/knowledgebase/article/12/I-am-unable-to-change-the-security-settings-in-Internet-Explorer---Disabling-IE-ESC-/>を見て 』。
- Windows/System32/drivers/etc/host ファイルに 127.0.0.1 の不良エントリが含まれている 『<http://www.dslreports.com/faq/10131> を見て 』。
- Kaseya がインストールされている場合、IIS には Kaseya に指定されているポートのホストバインディングがありません。
- Kaseya がインストールされていない場合、IIS には http タイプ、ポート: 80 のホストバインディングがありません。
- IIS は 127.0.0.1 を防護するためのホスト名を指定します。
- IPV4 はインストールされていません。

自分のコンピュータではなくローカルホストを参照する理由(IIS7) 『<http://serverfault.com/questions/331139/why-can-i-browse-to-localhost-not-to-my-computer-name-iis7> を見て 』 も参照してください。

メッセージ キュー サービスが

(MSMQ)

メッセージ キュー サーバー (MSMQ)を追加します。

注 : MSMQ を有効にするときに、**MSMQ の Active Directory のコンポーネント**は含めないでください。これにより、Kaseya Server のパフォーマンスが大幅に向上します。

MSMQ:XP

メッセージ キュー サーバー (MSMQ)を追加します。

手動でメッセージ キュー サーバーを追加する

XP

1. **エクスプローラ**を開きます。
2. **エクスプローラ**のアドレスバーから、[コントロール パネル] > [プログラムの追加と削除]に移動します。
3. [Windows コンポーネントの追加/削除]をクリックします。
4. コンポーネントのリストを下にスクロールして、**メッセージ キュー**にチェックを入れます。
5. [削除]ボタンをクリックします。
6. **共通**のみにチェックを入れてください。

注 : [Active Directory 統合]はチェックしないでください。これにより、Kaseya Server のパフォーマンスが大幅に向上します。

MSMQ:7 および 8

メッセージ キュー サーバー (MSMQ)を追加します。

インストールの前提条件

手動でメッセージ キュー サーバーを追加する

Windows 7 および 8

1. **エクスプローラ**を開きます。
2. **エクスプローラ**のアドレスバーから、[コントロール パネル] > [プログラム] > [プログラムと機能]に移動します。
3. [Windows の機能を有効化または無効化]をクリックします。
4. [Microsoft メッセージ キュー (MSMQ) サーバー]を展開します。
5. [Microsoft メッセージ キュー (MSMQ) サーバー コア]を展開します。
6. [Microsoft メッセージ キュー (MSMQ) サーバー]にチェックを入れます。
7. [Microsoft メッセージ キュー (MSMQ) サーバー コア]より下のすべてにチェックが入っていないことを確認します。

注：MSMQを有効にするときに、MSMQ Active Directory ドメインサービスの統合は含めないでください。これにより、Kaseya Server のパフォーマンスが大幅に向上します。

MSMQ:2003 および 2003 R2

メッセージ キュー サーバー (MSMQ)を追加します。

手動でメッセージ キュー サーバーを追加する

Windows 2003 および Windows 2003 R2

1. **エクスプローラ**を開きます。
2. **エクスプローラ**のアドレスバーから、[コントロール パネル] > [プログラムの追加と削除]に移動します。
3. [Windows コンポーネントの追加/削除]をクリックします。
4. [アプリケーション サーバー]を選択して、[詳細]をクリックします。
5. [メッセージ キュー]を選択して、[詳細]をクリックします。
6. 「共通」以外のすべてのチェックを外します。

注：MSMQを有効にするときに、Active Directory 統合は含めないでください。これにより、Kaseya Server のパフォーマンスが大幅に向上します。

MSMQ:2008 および 2008 R2

メッセージ キュー サーバー (MSMQ)を追加します。

手動でメッセージ キュー サーバーをインストールする

Windows 2008 および Windows 2008 R2

1. **スタート**をクリックします。
2. [プログラムとファイルの検索]の編集ボックスに「サーバーマネージャ」と入力します。
3. [機能]を選択します。

4. **[機能の追加]**をクリックします。
5. **[メッセージ キュー]**を展開します。
6. **[メッセージ キュー サービスが]**を展開します。
7. **[メッセージ キュー サーバー]**を展開します。
8. **[メッセージ キュー サーバー]以外のすべてのチェックを外します。**

注：MSMQ を有効にするときに、**ディレクトリサービス統合**は含めないでください。これにより、Kaseya Server のパフォーマンスが大幅に向上します。

MSMQ:2012 および 2012 R2

メッセージ キュー サーバー (MSMQ)を追加します。

手動でメッセージ キュー サーバーをインストールする

Windows 2012および2012 R2

1. **サーバー管理**をクリックします。
2. **ダッシュボード**をクリックします。
3. **役割と機能の追加**をクリックします。
 - **役割と機能の追加ウィザード**が表示されます。
4. **次へ**をクリックして**機能**ページを表示させます。
5. **[メッセージ キュー]**を展開します。
6. **[メッセージ キュー サービスが]**を展開します。
7. **[メッセージ キュー サーバー]**を展開します。
8. **[メッセージ キュー サーバー]以外のすべてのチェックを外します。**

注：MSMQ を有効にするときに、**ディレクトリサービス統合**は含めないでください。これにより、Kaseya Server のパフォーマンスが大幅に向上します。

MSMQ アクティブディレクトリコンポーネント

MSMQ を有効にする場合、**MSMQ の Active Directory のコンポーネント**は含めないでください。これにより、Kaseya Server のパフォーマンスが大幅に向上します。

MSMQ AD:XP

MSMQ を構成する場合、**Active Directory 統合**にはチェックを入れないでください。これにより、Kaseya Server のパフォーマンスが大幅に向上します。

MSMQ Active Directory ドメイン サービス統合を手動でアンインストールする

XP

1. **エクスプローラ**を開きます。
2. **エクスプローラー**のアドレスバーから、**[コントロール パネル] > [プログラムの追加と削除]**に移動します。
3. **[Windows コンポーネントの追加/削除]**をクリックします。
4. コンポーネントのリストを下にスクロールして、**メッセージ キュー**にチェックを入れます。
5. **[削除]**ボタンをクリックします。
6. **[Active Directory 統合]**にチェックが入っていないことを確認してください。

注 : **[共通]**のみをチェックする必要があります。

MSMQ AD:7 および 8

MSMQ を構成する場合、**MSMQ Active Directory ドメイン サービス統合**にはチェックを入れないでください。これにより、Kaseya Server のパフォーマンスが大幅に向上します。

MSMQ Active Directory ドメイン サービス統合を手動でアンインストールする

Windows 7 および 8

1. **エクスプローラ**を開きます。
2. **エクスプローラー**のアドレスバーから、**[コントロール パネル] > [プログラム] > [プログラムと機能]**に移動します。
3. **[Windows の機能を有効化または無効化]**をクリックします。
 - **[Microsoft メッセージ キュー (MSMQ) サーバー]**を展開します。
 - **[Microsoft メッセージ キュー (MSMQ) サーバー コア]**を展開します。
 - **[Microsoft メッセージ キュー (MSMQ) サーバー]**にチェックを入れます。
 - **[Microsoft メッセージ キュー (MSMQ) サーバー コア]**より下のすべてにチェックが入っていないことを確認します。
 - **MSMQ Active Directory ドメイン サービス統合**にチェックが入っていないことを確認します。

MSMQ AD:2003 および 2003 R2

MSMQ を構成する場合、**Active Directory 統合**にはチェックを入れないでください。これにより、Kaseya Server のパフォーマンスが大幅に向上します。

手動で MSMQ Active Directory 統合をアンインストールする

Windows 2003 および Windows 2003 R2

1. **エクスプローラ**を開きます。
2. **エクスプローラー**のアドレスバーから、**[コントロール パネル] > [プログラムの追加と削除]**に移動します。
3. **[Windows コンポーネントの追加/削除]**をクリックします。
4. **[アプリケーション サーバー]**を選択して、**[詳細]**をクリックします。

5. **[メッセージ キュー]**を選択して、**[詳細]**をクリックします。
6. **[Active Directory 統合]**のチェックを外します。

MSMQ AD:2008 および 2008 R2

MSMQ を構成する場合、**[ディレクトリ サービス統合]**にはチェックを入れないでください。これにより、Kaseya Server のパフォーマンスが大幅に向上します。

手動で MSMQ ディレクトリ サービス統合をアンインストールする

Windows 2008 および 2008 R2

1. **スタート**をクリックします。
2. **[プログラムとファイルの検索]**の編集ボックスに「サーバーマネージャ」と入力します。
3. **[機能]**を選択します。
4. **[機能の追加]**をクリックします。
5. **[メッセージ キュー]**を展開します。
6. **[メッセージ キュー サービスが]**を展開します。
7. **[メッセージ キュー サーバー]**を展開します。
8. **[ディレクトリ サービス統合]**のチェックを外します。

MSMQ AD:2012 および 2012 R2

MSMQ を構成する場合、**Active Directory 統合**にはチェックを入れないでください。これにより、Kaseya Server のパフォーマンスが大幅に向上します。

手動でメッセージ キュー サーバーをインストールする

Windows 2012 および 2012 R2

1. **サーバー管理**をクリックします。
2. **ダッシュボード**をクリックします。
3. **役割と機能の追加**をクリックします。
 - **役割と機能の追加ウィザード**が表示されます。
4. **次へ**をクリックして**機能**ページを表示させます。
5. **[メッセージ キュー]**を展開します。
6. **[メッセージ キュー サービスが]**を展開します。
7. **[メッセージ キュー サーバー]**を展開します。
8. **[メッセージ キュー サーバー]以外のすべての**チェックを外します。

注：MSMQ を有効にするときに、**ディレクトリサービス統合**は含めないでください。これにより、Kaseya Server のパフォーマンスが大幅に向上します。

SQL の要件

注：SQL Server を手動でインストールしたか、その予定がある場合は、**SQL:SQL Server のその他の要件**『64 ページ』に記載されている、**[システムチェック]**でまだテストされていない前提条件のリストを参照してください。

SQL:インストール済み

Kaseya Server Setup から SQL Express を自動インストールする場合

[SQL インストール済み] 行の**[修正]**リンクをクリックします。

- SQL Server Express が自動的にダウンロードおよびインストールされます。これは、数分かかります。
- SQL Server Express がインストールされると、テストが再度自動的に実行されます。
- [SQL インストール済み] 行に緑のチェックボックスが表示されます。

注：SQL Server Express をダウンロード『<http://www.microsoft.com/en-us/download/details.aspx?displaylang=en&id=26729>』を見て』してから、インストールおよび構成を手動で行うことができます。**SQL の要件**『60 ページ』を確認してから行います。

SQL Server がすでにインストールされていることがわかっている場合

SQL Server に有効な証明書が必要です。

1. **システムチェック** ページの**[戻る]**ボタンをクリックして **SQL Server 証明書** ページを表示させます。
2. **SQL Server 資格情報** ページでオプション 2 または 3 を選択します。
3. **7. SQL サーバー認証の提供**『6 ページ』の説明に従って SQL Server 証明書を入力します。
4. **[次へ]**ボタンをクリックして、**システムチェック** ページに戻ります。
5. **[稼働テスト]**をクリックして SQL Server テストに通るかどうかを確認します。

注：SQL Server を手動でインストールしたか、その予定がある場合は、**SQL:SQL Server のその他の要件**『64 ページ』に記載されている、**[システムチェック]**でまだテストされていない前提条件のリストを参照してください。

SQL:照合および互換性

互換性モード 90

SQL は、.NET アセンブリをサポートする互換モード 90 (SQL 2005)、または上位でなければなりません。

- `sp_dbcmptlevel 'ksubscribers'` - この保存された手順を実行すると、互換性のレベルが表示されます。
- `sp_dbcmptlevel 'ksubscribers', 90` - この保存済み手順を実行すると、互換性レベルが SQL 2005 に設定されます。SQL サーバー 2008 を使用している場合は、この保存済み手順を使用しないでください。

照合

- **照合一致** - Kaseya Server を使用するには、次の各データベースで選択した照合が一致する必要があります。
 - SQL Server の master データベース。
 - SQL Server の dbtemp データベース。
 - Kaseya の ksubscribers データベース。
- **大文字と小文字を区別しない** - Kaseya Server では、選択した照合で大文字と小文字を区別しないようにする必要があります。
- **照合選択**
 - SQL インストーラーで選択されるデフォルトの照合設定は、Windows のデフォルト言語 (システムロケール設定) によって決まります。
 - Windows オペレーティングシステムと、VSA で使用する主言語とを一致させることが強く推奨されます。
 - SQL Server のインストール時に、SQL Server で選択する照合を、VSA で使用する主言語に確実に対応させてください。
 - ✓ 英語の場合は、照合を SQL_Latin1_General_CP1_CI_AS に設定します。
 - ✓ 韓国語の場合は、照合を Korean_Wansung_CI_AS に設定します。
 - ✓ 中国語 (簡体字) の場合は、照合を Chinese_PRC_CI_AS に設定します。中国語 (繁体字) の場合は、Chinese_Taiwan_Stroke_CI_AS (より一般的) と Chinese_Hong_Kong_Stroke_90_CI_AS のいずれにすることもできます。
 - ✓ 日本語の場合は、照合を Japanese_CI_AS に設定します。

注：インストール後にSQL Serverの照合を変更するには、専門知識が必要です。SQL Serverをインストールした後では、その照合を変更しなければならないため、SQL Serverを完全にアンインストールしてから、正しい言語を選択して変更を行ってください。

注：ksubscribersデータベースの照合の変更が必要な場合は、SQL Serverのデータベースで使用されている照合に設定できます。SQL Serverのアンインストールや再インストールの必要はありません。

SQL:バージョン

SQL 2008 以降が必要です。SQL の前提条件の全リストについては、**SQL:SQL Server のその他の要件** 『64 ページ』を参照してください。

注：SQL Serverを手動でインストールしたか、その予定がある場合は、**SQL:SQL Server のその他の要件** 『64 ページ』に記載されている、**[システムチェック]**でまだテストされていない前提条件のリストを参照してください。

SQL:ドメイン

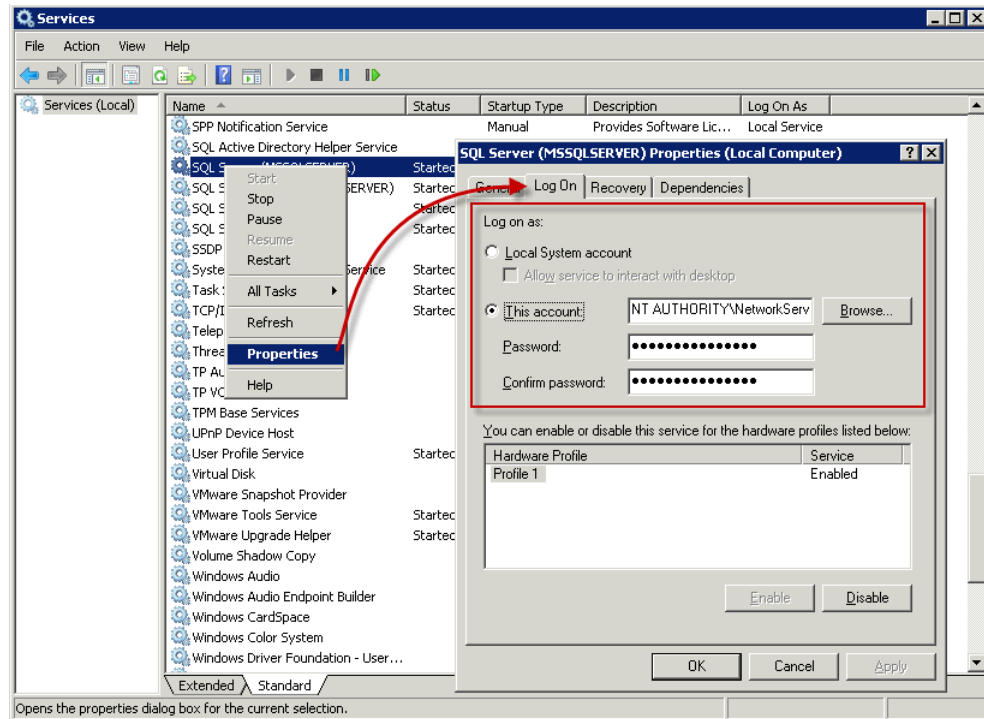
SQL Server は、Kaseya Server と同じドメインまたはワークグループに入れる必要があります。

注：SQL Serverを手動でインストールしたか、その予定がある場合は、**SQL:SQL Server のその他の要件** 『64 ページ』に記載されている、**[システムチェック]**でまだテストされていない前提条件のリストを参照してください。

SQL:サービスアカウント

SQL サービスは、次のいずれかでログオンする必要があります。

- LOCAL_SYSTEM、または
- NETWORK_SERVICE



注：SQL Serverを手動でインストールしたか、その予定がある場合は、SQL:SQL Serverのその他の要件『64 ページ』に記載されている、[システムチェック]でまだテストされていない前提条件のリストを参照してください。

SQL:CLR

Kaseya Serverを使用するには、SQL ServerでCLRを有効にする必要があります。

まだ有効になっていない場合は、SQL Server Management Studio (SSMS)内の次のクエリを実行します。

```
EXEC sp_configure 'show advanced options' , '1';
go
reconfigure;
go
EXEC sp_configure 'clr enabled' , '1'
go
reconfigure;
-- Turn advanced options back off
EXEC sp_configure 'show advanced options' , '0';
go
```

SQL:フルテキスト検索

Service Desk アドオンモジュールをインストールしている場合、SQL Serverのインストール時にフ

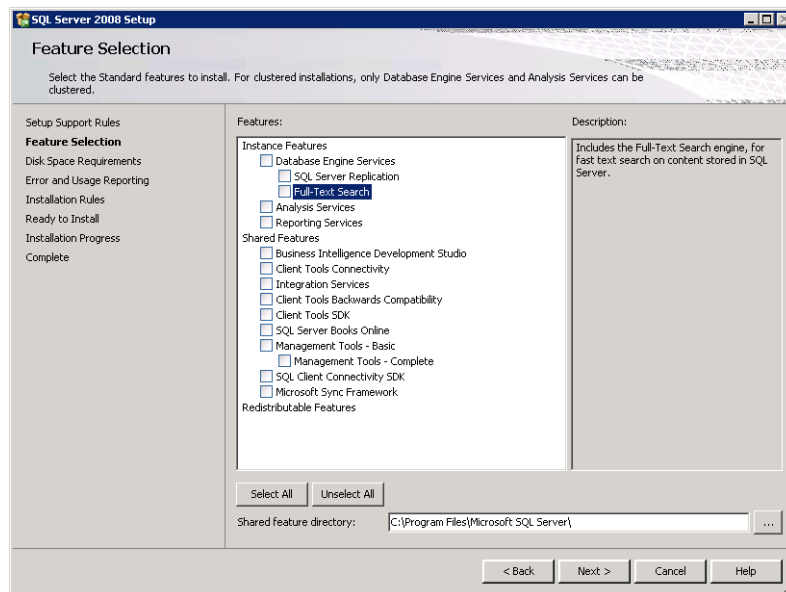
フルテキスト検索機能を有効にすると、[チケット]ページで検索用語を入力するときのパフォーマンスが向上します。

- SQL Server のフル(non-Express)バージョンでは、フルテキスト検索機能がサポートされています。
- SQL Server Express の場合、標準版ではフルテキスト検索は利用できません。この機能は、SQL Server Express Advanced Services でのみ利用できます。Kaseya Server Setup では、評価目的でのみ、オプションで SQL Server Express の標準版をインストールできます。

次の指示は、フルテキスト検索をサポートするあらゆるバージョンの SQL Server にほぼ当てはまります。

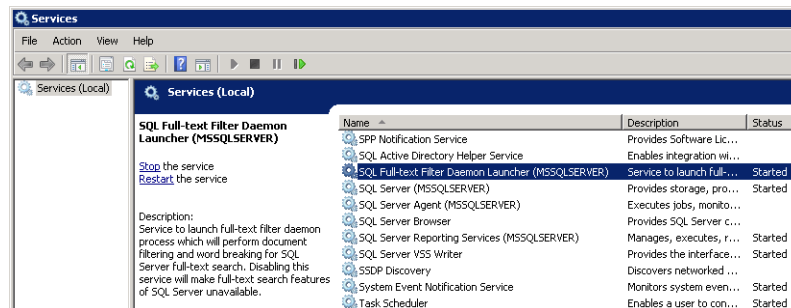
SQL Server のフルテキスト検索を有効にする

1. SQL Server インストーラーを実行または再実行します。
2. SQL Server 設定ウィザードの機能選択ページで、フルテキスト検索チェックボックスにチェックを入れます。



フルテキスト検索サービスが実行されるかどうかを確認します。

1. エクスプローラを開きます。
2. エクスプローラーのアドレスバーから、[コントロール パネル] > [システムとセキュリティ] > [管理ツール]に移動します。
3. サービスを選択します。



SQL:追加のデータベースとインスタンス

同一の SQL Server で Kaseya Server 以外のデータベースまたはインスタンスが使用されている場合、**システムチェック**で警告が表示されます。

注：SQL Server を手動でインストールしたか、その予定がある場合は、**SQL:SQL Server のその他の要件**『64 ページ』に記載されている、**[システムチェック]**でまだテストされていない前提条件のリストを参照してください。

SQL:SQL Server のその他の要件

完全にパッチされている

SQL Server OS に最新のサービスパックがあり、事前にすべてパッチされているか確認してください。

認証

SQL server は、Windows 認証ではなく、**混合モード認証**が設定されているか確認してください。

SQL Server を別のシステムで実行する

SQL Server が別のシステムに存在する場合

- TCP ポート 1433 および UDP ポート 1434 を開く必要がある場合があります。デフォルト以外の SQL Server のインスタンス用に他のポートが必要になる場合があります。
- 次のサービスで、**ネットワークサービス**ログオンが使用されているかを確認してください。
 - SQL Server サービス
 - SQL Server ブラウザ
- SQL Server システムと Kaseya Server システムが 2～3 分以内に同期することを確認してください。タイムサービスの利用を推奨いたします。
- **注：** 詳細については、**Kaseya ナレッジベース**『<https://helpdesk.kaseya.com/entries/78003448> を見て 』を参照してください。

SQL:SSRS のポート

SSRS が **Kaseya Application Firewall**『48 ページ』と競合しないように、SSRS が使用するポートは **Kaseya Server Setup** によって変更されます。

この欠落している前提条件の横にある**[修正]**リンクをクリックすると、**Kaseya Server Setup**により修正が実行されます。

SSRS のポートを手動で変更する

1. [スタート]>[**すべてのプログラム**]を選択します。**Microsoft SQL Server**ディレクトリを選択します。
2. [構成ツール]>[**Reporting Services 構成マネージャ**]を選択します。
3. [**接続**]をクリックします。
4. 左のナビゲーションパネルの[Web サービス URL]オプションをクリックします。
5. TCP ポートを 18086 に変更します。デフォルトのポートは 80 です。

6. **適用**をクリックします。
7. 左のナビゲーションパネルの[レポート マネージャー URL]オプションをクリックします。
8. [詳細設定]をクリックします。
9. ポップアップ上部の[レポート マネージャで複数の ID を使用]の下にある、[編集] ボタンをクリックします。
10. TCP ポートを 18086 に変更します。OK をクリック。
11. [終了]をクリックして、構成マネージャを終了します。

RAM がインストールされています

4GB 以上の RAM が必要です。10GB 以上をお勧めします。

システムのパフォーマンスを良好に保つには、適切な量の RAM を適切に設定することが必須です。

システム要求事項 『

<http://help.kaseya.com/WebHelp/EN/VSA/9000000/reqs/index.asp#home.htm> を見て 』を参照してください。

ディスクのスペース

Kaseya Server をインストールするには、500MB 以上が必要です。2GB 以上をお勧めします。

Kaseya Server が管理する各マシンについて 5MB 以上のディスクスペースを確保することが推奨されます。

たとえば、150 台のマシンを管理する場合、Kaseya Server アプリケーションがインストールされているマシンに、SQL Server 2005 Express のデータベース用として利用可能なディスクスペースが 750MB 以上必要です。

現在の最小**システム要件** 『

<http://help.kaseya.com/WebHelp/EN/VSA/9000000/reqs/index.asp#home.htm> を見て 』を参照してください。

ファイアウォールのポート

Kaseya Server のホストシステムでファイアウォールを有効にすることが推奨されます。

Kaseya は、Kaseya Server のホストシステムで、ファイアウォール設定のシステムチェックを実行します。ファイアウォールが有効の場合、[修正]リンクをクリックし、ファイアウォール設定を行います。次のファイアウォールポートルールが設定されます。

注：インターネットファイアウォールにも同様のポート設定を行う必要があります。

TCP および UDP 5721

Kaseya Default Agent TCP および Kaseya Default Agent UDP は、Windows ファイアウォールの受信の規則および送信の規則の両方のメンバーとして定義する必要があります。

これらの規則では、デフォルトで単一のポート番号 5721 が指定されます。このポートは次の用途に使用されます。

インストールの前提条件

- Kaseya エージェントが TCP ポート 5721 で Kaseya Server にインバウンド接続します。
- ファイアウォールは、Kaseya エージェントにすべての通信を返す能力が必要です。
- また、ファイアウォールは、Kaseya 社サイト license.kaseya.net および vsupdate.kaseya.net への接続も許可する必要があります。

Kaseya Server のインストール中およびインストール後に、デフォルトのポート番号 5721 を他の空いているポート番号に変更できます。

TCP 80 (HTTP) または TCP 443 (HTTPS)

Kaseya HTTP および Kaseya Kaseya HTTPS は、Windows ファイアウォールの受信の規則および送信の規則の両方のメンバーとして定義する必要があります。

これらの規則は、ポート TCP 80 と TCP 443 がリモート管理のために Kaseya のウェブページに接続することを許可します。

VSA が使用するポートをポート 80 から変更する - Kaseya のナレッジベース 『<https://helpdesk.kaseya.com/entries/36273688> を見て 』を参照してください。

SQL サーバーを別のシステムで実行する場合

TCP1433 および UDP 1434 - SQL Server が別のシステムにある場合、Kaseya Server および SQL Server のマシンで、TCP ポート 1433 および UDP ポート 1434 を開かなければならないことがあります。デフォルト以外の SQL Server のインスタンス用に他のポートが必要になる場合があります。

Windows Temp フォルダへのアクセス

Kaseya Server を使用するには、IIS のインストールで作成された **IIS_IUSRS** グループが Windows\Temp ディレクトリにアクセスできなければなりません。

このアクセスを手動で設定するには

1. **エクスプローラ**を開きます。
2. Windows\Temp ディレクトリを見つけて右クリックします。
3. **プロパティ**オプションを選択します。
4. **セキュリティ** タブをダブルクリックします。
5. **詳細**をクリックして特別な権限を設定します。
6. リストボックスから **IIS_IUSRS** グループを選択します。
7. **編集**をクリックします。
8. **[種類]**を**[許可]**に設定します。
9. **[適用先]**を**[このフォルダー、サブフォルダー、およびファイル]**に設定します。
10. 次のチェックボックスにチェックを入れます。
 - **読み取りと実行**
 - **読み取り**
 - **書き込み**
11. **高度なアクセス許可を表示する**をクリックします。
12. 次のチェックボックスにチェックを入れます。
 - **フォルダのスキャンとファイルの実行**

13.OK を繰り返しクリックして変更を保存します。

アンチウイルス保護

システム チェックは、アンチウイルスが有効になっていることを検出すると警告を表示します。アンチウイルスリアルタイムスキャン(メモリ常駐保護)はオフにしてからインストール続行することをお勧めします。

注：インストールが完了した後、必ずこの機能を有効にしてください。

システムチェックは、マシン上でウイルス保護またはアンチマルウェアソフトが有効になっていないかどうかを確認します。テストでは、テスト文字列がディスクに書き込まれます。テスト時に欠落していると、ウイルス保護ソフトウェアによって削除されます。ディスクに書き込まれたファイルは、EICAR アンチウイルステスト文字列に含まれます。ほとんどのウイルス保護ソフトウェアは、そのデータベースに含まれ、テストでそのソフトウイルスによってファイルが隔離されます。

アンチウイルス保護

システム チェックは、アンチウイルスが有効になっていることを検出すると警告を表示します。アンチウイルスリアルタイムスキャン(メモリ常駐保護)はオフにしてからインストール続行することをお勧めします。

注：インストールが完了した後、必ずこの機能を有効にしてください。

システムチェックは、マシン上でウイルス保護またはアンチマルウェアソフトが有効になっていないかどうかを確認します。テストでは、テスト文字列がディスクに書き込まれます。テスト時に欠落していると、ウイルス保護ソフトウェアによって削除されます。ディスクに書き込まれたファイルは、EICAR アンチウイルステスト文字列に含まれます。ほとんどのウイルス保護ソフトウェアは、そのデータベースに含まれ、テストでそのソフトウイルスによってファイルが隔離されます。

Windows 8 および 8.1 の Windows Defender を無効にする

Windows Defender は、Windows 8 ではデフォルトで有効になっていますが、Windows Defender が有効になっていると、**Kaseya Server Setup** のインストールを実行できません。Windows Defender を無効にするには

1. **Kaseya Server Setup** が実行中の場合は終了します。
2. **Explorer** をクリックします。
3. **エクスプローラー**のアドレスバーから、[コントロール パネル] > [すべてのコントロール パネル項目] > [Windows Defender]に移動します。
4. **設定** タブをクリックします。
5. **リアルタイム保護(推奨)**のチェックを外します。
6. [変更を保存]をクリックします。
7. **Kaseya Server Setup** を再起動します。

Kaseya Server を移動する

マシン上の既存の Kaseya Server をアップデートするのではなく、Kaseya Server を新しいシステムに移動し、それと同時にアップデートすることが望まれる場合があります。この場合は、[ステップバイステップインストール](#) 『3 ページ』で説明されている手順ではなく、次の手順を実行します。

このセクションで

アップデート前チェックリスト	68
Kaseya Server をバックアップする	69
更新を計画する	69
アンチ-ウイルス・ソフトウェア	69
Kaseya Server を移動する	69
Kaseya Server をアーカイブする	72

アップデート前チェックリスト

警告：「インストール前チェックリスト」と「アップデート前チェックリスト」のチェックが完了するまで、Kaseya のアップデートを開始しないでください。

☐	既存の Kaseya Server のライセンスコードを特定する。
☐	Kaseya Server のフルバックアップ 『69 ページ』を作成する（SQL が別のマシンで稼働している場合は、データベースサーバーのフルバックアップも作成する）。
☐	もし、アップグレードの結果として問題が発生しても、本番システムに支障がないように、フルバックアップに戻れるか準備ができていないか確認します。
☐	ksubscribers データベースと、Kaseya Server のユーザーディレクトリを個別にバックアップする。詳細については、 「Kaseya Server をアーカイブする」 『72 ページ』を参照。
☐	更新を計画 『69 ページ』。
☐	更新する前に アンチ-ウイルス・セキュリティ保護 『69 ページ』を無効にします。

Kaseya Server をバックアップする

Kaseya 実運用システムの完全なバックアップがあるか、常に確認してください。これには以下のことが含まれます：

- お使いの Kaseya Server をホストしているシステム。
- `ksubscribers` データベースをホストしている SQL Server システム（SQL Server が Kaseya Server からリモートで稼働している場合）。

更新を計画する

既存の Kaseya Server をアップデートする場合、必ず、システムのアップデート、テスト、元の状態への復元（必要な場合）に十分な時間が確保されるようにダウンタイムを計画してください。アップデート中は Kaseya Server が停止するので、エージェント、マシンユーザー、または VSA の管理者が使用することはできません。

- v4.x または v5.x から K2 へ更新するには、DB のサイズやサーバーの仕様によって、数時間かかることがあります。
- Kaseya 2008 または VSA から更新する場合は、DB の変更が少ないため、30 分ほど早くなります。

アンチ-ウイルス・ソフトウェア

Kaseya Server および SQL Server の両方で次の操作を行います。

- すべてのアンチ-ウイルス・ソフトウェアのリアルタイム・スキャンニングを無効にします。
- 必要であれば、コントロールパネルの[システム]ダイアログボックスを使用して、データ実行防止(DEP)を無効にします。

インストールが完了した後、これらの機能を有効にすることを忘れないでください。

Kaseya Server を移動する

既存の Kaseya Server を新しいマシンに移動するには、既存の Kaseya Server から選択したファイルを新しいマシンにコピーし、それらのファイルを使用して新しい Kaseya Server をインストールします。

既存の Kaseya Server をオフラインにする

- [チケット発行] > [E メールリーダー]の[E メールリーダーを無効にする]チェックボックスをチェックして、Eメールの受信を無効にします。
- 既存の Kaseya Server で使用中のネットワークアダプターの IP アドレスを、未使用の IP アドレスに変更します。これはエージェントのチェックインや、ユーザーのログインを防ぐためです。

Kaseya Server を移動する

注：既存の/古い Kaseya Server が稼働している状態で、新しい名前と IP アドレスを使用して新しい Kaseya Server をセットアップすることを選択した場合は、新しい Kaseya Server をオンラインにする直前に、[エージェント] > [チェックインコントロール] ページを使用して、エージェントをリダイレクトする必要があります。

- 既存の Kaseya Server が 5.1 以前の場合は、ローカルホストで SMTP を無効にします。既存の Kaseya Server が 5.2 以降の場合は、[システム] > [構成] ページでポート番号を変更します。

既存の Kaseya Server をアーカイブする

- 「Kaseya Server をアーカイブする」 『72 ページ』 の手順を実行します。

アーカイブしたデータを新しいマシンにコピーする

- 「Kaseya Server をアーカイブする」 『72 ページ』 でアーカイブしたファイルを、新しい Kaseya Server が稼働するマシンにコピーします。アーカイブしたフォルダツリーの一番上のフォルダが、インストールしようとしている Kaseya のインストールディレクトリと一致しているか確認します。デフォルトは C:\Kaseya です。
- 「Kaseya Server をアーカイブする」 『72 ページ』 でアーカイブした ksubscribers データベースを、SQL Server Management Studio を使用して、新しい SQL Server をホストするマシンに復元します。

注：両方の SQL Server で SQL:SQL Server のその他の要件 『64 ページ』 が満たされていること、および ksubscribers データベースが正しいことを確認します。

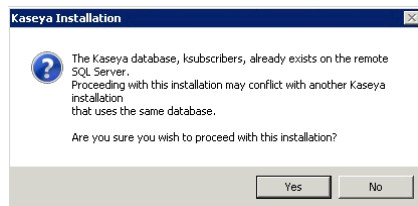
注：5.1 データベースを復元した後、SSRS URL が無効になり、リセットする必要があります。6.x データベースを復元した後、SSRS URL が無効になり、リセットしなければならない場合があります。

Kaseya を新しいマシンにインストールする

- 「新しい K2 Kaseya Server のインストール」 に記載されている手順に従って、新しい Kaseya Server を新しいマシンにインストールします。

注：インストールを始める前に、すべての前提条件が満たされていることを確認します。

- リモートマシン上にある SQL Server のインスタンスをに指定し、かつそのマシンに ksubscribers データベースがある場合、そのデータベースをアップデートして新しい Kaseya Server にリダイレクトすることを確認するように要求するプロンプトが表示されます。このプロンプトに対して[はい]をクリックすると、そのデータベースを使用している既存の Kaseya Server からデータベースが分離され、インストールしている新しい Kaseya Server にリダイレクトされます。



新しい Kaseya Server をオンラインにする

- 新しい Kaseya Server の VSA で、[チケット] > [E メールリーダー] の[メールリーダーを無効にする] チェックボックスのチェックを解除します。
- インストール時にアウトバウンド E メールを構成していない場合は、[システム] > [アウトバウンド E メール] ページで構成します。

- 新しいKaseya Server が使用するネットワークアダプターの IP アドレスを、*既存の* Kaseya Server の元の IP アドレスに変更します。これにより、エージェントは*新しい* Kaseya Server へのチェックインを開始します。

注： *既存の/古い* Kaseya Server が稼働している状態で、新しい名前と IP アドレスを使用して *新しい* Kaseya Server をセットアップすることを選択した場合は、*新しい* Kaseya Server のすべてのエージェントのアカウントで *新しい* Kaseya Server の名前と IP アドレスを使用するように変更する必要があります。*新しい* Kaseya Server のエージェントのアカウントを適切に設定した後、*既存の/古い* Kaseya Server のエージェントのアカウントをすべて、*新しい* Kaseya Server の名前と IP アドレスを使用するように変更します。VSA の [エージェント] > [チェックインコントロール] ページを使用して、エージェントを *新しい* Kaseya Server と IP アドレスにリダイレクトします。すべてのエージェントがチェックインして *新しい* Kaseya Server にリダイレクトされるまでの十分に長い時間、*既存の/古い* Kaseya Server をアクティブにしておく必要があります。

- [エージェント] > [アップデート] ページを使用して、エージェントをアップデートします。

Kaseya Server をアーカイブする

インストール済みの実稼働 Kaseya Server のアーカイブを使用すると、データや機能を損なうことなく、他の任意のシステムにその Kaseya Server を再インストールすることができます。アーカイブには、次のものを含める必要があります。

- アーカイブから再インストールを実行するために必要な情報を簡潔にまとめた Readme ファイル。
- 選択したファイルとサブフォルダを含み、既存の Kaseya Server で使用していたフォルダ構造と一致するアーカイブフォルダ構造。
- お使いの Kaseya Server の `ksubscribers` データベースの SQL Server バックアップ。

注：アーカイブの再インストール方法については、「**Kaseya Server を移動する**」『69 ページ』を参照してください。

注：アーカイブは、必ず安全な場所に保存してください。

Readme ファイルの準備

1. 現在の Kaseya Server サーバーに、マスター管理者としてログインします。
2. 以下の情報を Readme ファイルに追加します：
 - **Kaseya Server の現在のアドレス** - このフィールドは[システム] > [構成]ページの[外部名/サーバーの IP アドレスの変更]ラベルの右にあります。
 - **Kaseya Server の現在のポート番号** - このフィールドは[システム] > [構成]ページの[サーバーにチェックインするエージェントのポートの指定]ラベルの右にあります。
 - **Kaseya Server のライセンスコード** - 4.7 以前のバージョンでは、このフィールドは[システム] > [構成]ページの[ライセンスコード]ラベルの右にあります。4.8 以降のバージョンでは、このフィールドは[システム] > [ライセンスマネージャ]ページにあります。

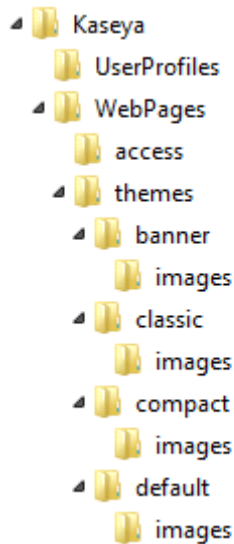
注：このライセンスコードを、新しい Kaseya Server でも使用します。新しい Kaseya Server でライセンスコードを使用するときに問題が発生した場合は、**Kaseya ヘルプデスク**『<https://helpdesk.kaseya.com/home>を見て』を使用して、ライセンスキーのアップデートを依頼するサポートチケットを提出してください。

- **SQL Server のログオン** - `ksubscribers` データベースをホストしている SQL Server のシステム管理者のログオン (`sa`) とパスワードです。
- **VSA マスターユーザーのログオン** - マスター管理者の VSA ログオンユーザー名とパスワードです。
- **Kaseya インストールディレクトリ** - <Kaseya インストールディレクトリ>の完全修飾パス名です。
- **アウトバウンド E メールホスト** - VSA のアウトバウンド E メールホストの名前とポートです。
- **インバウンド E メールサーバー** - E メールサーバー、ポート、および[チケット発行] > [E メールリーダー]ページで定義したインバウンド Eメールの証明書（必要な場合）です。

アーカイブフォルダ構造の作成

以下のイメージと同じように、以下のディレクトリの空のフォルダ構造を作成します。必要に応じて、Kaseya Server のインストールディレクトリの名前と一致するように、イメージに示されている Kaseya フォルダの名前を変更します。既存の Kaseya Server からファイルとフォルダを、後述の空

のフォルダ構造にコピーします。イメージで説明されているすべてのフォルダを使用する必要はありません。



- <Kaseya インストールディレクトリ>\UserProfiles (@dbBackup フォルダを除く) - このディレクトリには、管理されるマシンに関連するファイルが含まれています。
- <Kaseya インストールディレクトリ>\WebPages\ManagedFiles (VSAHiddenFiles を除く) - このディレクトリには、各管理者に属するスクリプトと管理されるファイル、および KES プロファイルが含まれています。

警告： WebPages\Managed files のディレクトリにある VSA の隠しファイルは、古いシステムから新しいシステムにコピーしないでください。このディレクトリには、たくさんのシステムヘルパーファイルが含まれています。新しくインストールしたシステムには、これらのファイルの最新バージョンが含まれています。

- <Kaseya インストールディレクトリ>\WebPages\DataReports - このディレクトリにはスケジュールされているレポートが含まれます。

VSA のカスタマイズが行われている場合にだけ、以下のディレクトリのアーカイブが必要です：

- <Kaseya インストールディレクトリ>\Kserver\ignoresubject.txt - このファイルが存在するのは、[チケット発行]>[E メールリーダー]で[次のタイトル行を含むインバウンド E メールを拒否]の編集ボックスを使用してインバウンド E メールがフィルターされている場合のみです。
- <Kaseya インストールディレクトリ>\WebPages\themes\banner\images\new - このディレクトリ（存在する場合）には、バナーテーマを使用するときのレポート用およびエージェント用にカスタマイズされたアイコンが含まれます。
- <Kaseya インストールディレクトリ>\WebPages\themes\classic\images\new - このディレクトリ（存在する場合）には、クラシックテーマを使用するときのレポート用およびエージェント用にカスタマイズされたアイコンが含まれます。
- <Kaseya インストールディレクトリ>\WebPages\themes\compact\images\new - このディレクトリ（存在する場合）には、コンパクトテーマを使用するときのレポート用およびエージェント用にカスタマイズされたアイコンが含まれます。
- <Kaseya インストールディレクトリ>\WebPages\themes\default\images\new - このディレクトリ（存在する場合）には、デフォルトテーマを使用するときのレポート用およびエージェント用にカスタマイズされたアイコンが含まれます。

SSL 証明書を使用する

- <Kaseya インストールディレクトリ>\WebPages\access> - このディレクトリにはカスタマイズ可能な DefaultHeader.htm と LeftHeader.htm の 2 つのファイルが含まれます。
- <Kaseya インストールディレクトリ>\xml\Procedures\AgentProcPaths - このディレクトリ（存在する場合）には、エージェント手順 `getRelativePathFile()` のコマンド用にカスタマイズされた"承認済み"の相対パスが含まれます。
- <Kaseya インストールディレクトリ>\xml\Procedures\AgentProcSQL - このディレクトリ（存在する場合）には、エージェント手順用にカスタマイズされた"承認済み"の XML SQL 読み取りおよび書き込みコマンドが含まれます。

Kaseya Server データの SQL Server バックアップを作成する

1. SQL Server Management Studio を使用して、`ksubscribers` データベースをバックアップします。
2. この最新版の SQL Server のバックアップを、アーカイブフォルダ構造にコピーします。
Kaseya Server のバックアップは通常、次の場所にあります。<Kaseya インストールディレクトリ>\UserProfiles\@dbbackup

注：この手順を実行している場合は、「Kaseya Server の移動」『69 ページ』に戻ります。

SSL 証明書を使用する

R9 で、Kaseya は統合 **アプリケーションファイアウォール** をリリースしました。これは、Kaseya がホストされる Windows サーバーが送受信するウェブベースの通信すべてをモニタするものです。これにより、悪意のあるアクティビティまたはアプリケーションのセキュリティに対する攻撃を Kaseya が記録したりブロックしたりできるため、セキュリティのレベルが向上します。SSL/TLS を使用して、すべてのウェブベースの通信内容を暗号化することが強く推奨されます。

SSL/TLS は、ウェブで最もよく使用されているセキュリティプロトコルです。Google または金融サービスのウェブサイトにアクセスすると、ブラウザのアドレスバーに、ブラウザとウェブサイトとの間の通信内容が暗号化されていることを示す"HTTPS"とロックアイコンが表示されていることが分かります。

ウェブトラフィックをセキュリティ保護するには、Kaseya Application Firewall に SSL 証明書をインポートする必要があります。SSL 証明書および対応する秘密キーを使用すると、通信内容が暗号化され、サーバーの同一性を証明できます。

SSL 証明書を使用して Kaseya Application Firewall を構成する方法の詳細については、後述のオプションを参照し、さらにお使いの環境に対応するリンクをクリックして該当するナレッジベースの記事を参照してください。

1. Microsoft IIS に既にある SSL 証明書をエクスポートして、Kaseya Application Firewall で使用する場合。**詳細な手順（英語版）**『<https://helpdesk.kaseya.com/entries/58305257> を見て』を参照してください。Kaseya Server インストールウィザードには、**エクスポートした SSL 証明書を Kaseya Server に適用する**『9 ページ』ステップが含まれています。
2. SSL 証明書がなく、信頼できる証明機関（Verisign、Thawte、DigiCert など）から購入して Kaseya Application Firewall で使用する場合。**詳細な手順（英語版）**『<https://helpdesk.kaseya.com/entries/57708403> を見て』を参照してください。
3. 自作の自己署名 SSL 証明書を Kaseya Application Firewall で使用する場合。**詳細な手順（英語版）**『<https://helpdesk.kaseya.com/entries/58873886> を見て』を参照してください。

コマンドラインオプション

次の各トピックでは、KInstall.exe の稼働中に使用できるコマンドライン引数について説明します。

このセクションで

非インターネットインストール	75
ウェブプロキシ証明書を設定する	77

非インターネットインストール

新規のインストールでインターネットにアクセスせずに KInstall.exe を起動すると、次のウィザードの[Kinstall パッケージインポート]ページが表示されます。



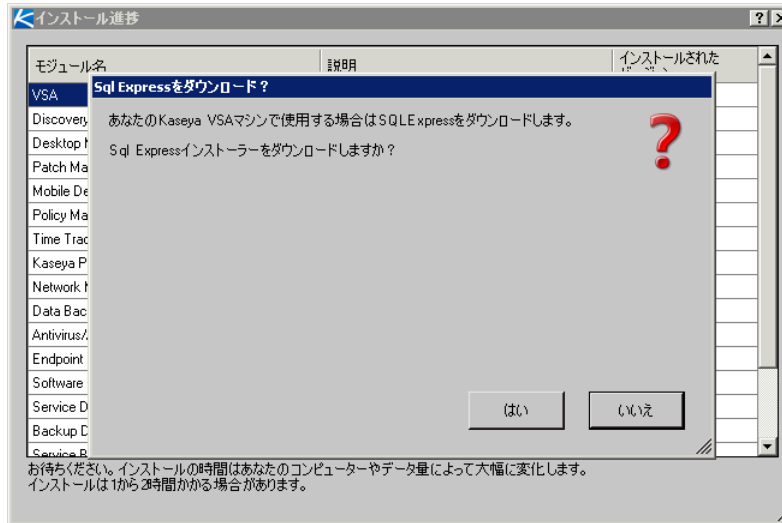
ライセンスに基づいて必要なすべてのダウンロードの**パッケージ**を作成するには、インターネットにアクセスできる状態で KInstall.exe を実行する必要があります。

Kaseya Server Setup パッケージを作成する、またはアップデートする

1. **インターネットにアクセスできるマシン**で、次のパラメータを使用して KInstall.exe を起動します。
KInstall.exe /CreatePackage
2. ライセンスコードを入力して**[次へ]**ボタンをクリックします。
ライセンスコードには、ダウンロードが許可されているすべてのインストールファイルが指定されています。
3. SQL Express のインストーラーもダウンロードする場合はその如何を尋ねられます。
 - 後でインストールする SQL Express を KInstall.exe でダウンロードする場合は、**[はい]**をクリックします。

コマンドラインオプション

- 別の SQL Server を手動でインストールする予定があるか、すでにインストールしている場合は**いいえ**をクリックします。



- すべてのインストールファイルがダウンロードされるまで待機します。
 - インターネットにアクセスしているマシンのデスクトップに、KInstallPackage.zip というファイルが作成されます。この zip ファイルには、非インターネットアクセスインストールに必要なすべてのファイルが含まれています。
- 
- KInstallPackage.zip
- KInstallPackage.zip ファイルを、インターネットにアクセスしているマシンから非インターネットアクセスマシンにコピーします。
 - KInstall パッケージインポート**ウィザードページがまだ表示されていない場合は、非インターネットアクセスマシンで再表示します。
 - 非インターネットアクセスマシンでのインストールをキャンセルした場合は、KInstall.exe を再度実行します。同じページが再度表示されます。
 - /nointernetaccess パラメータを指定して KInstall.exe を実行すると、インターネットアクセスのテストを省略して時間を短縮できます。
 - 最初に表示されるオプションは、**新規**か**更新**のいずれかですが、これは以前にパッケージをインストールしたかしていないかによって異なります。

7. **[新規]**が最初のオプションである場合は、参照ボタン ([...]) をクリックして、インターネットアクセスマシンからコピーした KInstallPackage.zip を指定します。



8. **[アップデート]**が最初のオプションである場合、KInstallPackage.zip が既に 1 回以上インストールされています。2つのオプションのいずれかを選択します。
- **アップデート** - 新しい KInstallPackage.zip をダウンロードした場合。参照ボタン ([...]) をクリックして、インターネットアクセスマシンからコピーした KInstallPackage.zip を指定します。
 - **既存の KInstallPackage インポートを使用** - 既にインストールしている KInstallPackage.zip を使用する場合。
9. **[次へ]**ボタンをクリックします。
- KInstallPackage.zip ファイルが、非インターネットアクセスマシンの新規かつ永続的な場所に移動され、インストールファイルが抽出されます。
 - 以後、インターネットアクセスは必要ありません。必要なファイルをすべて入手していません。
10. この後は、**ステップバイステップインストールの 7. SQL サーバー認証の提供** 『6 ページ』に従ってください。

ウェブプロキシ証明書を設定する

注：このトピックは、お使いの **Kaseya Server** がインターネットに接続していないが、プロキシを使用してインターネットに接続できる場合に関するものです。

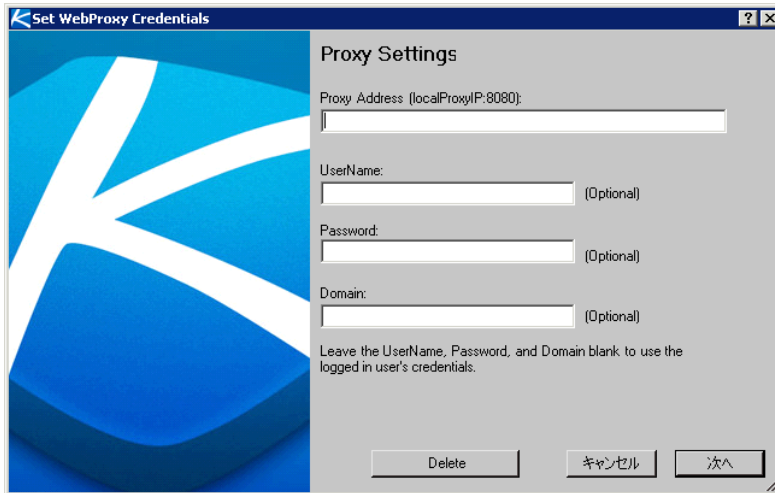
[プロキシの設定]ダイアログを使用すると、KInstall.exe はプロキシ IP とポート経由でインターネットにアクセスできます。プロキシが要求する場合、証明書を指定できます。IP アドレスとユーザー名は暗号化され、使用するたびに保存されます。パスワードは絶対に保存されません。

/SetWebProxy:On

プロキシダイアログを有効にするには、次のコマンドライン引数を使用します。

KInstall /SetWebProxy:On

有効にすると、コマンドラインに/SetWebProxy:On 引数を指定するかどうかに関わらず、KInstall.exe を実行するたびにプロキシダイアログが表示されます。毎回プロキシダイアログが表示されることにより、プロキシ設定が有効であることを確認できます。また、証明書を指定する必要がある場合は、プロキシダイアログに証明書のパスワードを再入力することができます。



次のフィールドは必須です。

- **プロキシアドレス** - ローカル IP アドレスを入力します。オプションでポートを指定します。例 : 10.10.10.250:8080

オプションで、次のフィールドに値を入力します。証明書を入力しない場合、プロキシへのアクセスには、ログオンしているユーザーの証明書が使用されます。

- **ユーザー名** - ユーザー名を入力します。
- **パスワード** - パスワードを入力します。パスワードは絶対に保存されません。プロキシ証明書の指定が必須の場合は、KInstall.exe を実行するたびに再入力する必要があります。
- **ドメイン** - 必要に応じて、ドメインを入力します。

[**プロキシ設定**]の入力または再入力を行った後、[**次へ**]をクリックし、**ステップバイステップインストール**『3 ページ』の手順で KInstall.exe のインストールを実行します。

/SetWebProxy:Off

プロキシダイアログを無効にするには、[**削除**]ボタンをクリックするか、次のコマンドライン引数を使用します。

KInstall /SetWebProxy:Off

SQL Server Reporting Services の設定

VSA の新規インストールに伴うレポートサービス

VSA を新規インストールすると、小規模の VSA の実装に関するレポートを実行する、組み込みの専用レポートサーバーが提供されます。デフォルトでは、このレポートサーバーは、VSA の新規インストールで使用されます。SQL Server Reporting Services (SSRS)は、その場合でも、より大きな実装物としてサポートができます。

既存の VSA をアップグレードする場合のレポートサービス

前のバージョンは、SQL Server Reporting Services (SSRS)を使用するために必要でした。VSA のアップグレード後も、同じレポートサーバーを引き続き使用できます。

SSRS を構成、または再構成する場合は、下記のトピックを参照してください。

このセクションで

SSRS 構成ガイドライン	79
SSRS URL を指定	79
SSRS2005 にデフォルト設定を再適用	86
リモート SSRS 2005 構成	89
リモート SSRS 2008 構成	93
カスタム証明書をリモートレポートサーバーに加える	97
レポートロゴ URL の設定	103

SSRS 構成ガイドライン

- SQL Server が *Reporting Services* と共にインストールされていることを確認します。
- K2 の Reporting Services が準備できていることを確認します。詳細は、Kaseya の [ナレッジベース](https://helpdesk.kaseya.com/entries/33664396) 『<https://helpdesk.kaseya.com/entries/33664396> を見て 』を参照してください。
- 他に参考となる項目は以下のとおりです：
 - 「MS Reporting Services 2008 の配置」 (英語版) 『<http://technet.microsoft.com/en-us/library/bb522791.aspx> を見て 』
- レポート・サーバーをブラウズして、Reporting Services のインストールを確認します。この URL は、VSA のインストールに必要です。
 - ローカルホストがインストールされている場合は、<http://localhost/ReportServer> を使用します。認証なしで、Reporting Services のホームページにアクセスできる必要があります。
 - SQL が別のサーバーにある場合、<http://<SSRS システム名>/ReportServer> を使用して、Kaseya Server サーバーからこのページにアクセスできなければなりません。
 - デフォルトのインスタンスを使用していない場合、URL は [http://localhost/<SSRS システム名\\$インスタンス名](http://localhost/<SSRS システム名$インスタンス名) です。

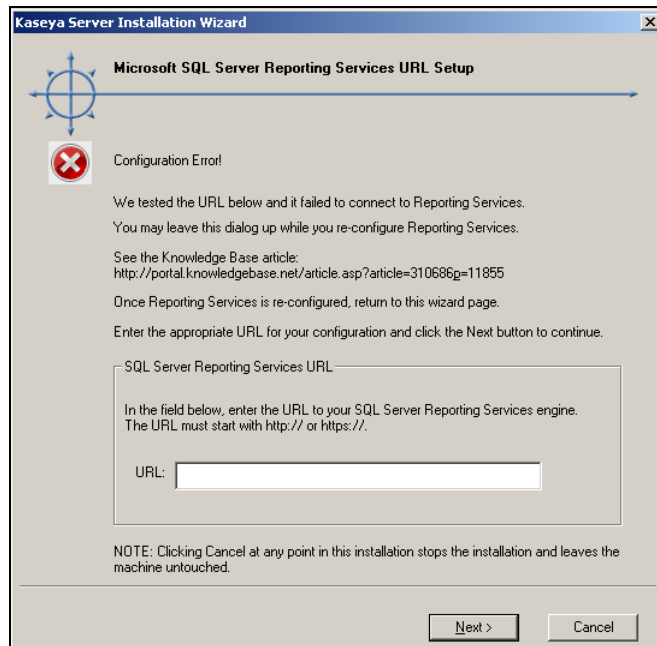
注：「[SSRS URLを指定](#)」『[79ページ](#) 』を参照してください。

SSRS URL を指定

SQL Server レポートサービスに接続するための URL が必要です。SSRS はローカルで、または Kaseya Server からリモートでインストールできます。

Kaseya Server は、インストール時またはアップデート時にこの URL を自動的に特定し、レポートサービスへの接続を試行します。接続に失敗すると、ウィザードページが表示され、手動で

URL に入るよう要求します。



このトピックでは URL がどうなっていなければならないかを、3 種類のソフトパッケージの設定を使って、どのように決定するかのガイドを提供します。3 つのパッケージがすべて、組み込みが成功すれば、これらの設定がお互い統一性が取れているはずです。

- レポートサービス構成
- IIS
- VSA > [システム] > [構成] ページ (のインストール後)

SSRS URL のフォーマット

VSA がレポートサービスへの接続に使用する URL は次のフォーマットです。

`http://<SSRS システム名>/ReportServer/ReportService2005.aspx`

- ローカルで SQL Server にログインする場合、上のフォーマットの<SSRS システム名>を `localhost` に置き換えることができます。
- SQL Server 2005 と SQL Server 2008 の両方で `ReportService2005.aspx` を使用してください。
- MSSQLServer のデフォルトインスタント名を使用していない場合は、\$インスタンス名のフォーマットでインスタント名を含める必要があります。例を示します。
`http://localhost/<SSRS システム名$インスタンス名>/ReportServer/ReportService2005.aspx`

たとえば、SSRS SQL Server 2008 の名前が `OhioStar` で、MSSQLServer のデフォルトインスタンス名を使用している場合、URL は次のようになります。

`http://OhioStar/ReportServer/ReportService2005.aspx`

ウェブブラウザを使って SSRS URL を照合

SSRS URL がどうあるべきかを特定するのに、上のフォーマットの議論で十分ならば、好きなウェブブラウザを使って URL をすぐにテストできます。接続に成功すれば、上と同じような、レポートサーバー確認ページが現れます。

注：リモートでログインする場合、認証が必要なことがあります。

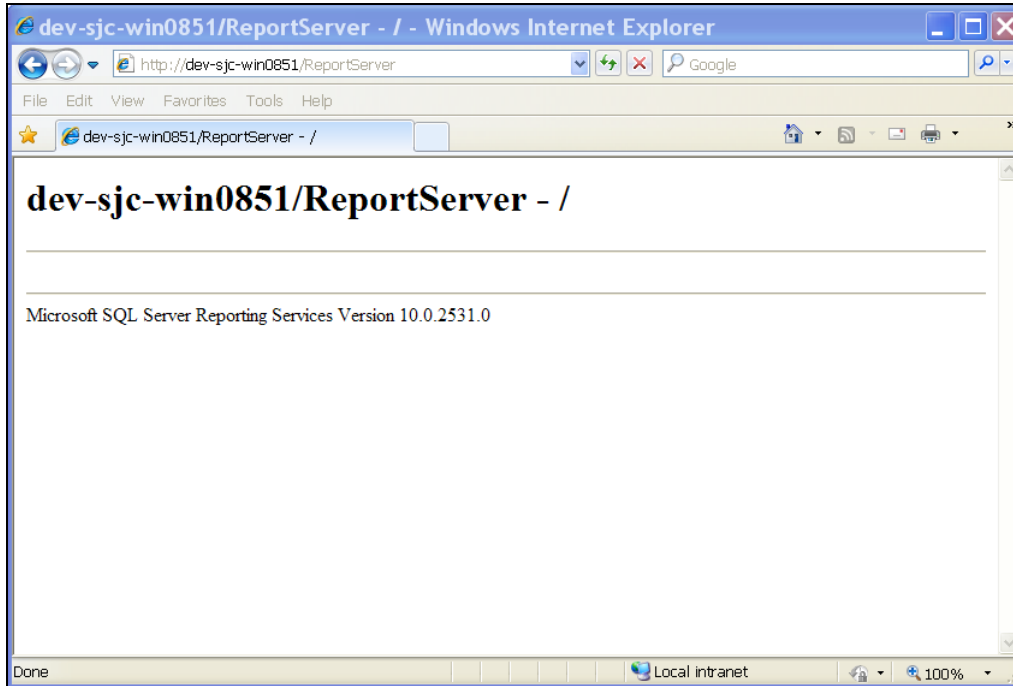
ファイル名 `ReportService2005.asmx` を除く、URL の最初の部分だけを入力します。

- 設置場所からログオンする場合は、以下を入力します：

`http://localhost/ReportServer`

- リモートでログオンする場合は、`localhost` の代わりに SSRS システム名を入力します。例：

`http://OhioStar/ReportServer`



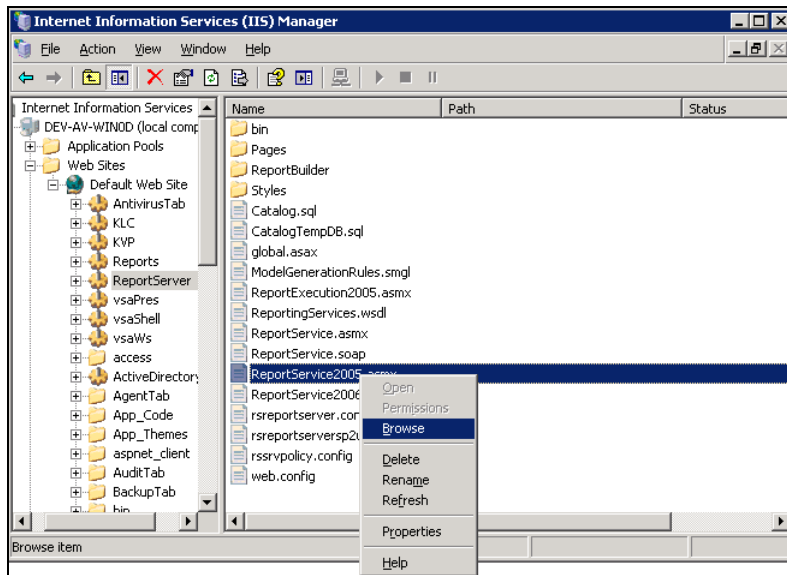
SSRS 2005 URL を認識する

SSRS 2005 を使用していて、上に記載の URL のブラウザテストが失敗したなら、以下の設定をチェックしてください。

1. お使いの SSRS をホストするシステム上の IIS 6.0 で、[Default Web Site] > [ReportServer Virtual Directory] を選択します。右側のパネルに `ReportService2005.asmx` ページが表示されるはずです。

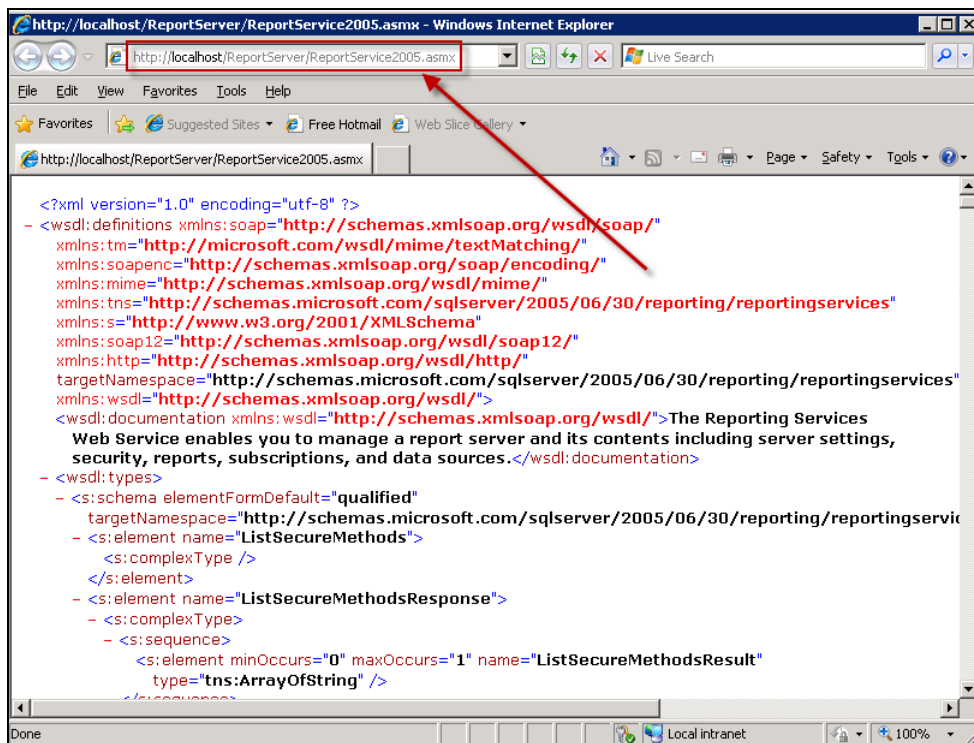
SQL Server Reporting Services の設定

2. ReportService2005.asmx ページを右クリックし、[参照]オプションを選択します。



3. 通常は、ブラウザーのページに、SOAP XML ステートメントが表示されます。お使いの VSA で SSRS に接続するには、ブラウザに表示された URL を使用する必要があります。下の例では、URL は以下のようにになっています：
<http://localhost/ReportServer/ReportService2005.asmx>.

注：この URL を使用してもこのページにエラーメッセージが表示される場合、SSRS が正しく構成されていません。

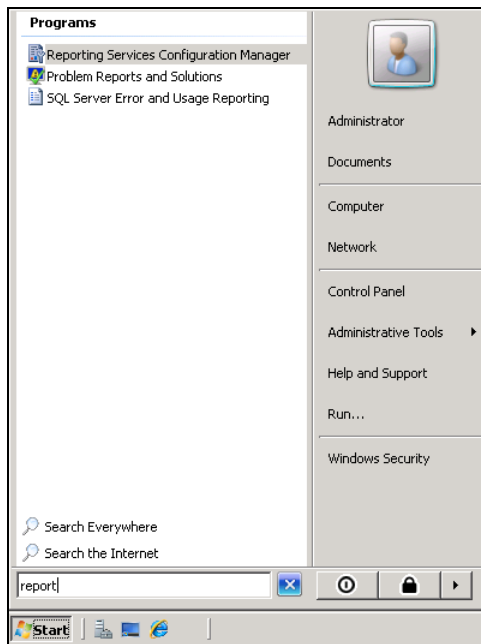


SSRS 2008 URL を認識する

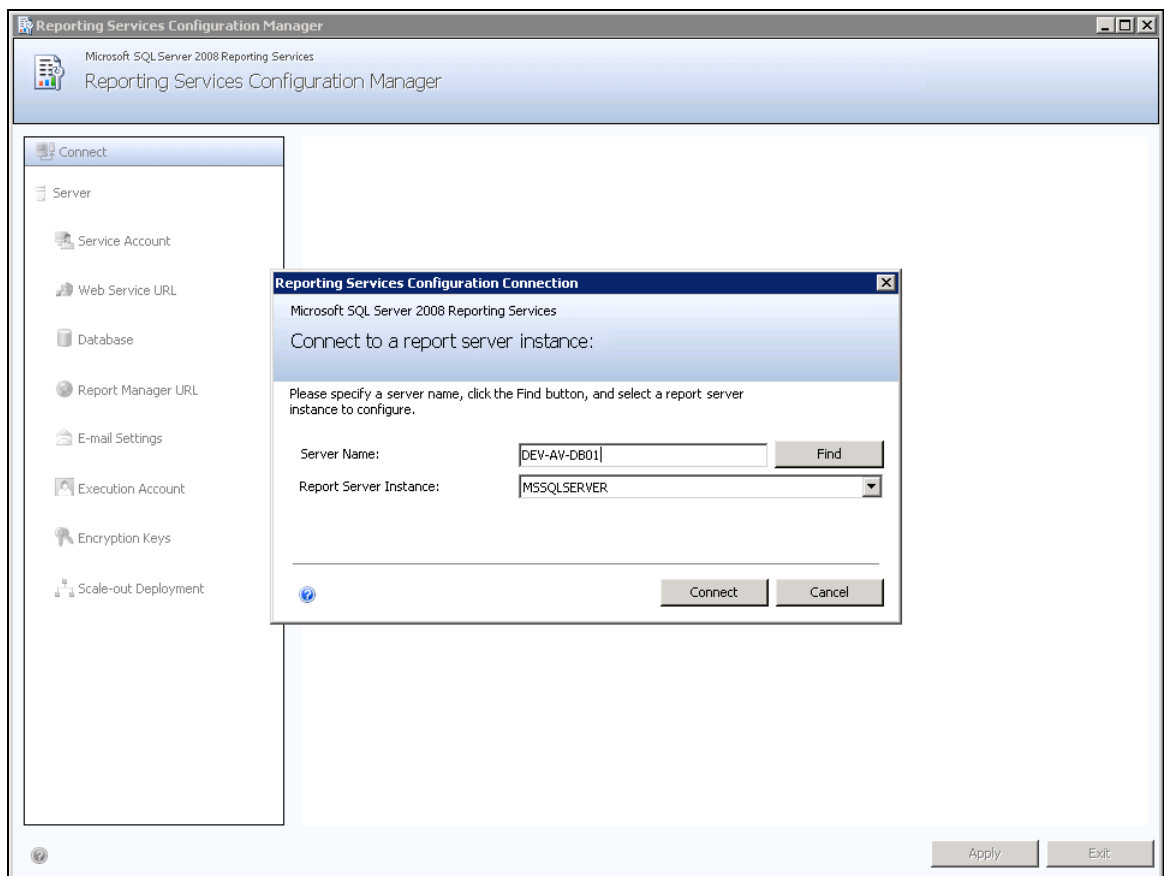
SSRS 2008 を使用していて、上に記載の URL のブラウザテストが失敗したなら、以下の設定をチェ

ックしてください。

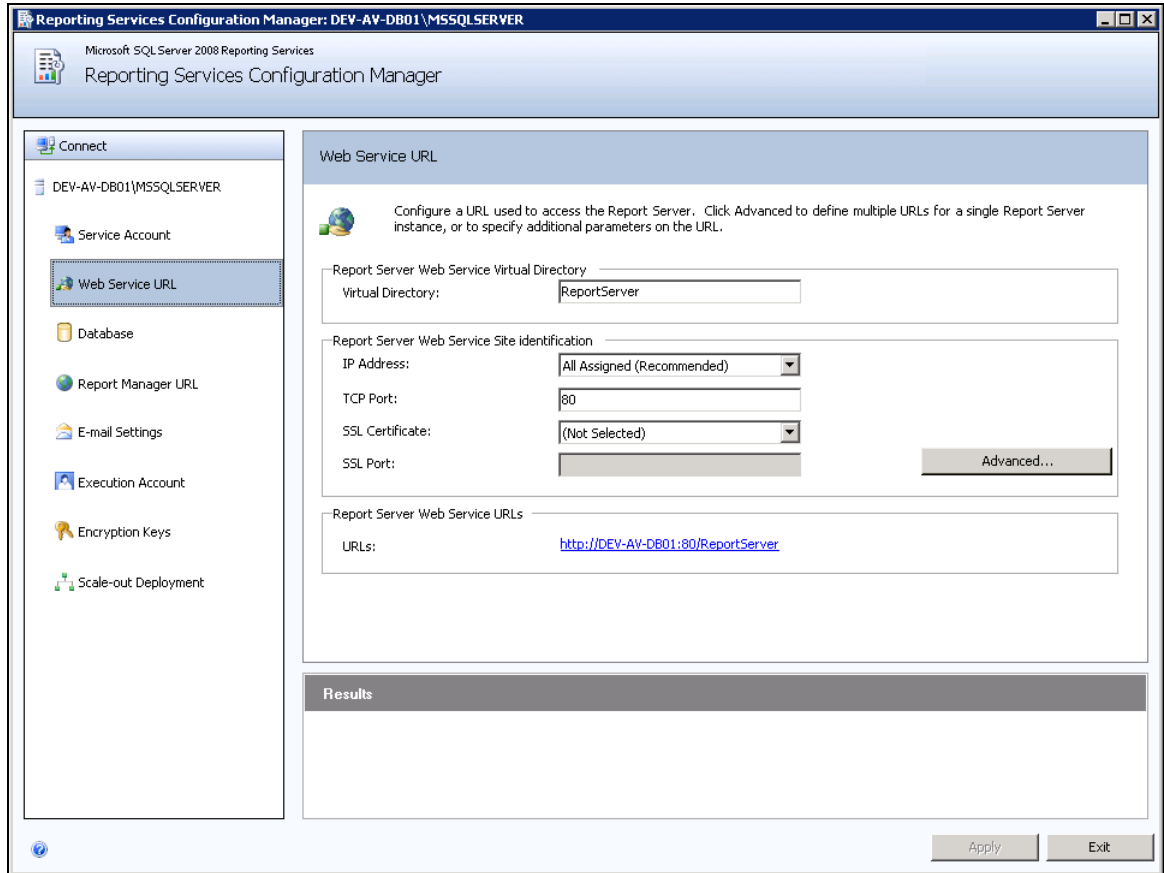
1. サービス構成マネージャを報告するに行き、それを開きます。



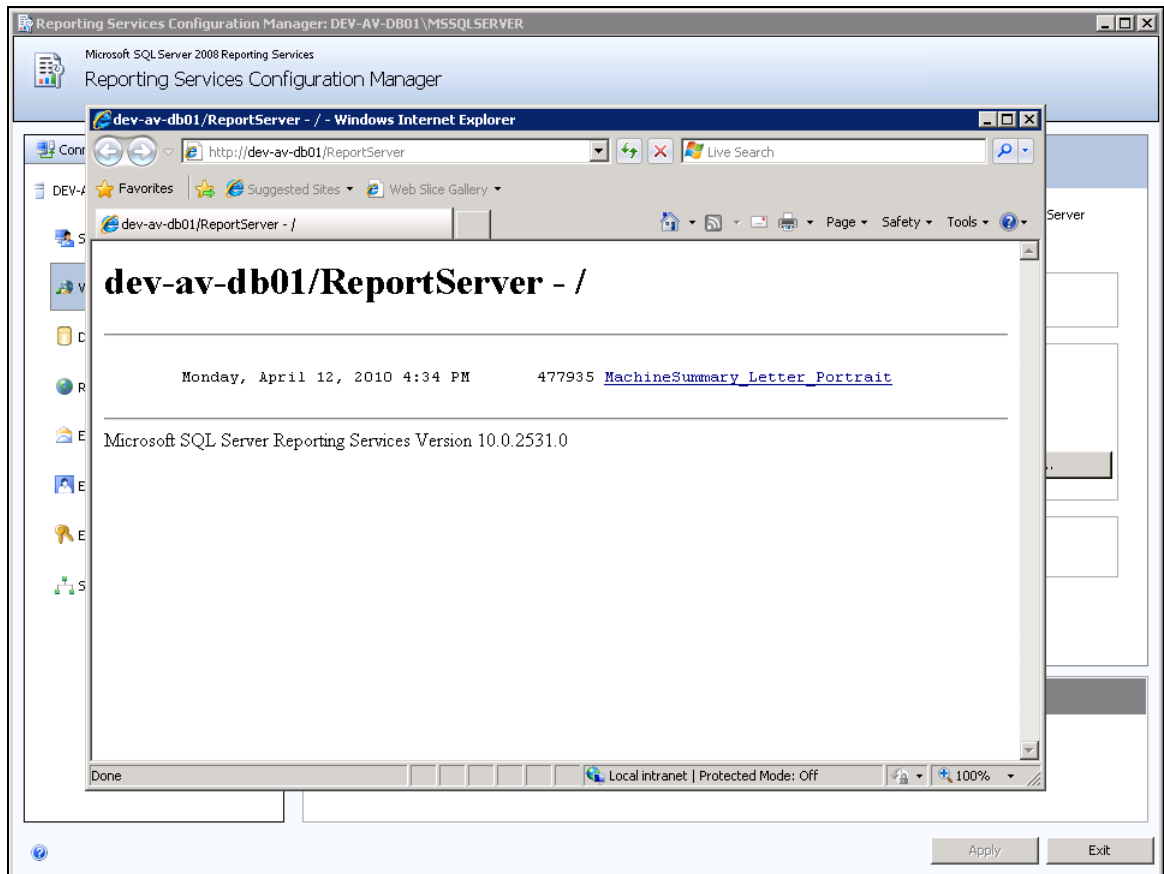
2. あなたの SSRS サーバーとインスタンスに接続します。



3. **ウェブサーバーURL** メニューオプションを選択します。そして**レポートサーバーウェブサービス URL** リンクをクリックします。



4. レポートサーバー確認ページが表示されます。



ウィザードページに戻る

一旦照合すると、SSRS URL が作動していることになり、ウィザードページの編集フィールド内の SSRS URL に入ることができ、 のアップデート、または新規インストールを継続できます。

アップデート、またはインストールをキャンセルすると、または同じウィザードエラーページに遭遇すると、作動している SSRS URL に入り、アップデート、またはインストールが継続されるか確認します。SSRS が正しく構成されても、ウィザードエラーページが表示される場合もあります。この場合は、手動で正しい URL に入って継続します。

VSA 内で SSRS の URL を指定する

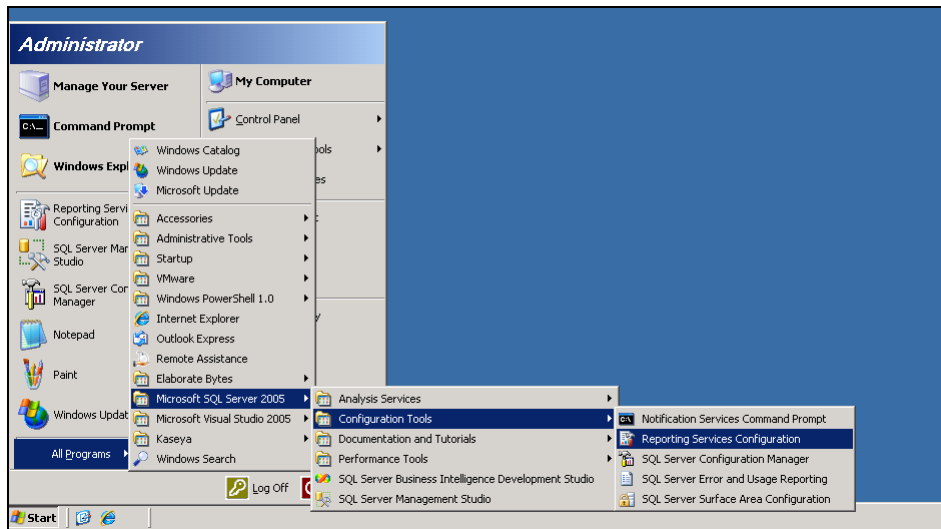
のインストール後は、いつでも[システム] > [構成]ページにアクセスして、VSA 内から別の SSRS の URL を指定できます。[URL 変更]ボタンをクリックし：

- VSA が SSRS への接続に使用する URL の表示または変更
- **レポートを稼動するために証明書を設定します** 『97 ページ』。
- **レポートロゴ URL を設定します** 『103 ページ』。

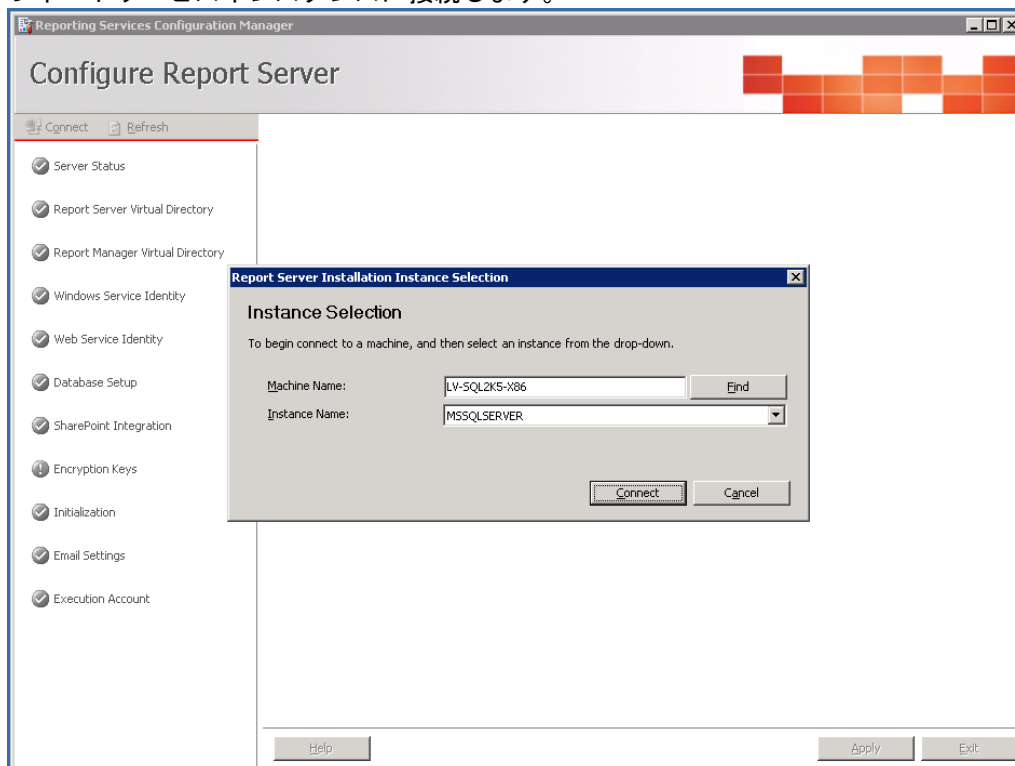
SSRS2005 にデフォルト設定を再適用

この項目は、SSRS 2005 のデフォルト設定を回復するに必要な手順を記載しています。[情報センター](#)内でエラー実行レポートに遭遇すると、これらの手順を実行しなければなりません。

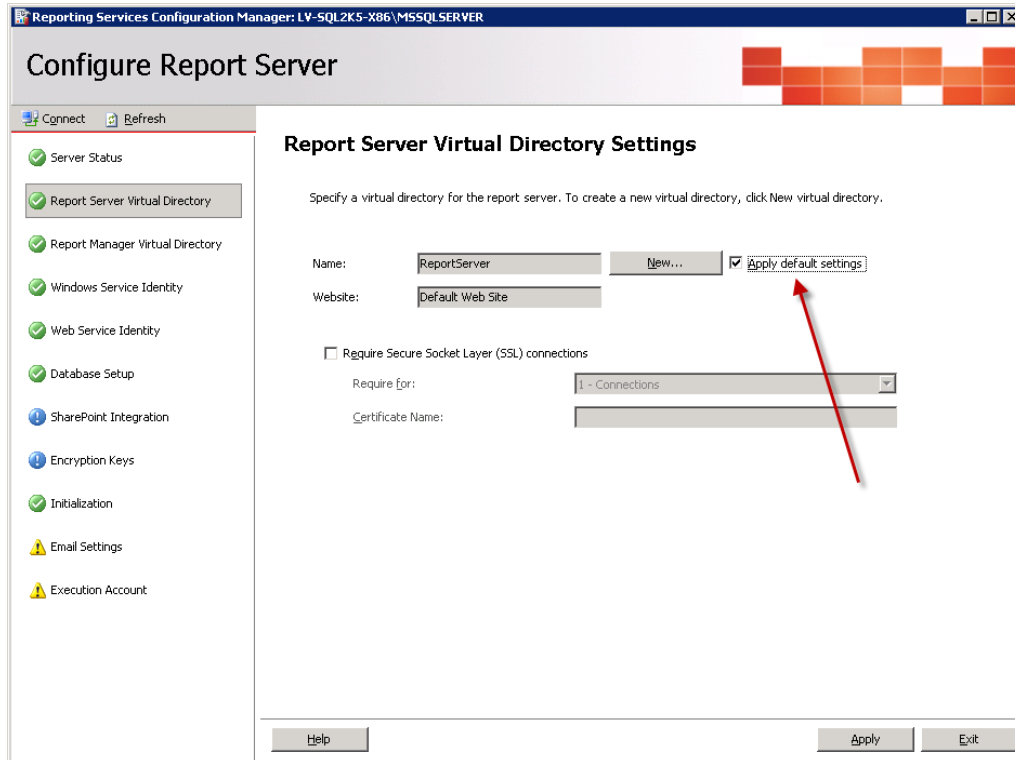
1. SSRS 2005 のホストシステムにログオンします。
2. **サービス構成を報告** アプリケーションを開きます。



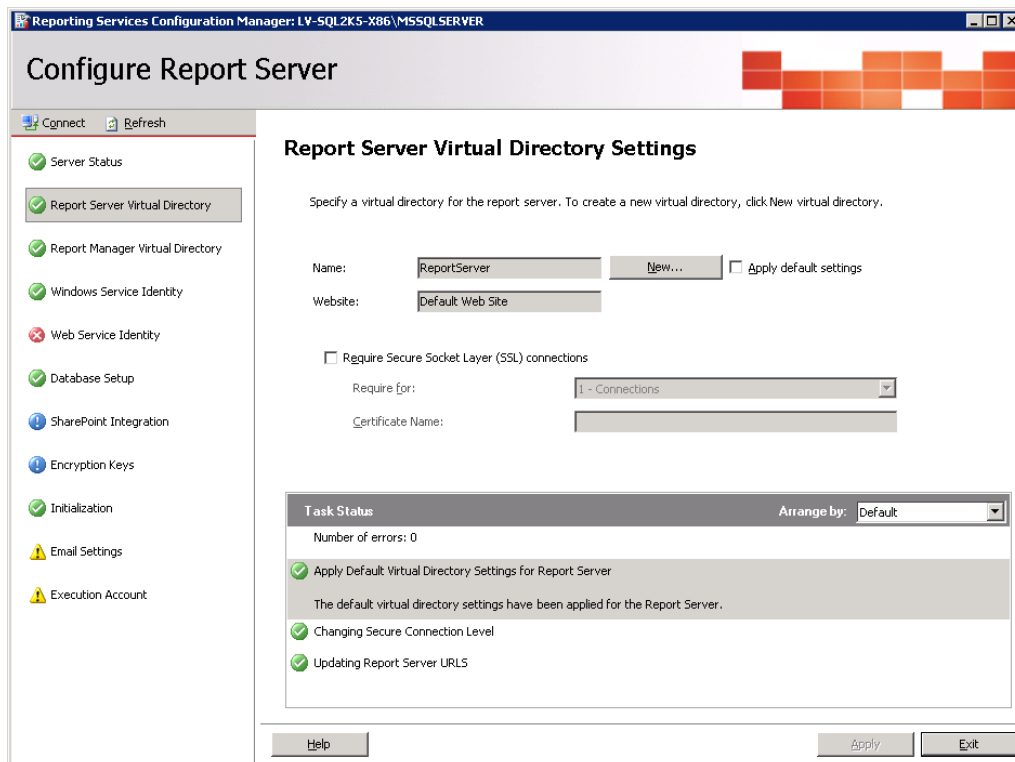
3. レポートサービスインスタンスに接続します。



4. [レポートサーバー仮想ディレクトリ]に移動し、[既定の設定を適用]チェックボックスをチェックします。

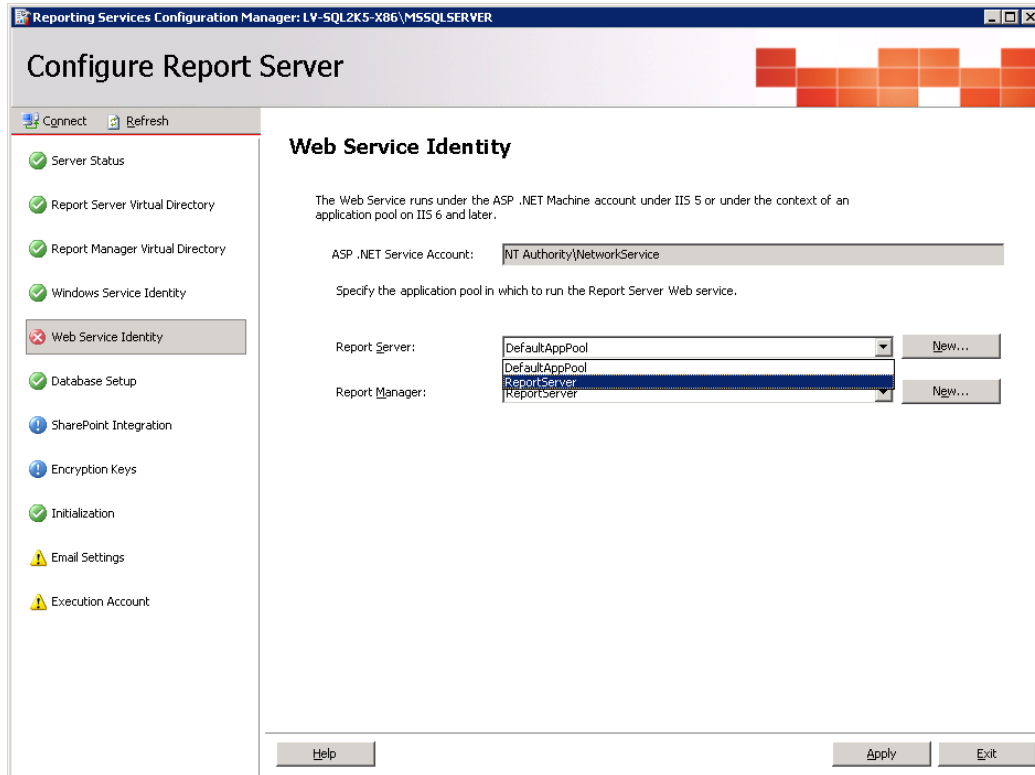


5. [適用]ボタンをクリックします。

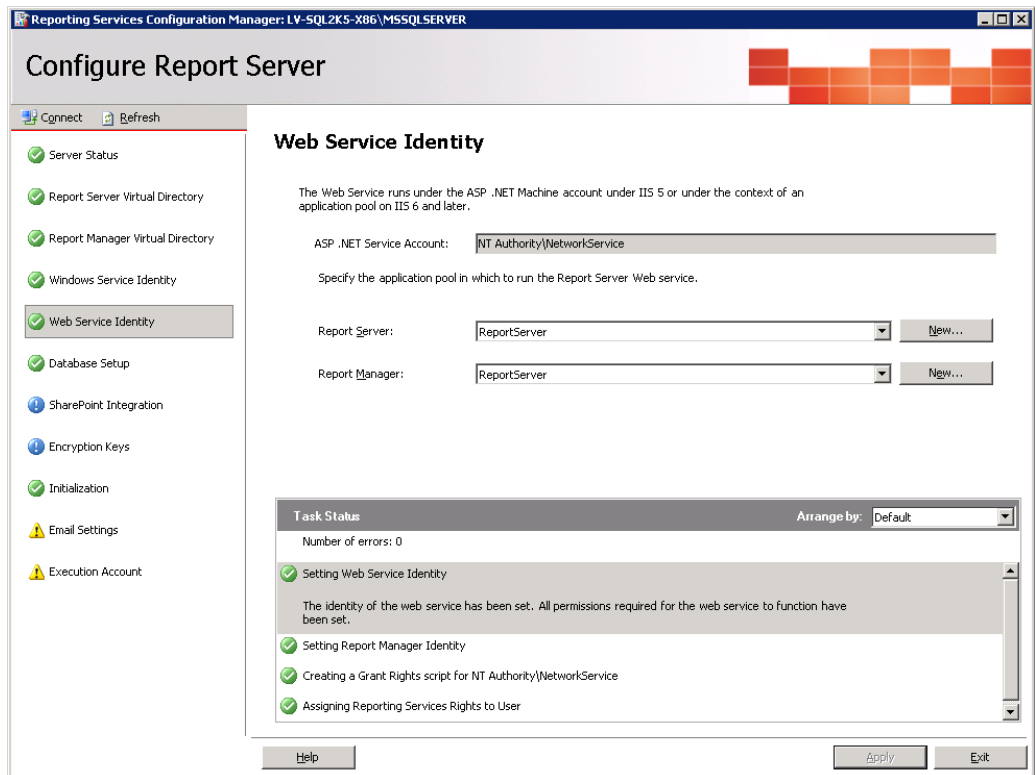


SQL Server Reporting Services の設定

6. [Web サービス ID]に移動し、アプリケーションプールがすべて[ReportServer]に設定されていることを確認します。



7. [適用] ボタンをクリックして変更を実行してください。



この段階で、SSRS 2005 のインストールはデフォルト設定にリセットしていなければならず、

あなたのレポートは正しく行われていなければなりません。

リモート SSRS 2005 構成

Kaseya Server とは別のマシン上にある SSRS 2005 が VSA レポートの実行を試行すると、次の接続エラーが表示されます。

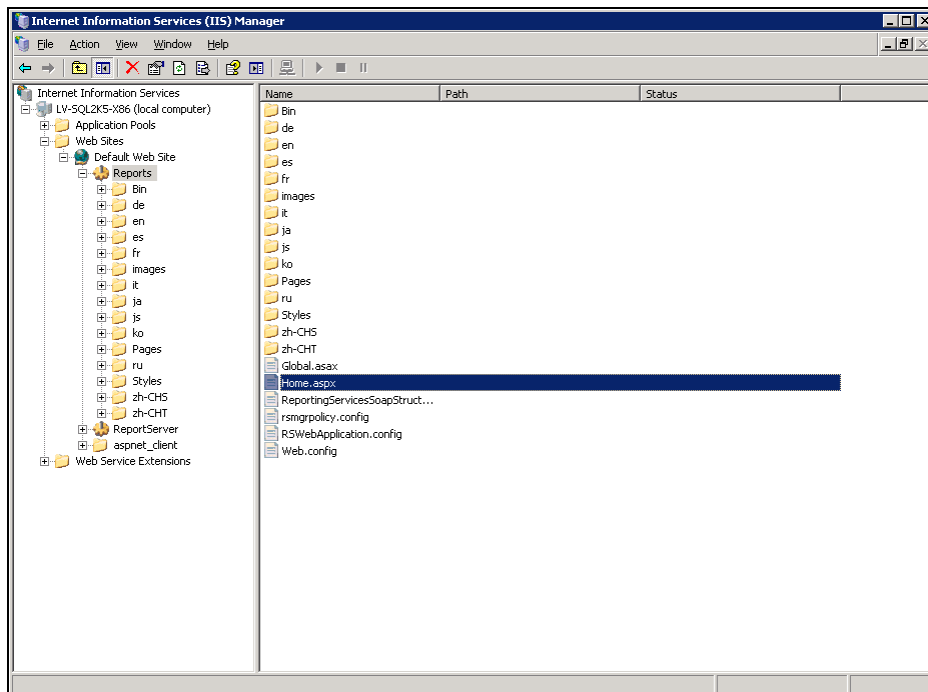
エラー: ユーザー '<ドメイン>\<ユーザー名>' には、この操作を行うのに必要な権限が与えられていません。

... 以下の構成を実行します。

レポートマネージャに "任意" システムユーザーを作成

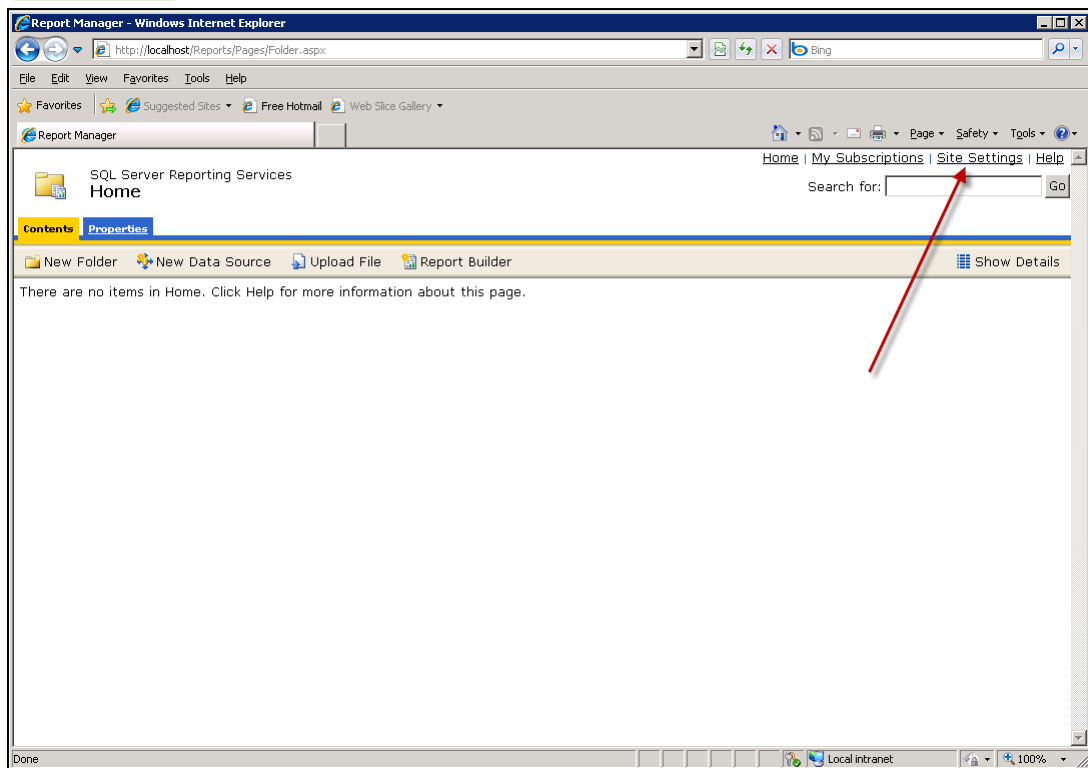
以下の手順で、SSRS にアクセスする全ユーザーに "サイトレベル" セキュリティ設定を適用します。

1. SQL Server2005 のホストシステムにログオンします。
2. IIS マネジャーを開く
3. レポートバーチャルディレクトリに行きます。
4. Home.aspx 右クリックし、[参照]オプションを選択します。

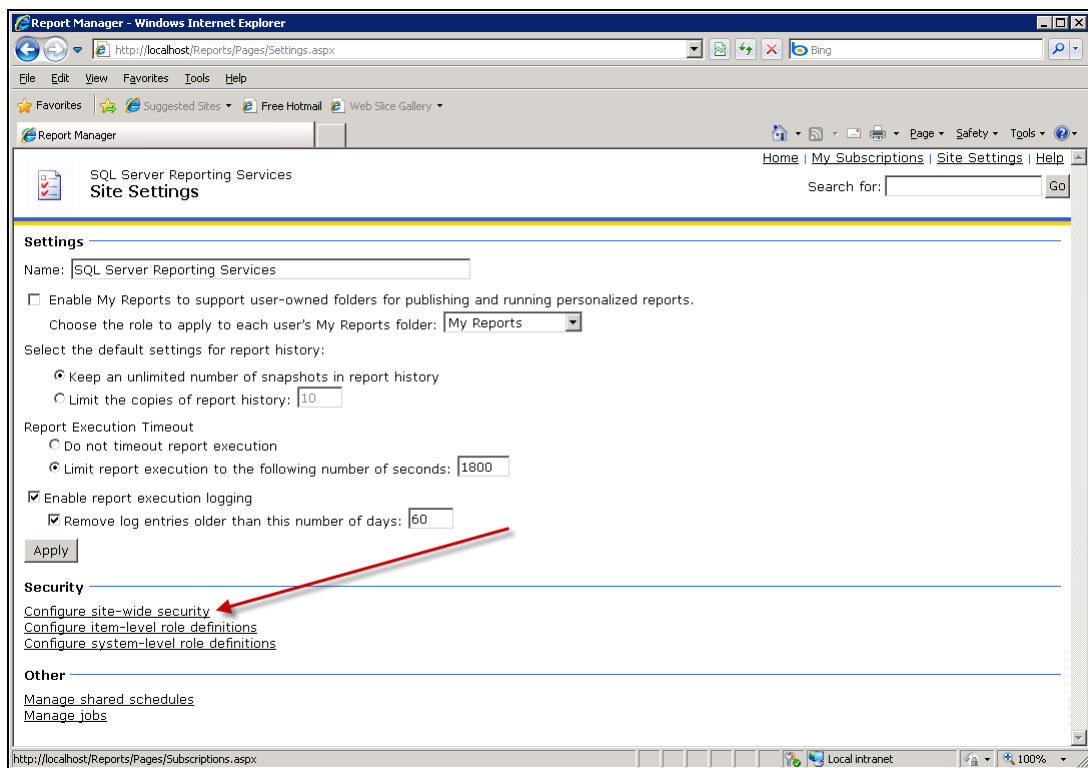


SQL Server Reporting Services の設定

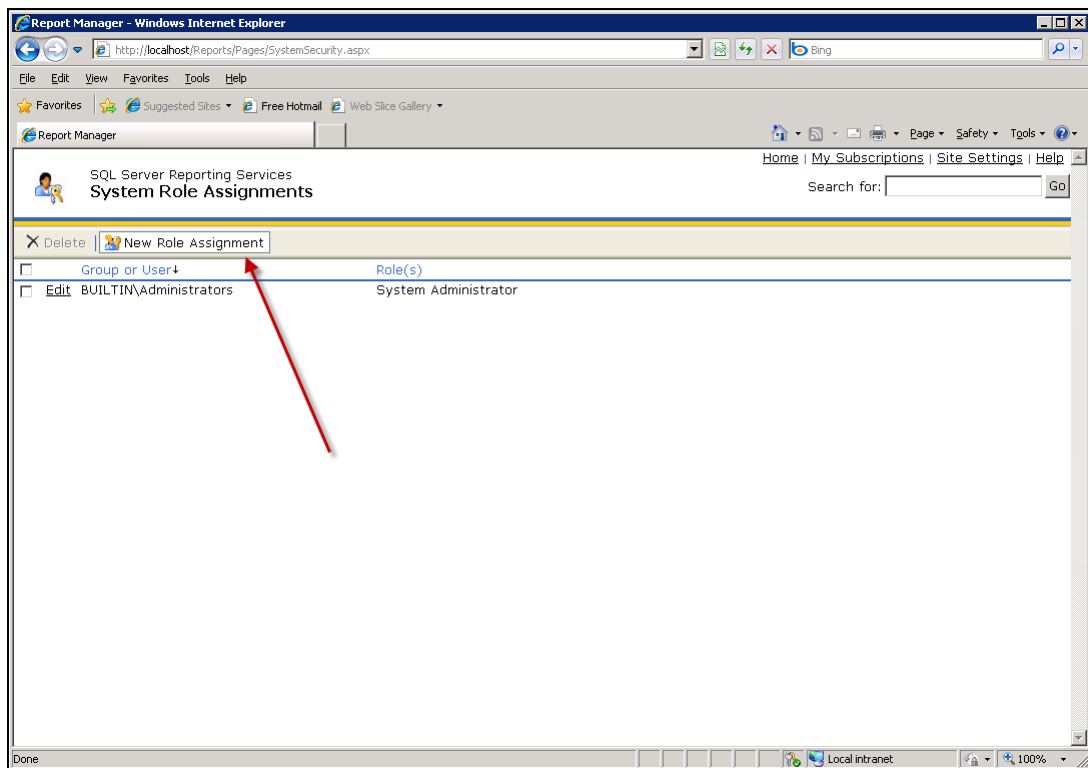
5. [サイトの設定]リンクをクリックします。



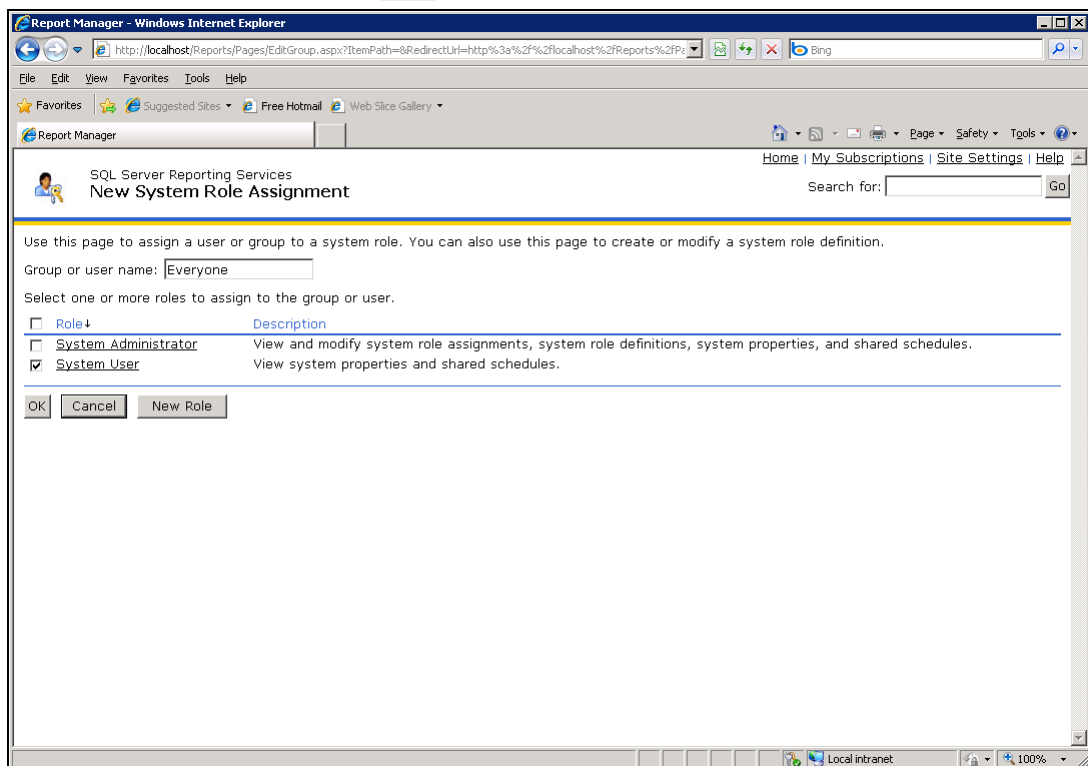
6. それから**サイトレベルセキュリティの構成**をクリックします。



7. それから**新しい役割の任命**をクリックします。

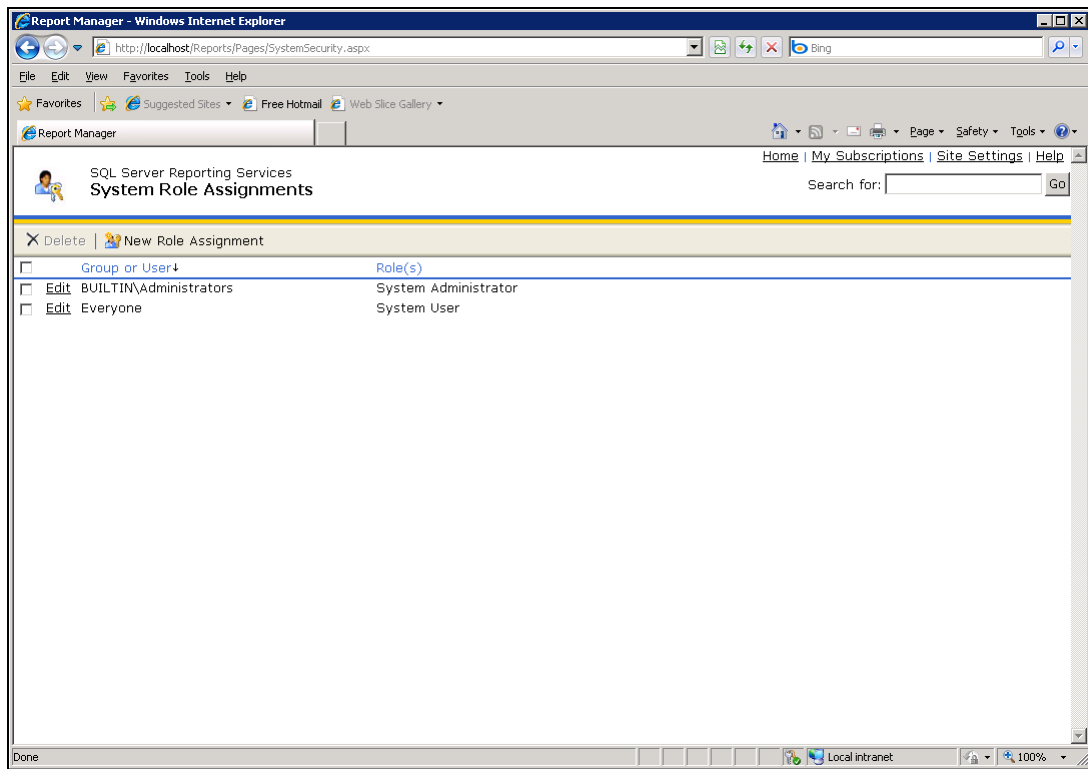


8. システムユーザーの役割をもつ全員という名前のユーザーを作成します。OK をクリック。



SQL Server Reporting Services の設定

9. できました！あなたのレポートは、今作動するはずです。



リモート SSRS 2008 構成

Kaseya Server とは別のマシン上にある SSRS 2008 が VSA レポートの実行を試行すると、次の接続エラーが表示されます。

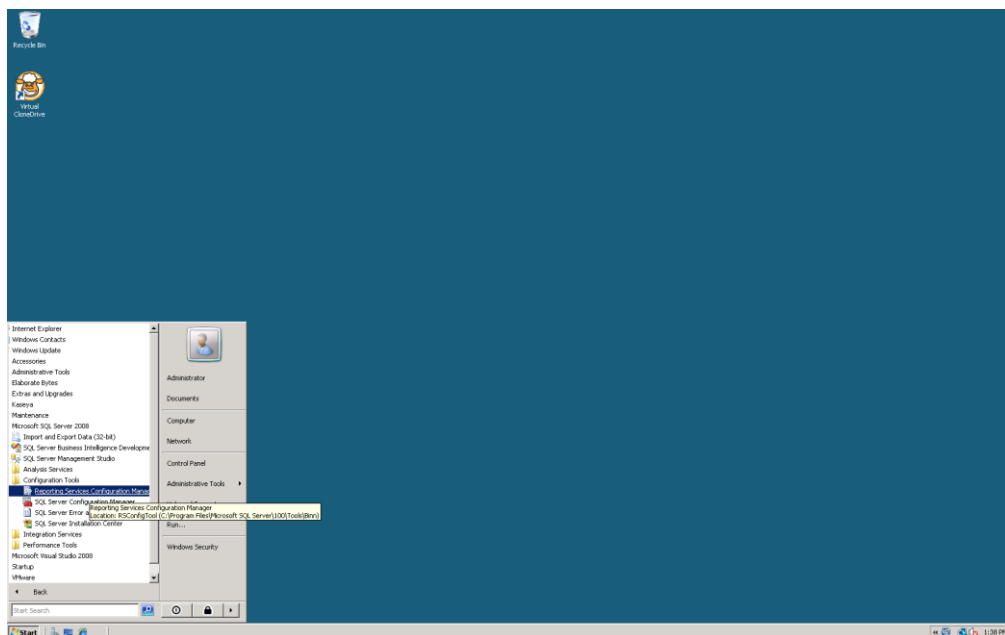
エラー: ユーザー '<ドメイン>\<ユーザー名>' には、この操作を行うのに必要な権限が与えられていません。

... 以下の構成を実行します。

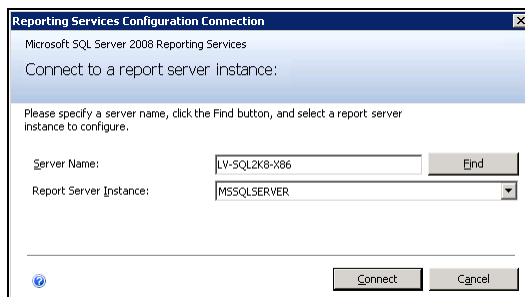
レポートマネージャに "任意" システムユーザーを作成

以下の手順で、SSRS にアクセスする全ユーザーに "サイトレベル" セキュリティ設定を適用します。

1. あなたの SQL Serve 2008 ボックスにログインしてください。
2. **サービス構成マネージャを報告する**を開きます。

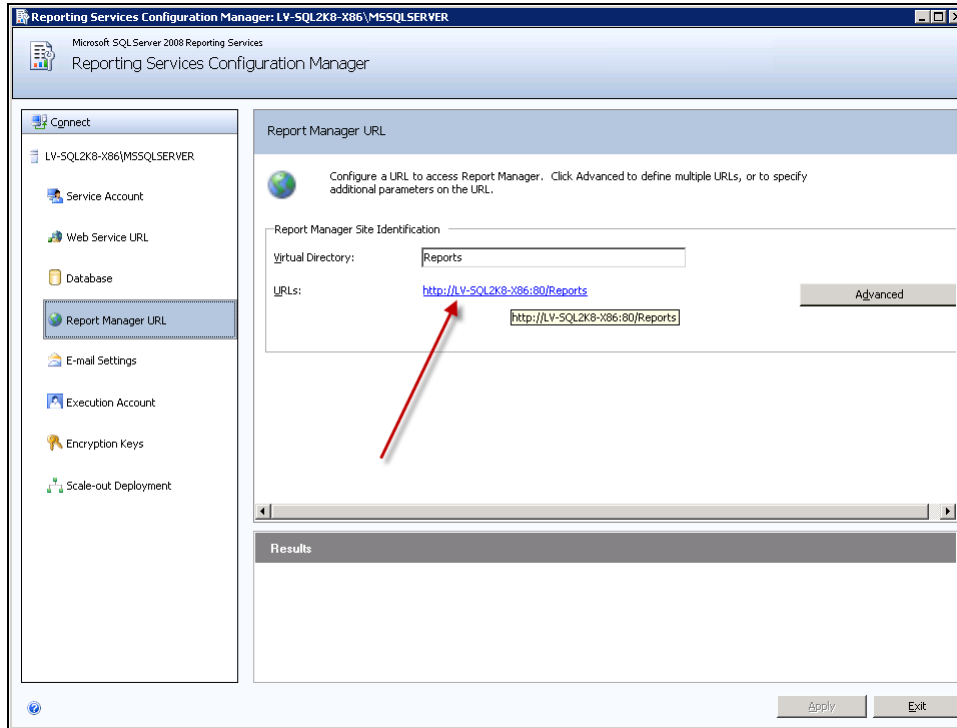


3. レポートサービスインスタンスに接続します。

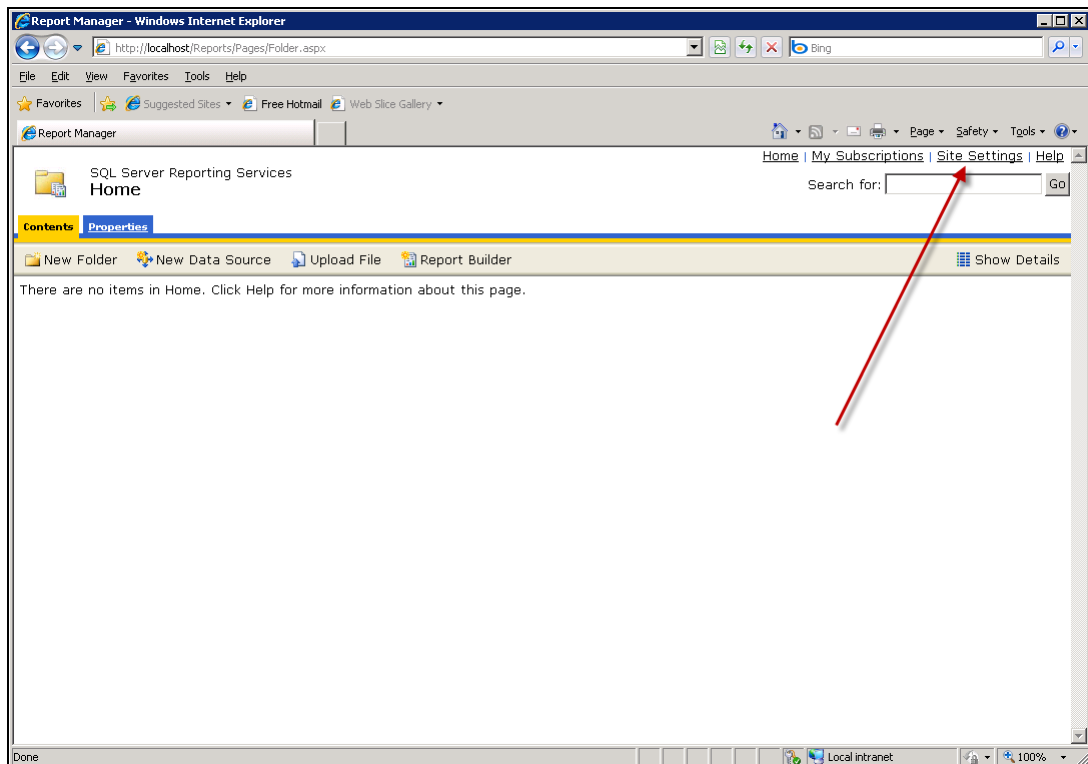


SQL Server Reporting Services の設定

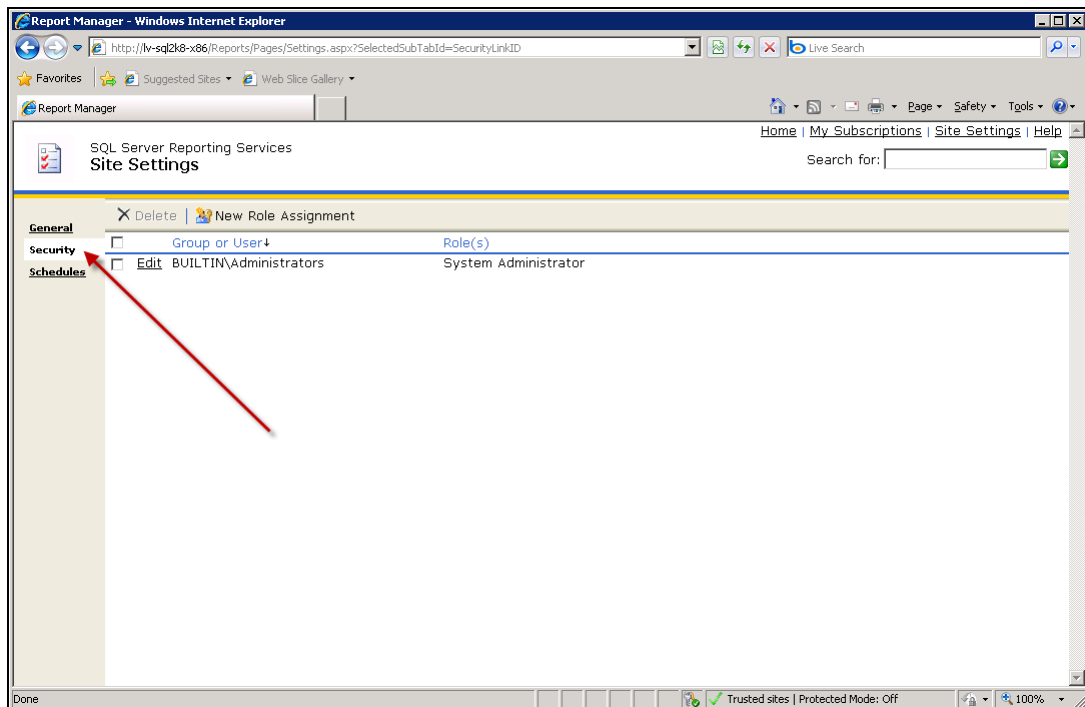
4. **レポートマネージャ URL**に行きます。リンクを貼った URL をクリックします。ユーザー名とパスワードを要求されます。あなたのドメインのアカウントをお使いください。



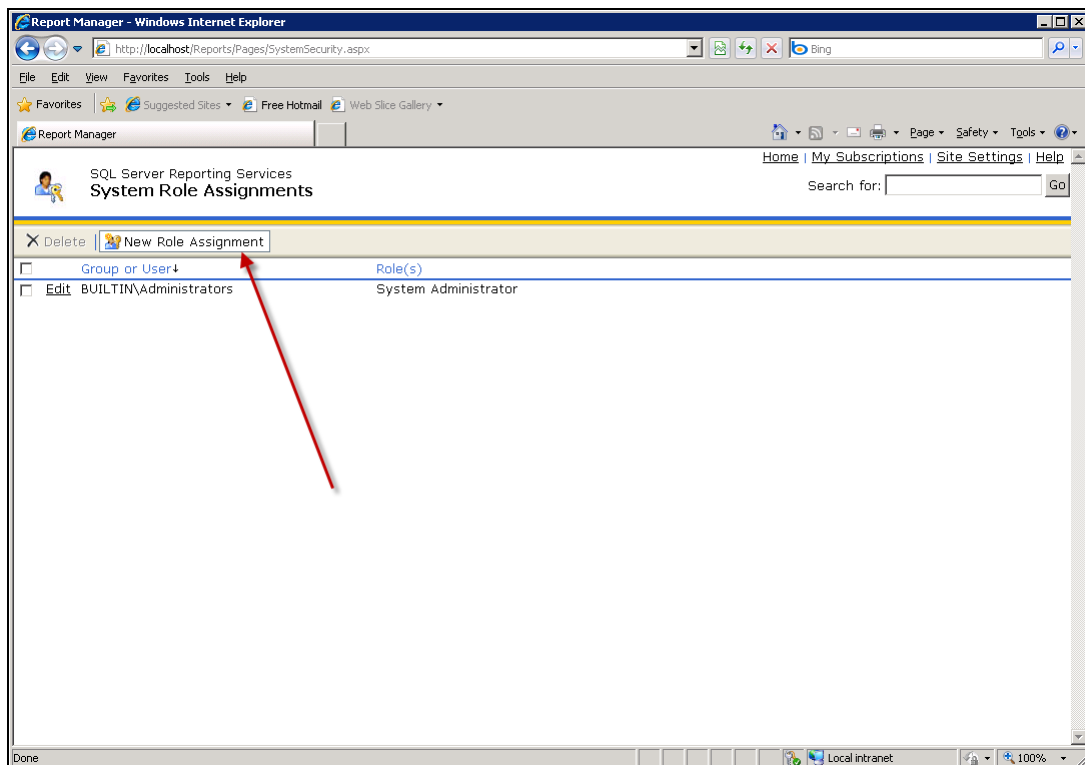
5. 以下の画面が現れるはずですが。**サイト設定**をクリックします。



6. それから、ページの左側の**セキュリティ** をクリックします。

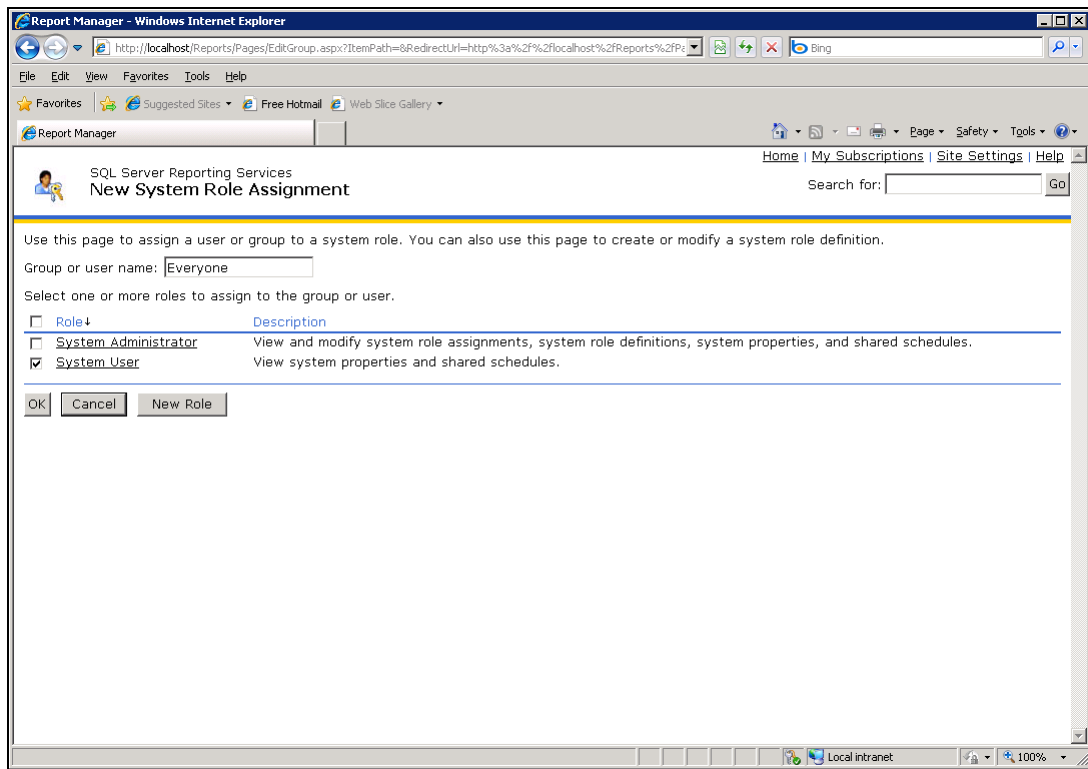


7. それから**新しい役割の任命**をクリックします。

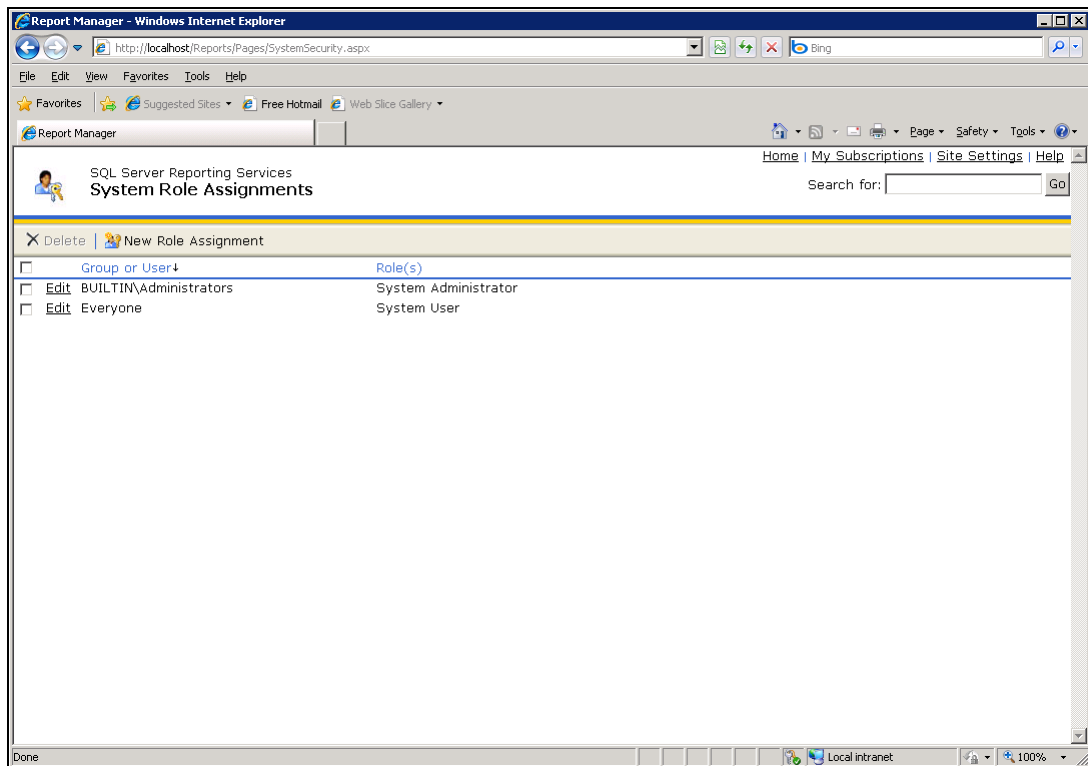


SQL Server Reporting Services の設定

8. システムユーザーの役割をもつ全員という名前のユーザーを作成します。OK をクリック。



9. できました！あなたのレポートは、今作動するはずですよ。

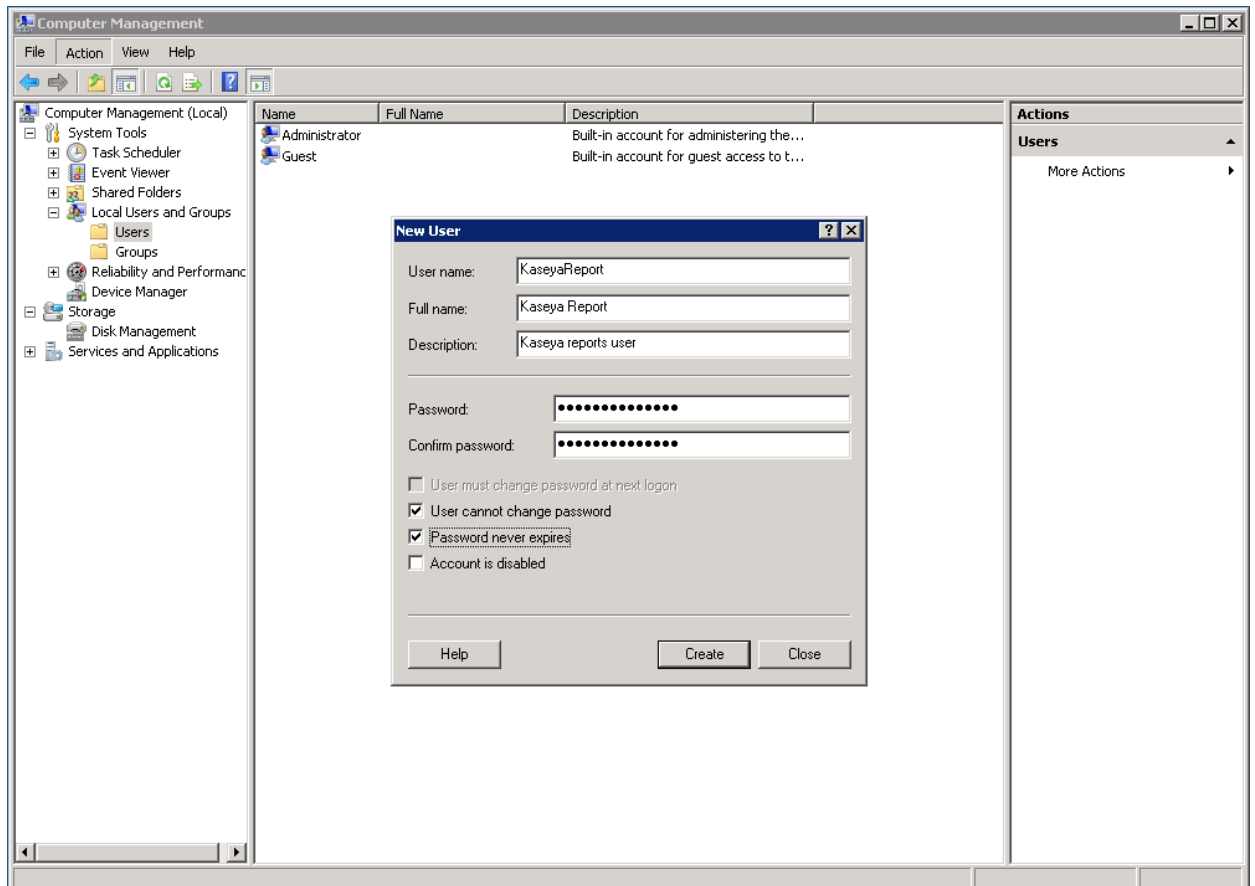


カスタム証明書をリモートレポートサーバーに加える

VSA のすべてのユーザーに、SSRS レポートを実行できる証明書を提供できます。これにより、SSRS へのアクセスが必要な VSA の各ユーザーについて、アクセス権を管理する必要がなくなります。これは特に、ドメイン内ではなくワークグループ内の VSA ユーザーに適用されます。ワークグループ内のユーザーには、SSRS へのアクセス権を管理する Active Directory のような集中管理の認証方法がありません。

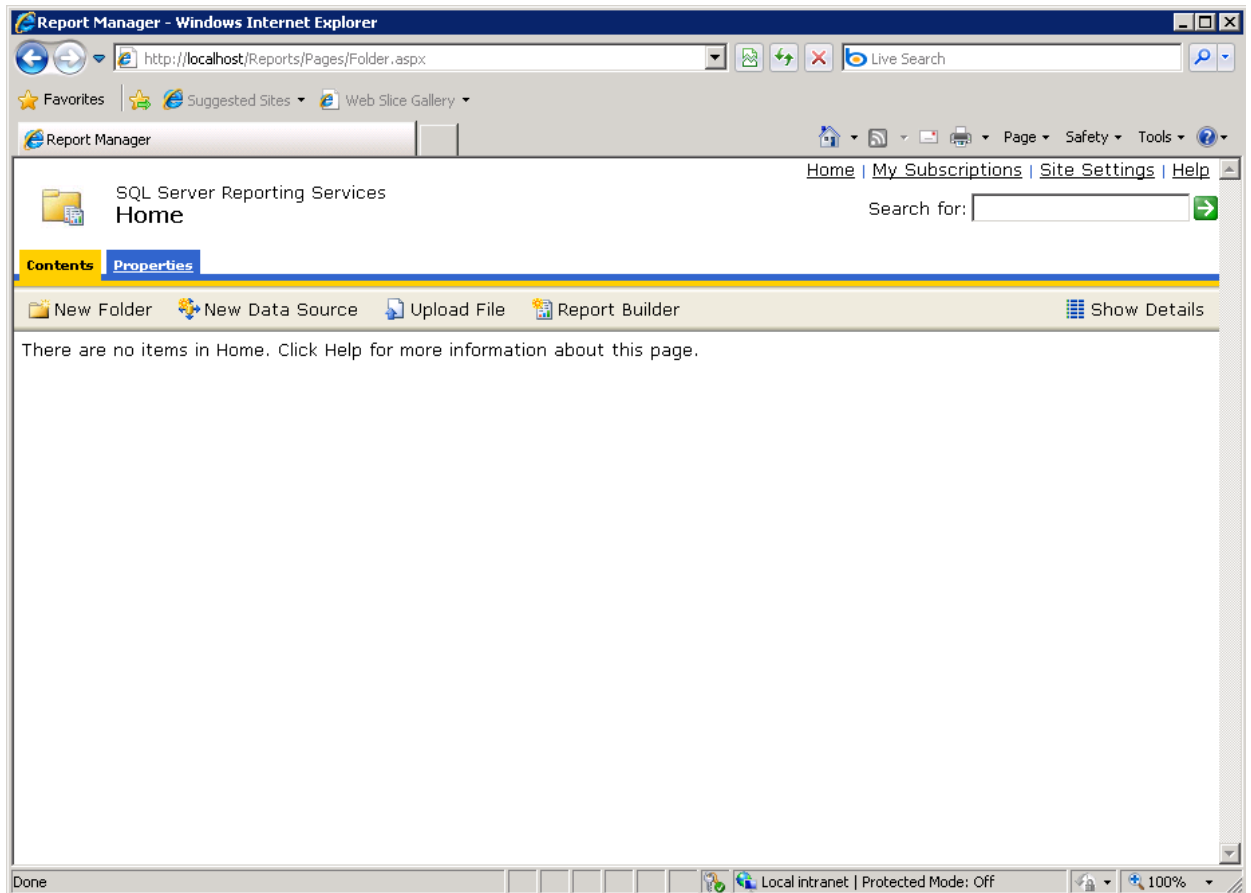
この手順では、SSRS のホストシステム内で、KaseyaReport と呼ばれる特定ユーザー用の証明書を作成します。SSRS でレポートを実行するためのアクセス権を KaseyaReport ユーザーに付与するには、**レポートマネージャ**を使用します。最後に、VSA の[システム] > [構成]で、証明書を登録します。この時点から、VSA ユーザーがレポートを実行するたびに、VSA はその証明書を使用して SSRS にアクセスします。

1. SSRS のホストシステム上で、KaseyaReport ユーザーを追加します。
 - ユーザーに強力パスワードを与えます。
 - **次のログインでユーザーはパスワードを変更しなければならない** フィールドのチェックを外します。
 - **ユーザーはパスワードを変更できない** と **パスワードは期限切れしない** フィールドにチェックを入れます。



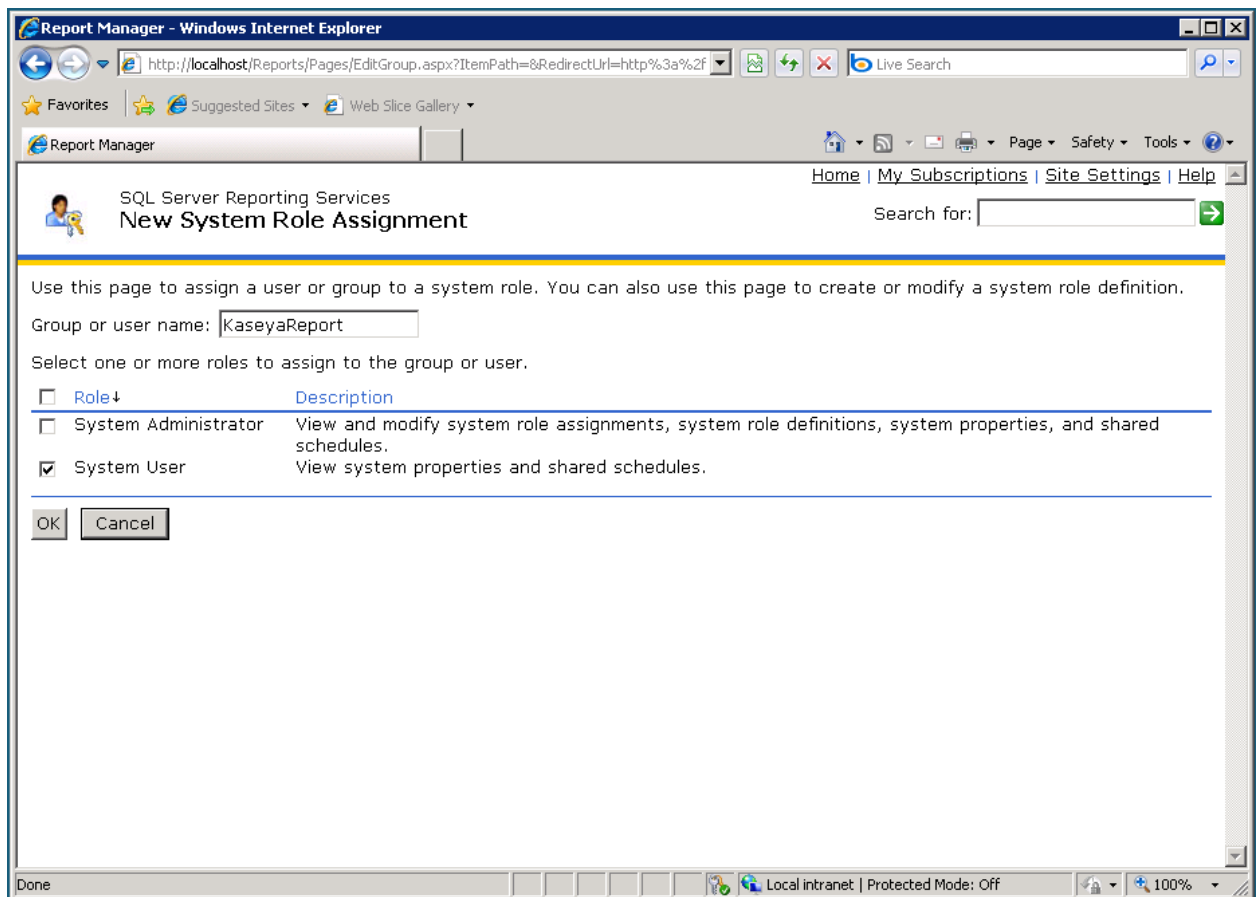
SQL Server Reporting Services の設定

2. あなたの環境で新しいユーザーに、適切な許可を適用してください。
3. SSRS のホストシステム上でブラウザを開き、管理者アカウントを使用してレポートマネージャの URL (例: `http://localhost/Reports`) を入力します。



4. 右上の**サイト設定**をクリックします。
5. 右側のサイドバーにある**セキュリティ** をクリックします。

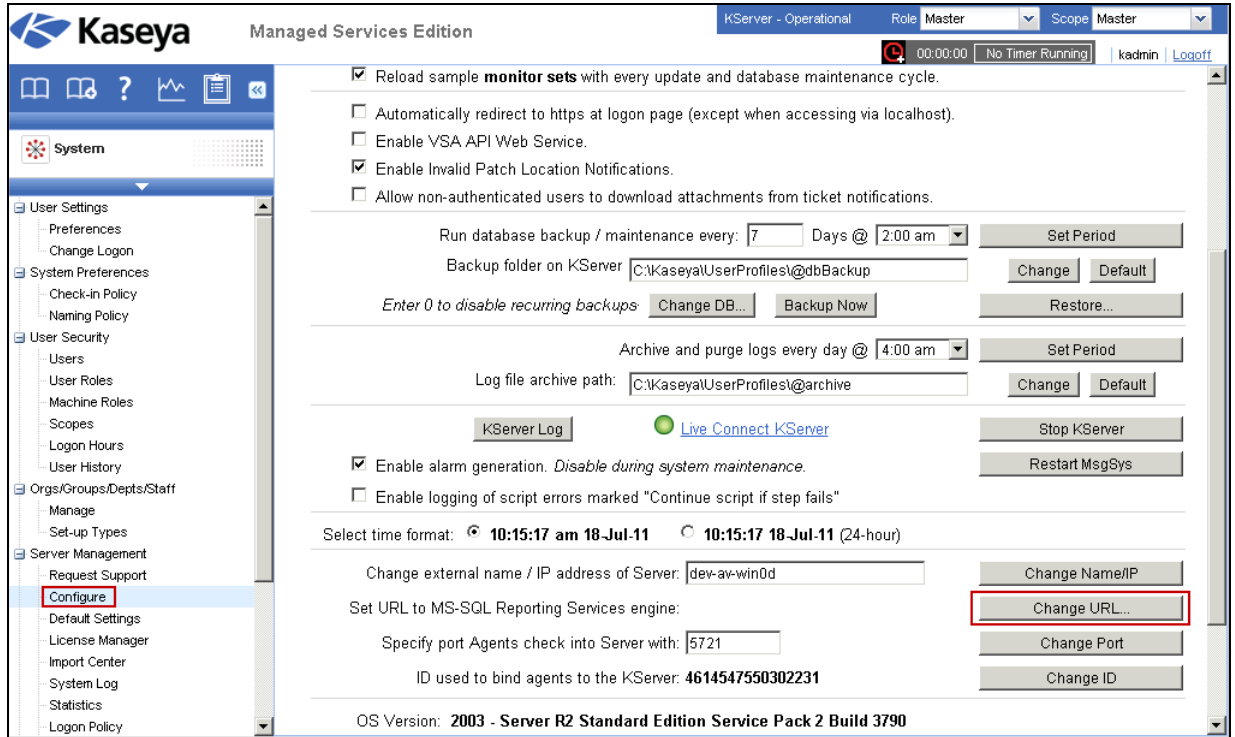
6. メニューバーの**新しい役割の指定**をクリックします。



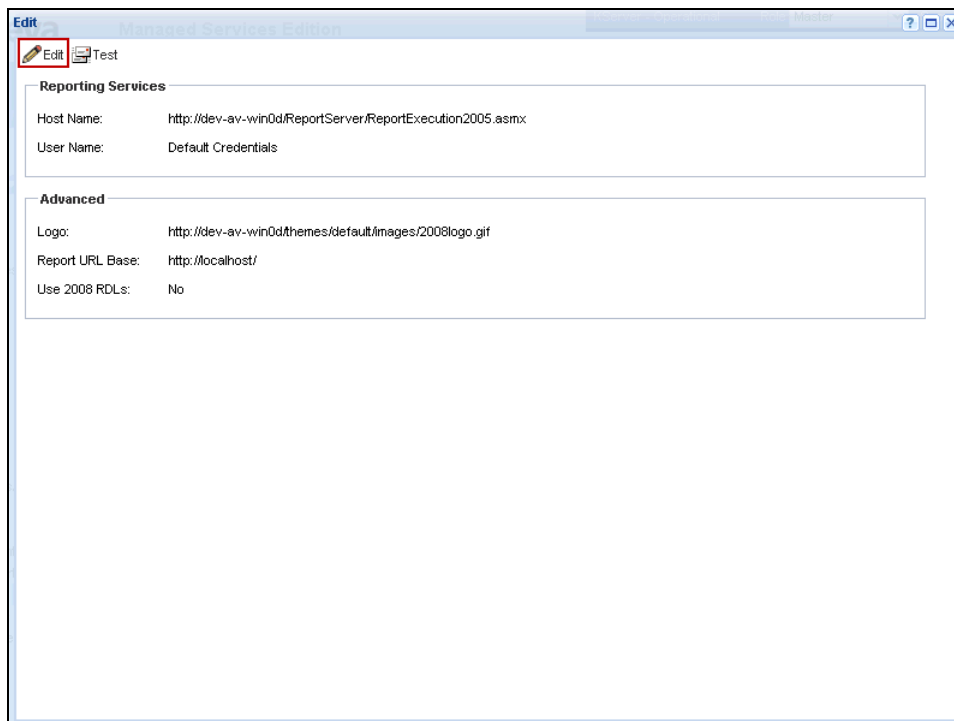
7. **[グループまたはユーザー名]**フィールドに、ステップ 1 で作成したユーザー名（例：KaseyaReport）を入力します。
8. **システムユーザー**チェックボックスをチェックします。
9. **追加**をクリックします。

SQL Server Reporting Services の設定

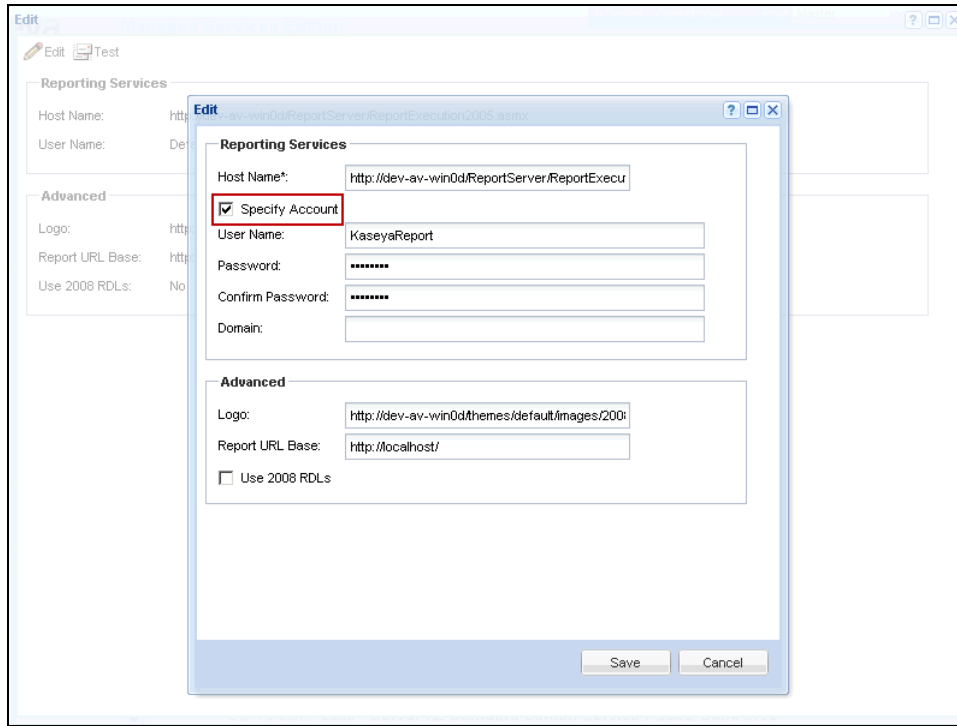
10. VSA で、[システム]>[サーバー管理]>[構成]ページを表示します。[\[URL 変更\]](#)ボタンをクリックして**レポート構成**ダイアログを開きます。



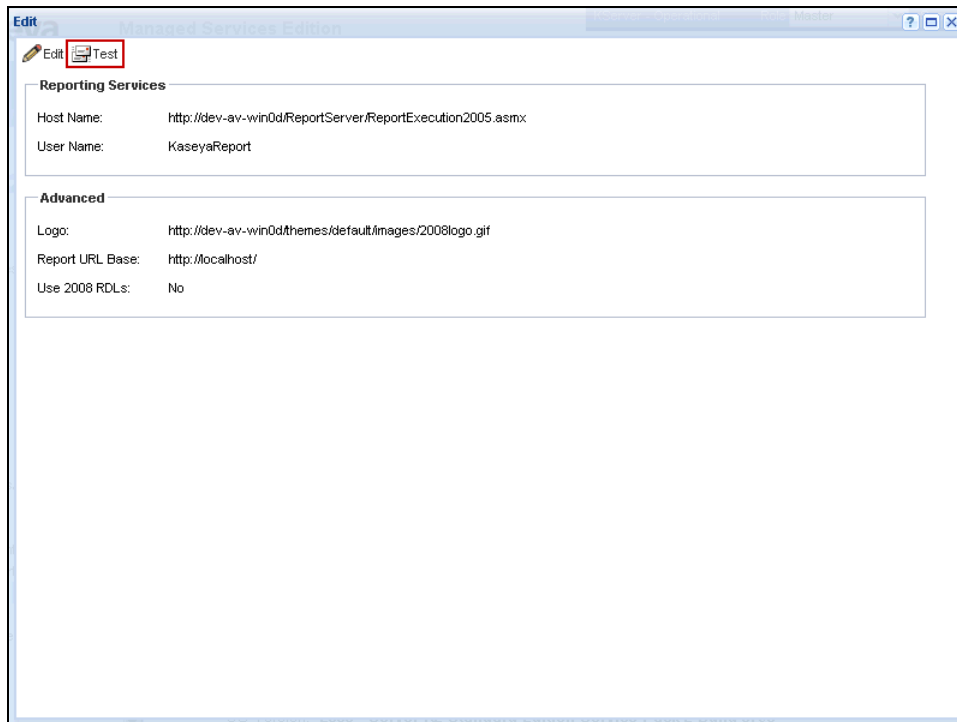
11. ページの一番上の**編集** ボタンをクリックします。



12. ステップ 1 であなたが定義した証明書を入力し、**アカウント指定**のチェックボックスがチェックされているか確認します。これは SSRS が、あなたが入力した証明書を使用することを意味します。ユーザー（例: KaseyaReport）がドメインユーザーでない場合は、**[ドメイン]**フィールドを空白にすることができます。

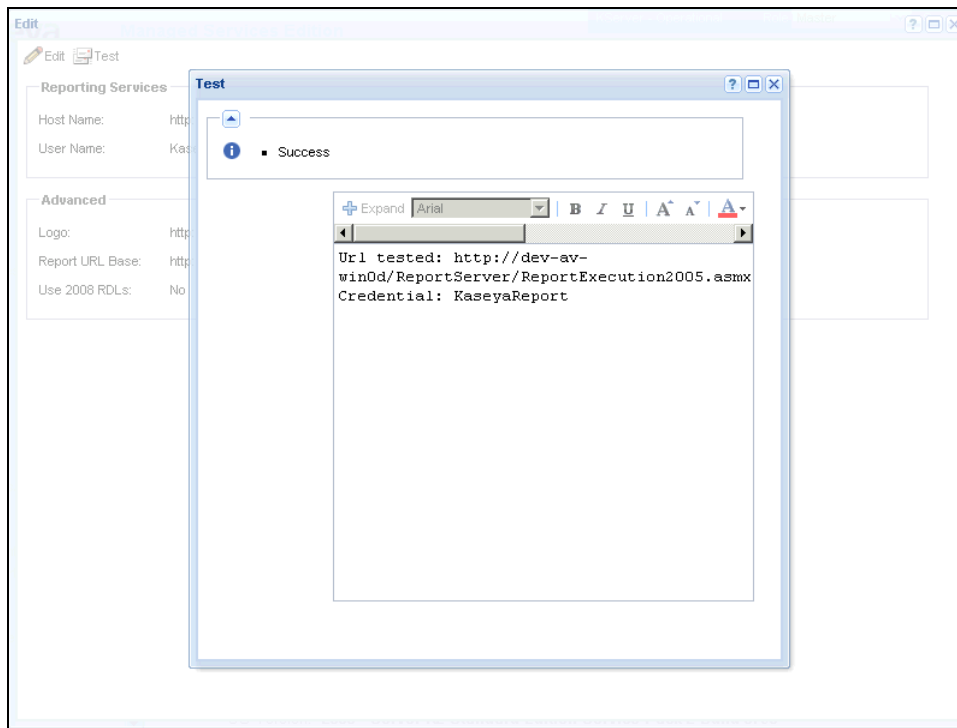


13. **保存** をクリックし、**[テスト]** ボタンをクリックして、変更をテストします。

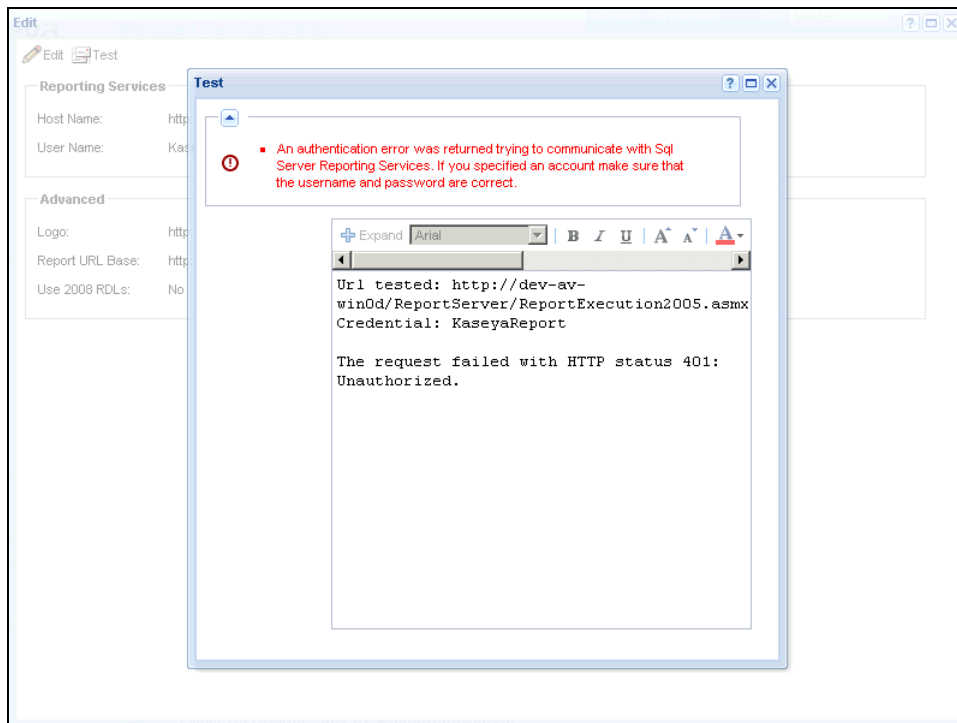


SQL Server Reporting Services の設定

14. すべて正しいなら、以下の画面が現れるはずです。



15. 証明書をタイプミスすると、以下のエラーメッセージが現れます。証明書が正しいか確認し、再テストします。



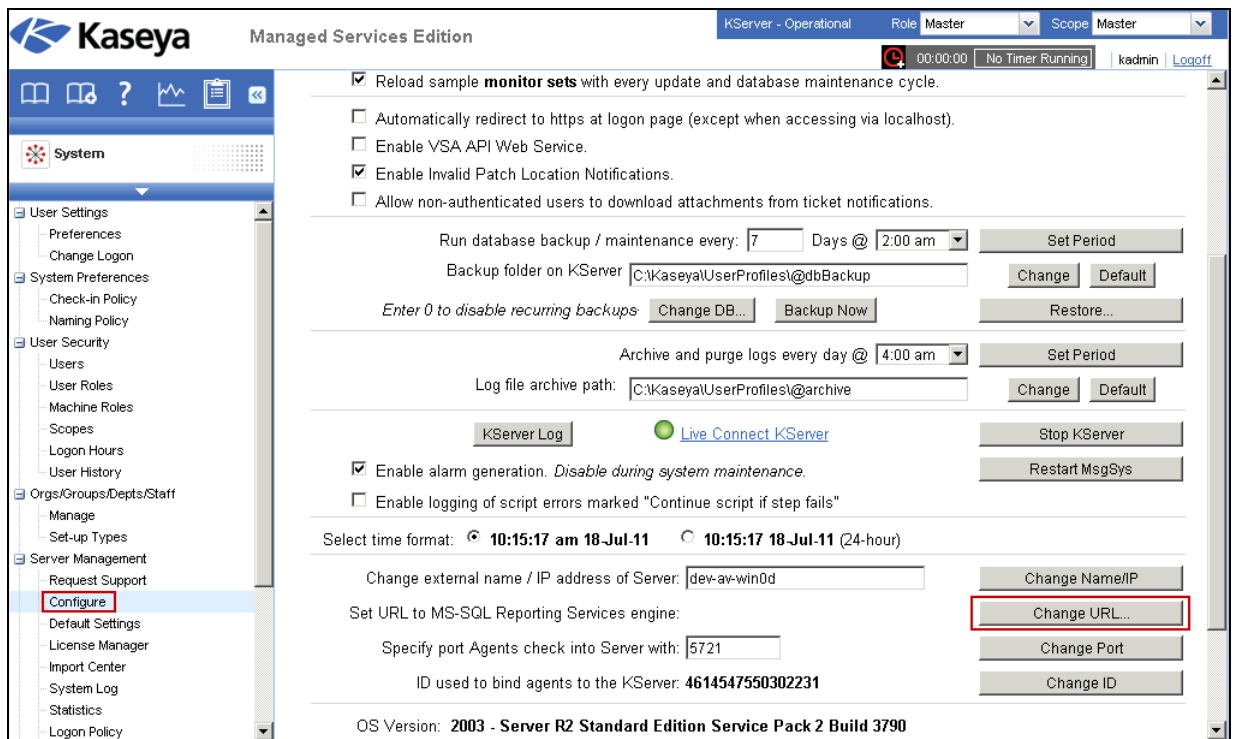
レポートロゴ URL の設定

SSRS レポートにロゴが現れない場合、以下のどれかのケースの可能性あります：

- SSRSがKaseya Serverと同じマシンにインストールされている。SSRSは、ファイアウォールの関係で、ロゴを回収できない。この問題を解決するには、URLを、外部で利用できるURL/IPアドレスからlocalhostに変更します。これは、顧客がそのマシン上でホストファイルを変更するという以前の作業を置き換えることになります。
- VSAは、自己署名証明書を使用して構成されています。この問題を解決するには、プロトコルをhttpsからhttpに変更します。

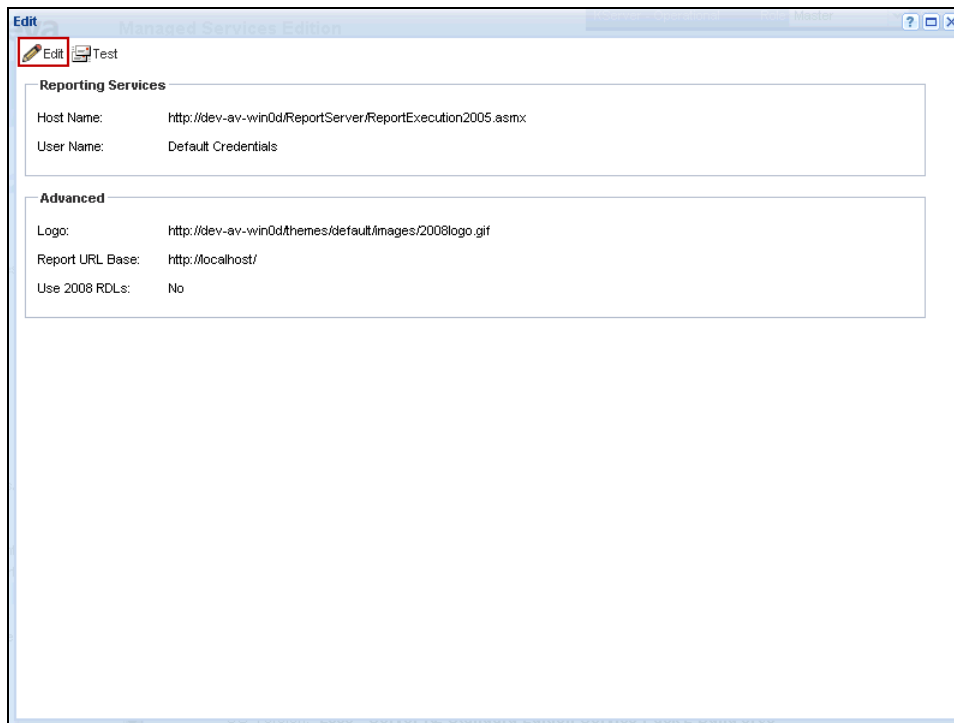
手順

1. VSAで、[システム]>[サーバー管理]>[構成]ページを表示します。[\[URL 変更\]](#)ボタンをクリックして、[レポート構成](#)ダイアログを開きます。



SQL Server Reporting Services の設定

- 画面一番上の[編集] ボタンをクリックします。



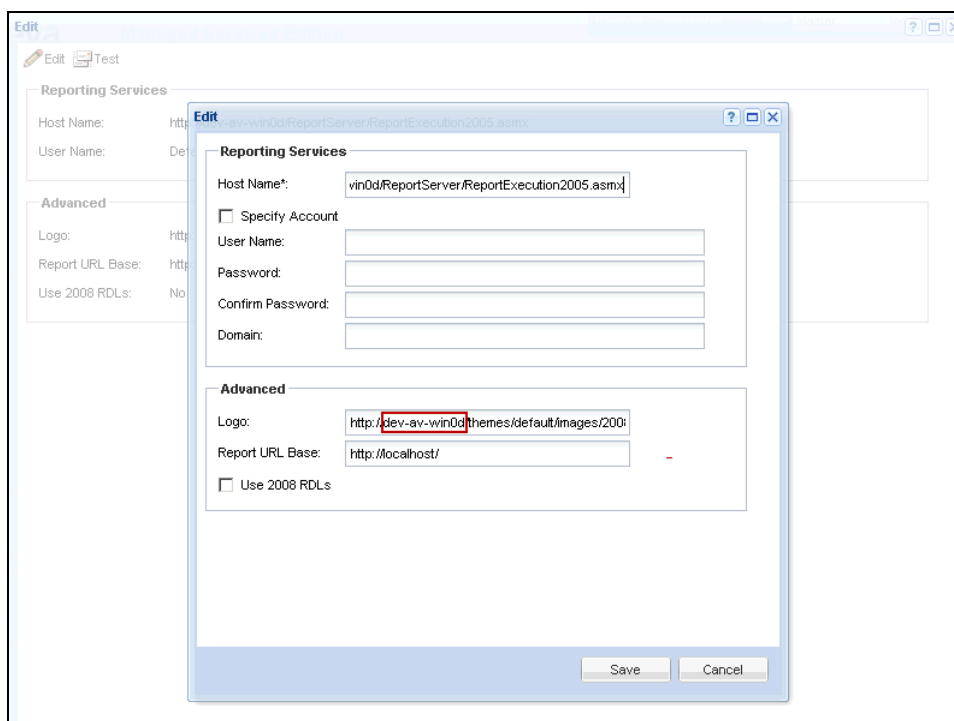
The screenshot shows the 'Edit' window for SQL Server Reporting Services. The 'Edit' button is highlighted with a red box. The window displays the following configuration:

Reporting Services	
Host Name:	http://dev-av-win0d/ReportServer/ReportExecution2005.aspx
User Name:	Default Credentials

Advanced	
Logo:	http://dev-av-win0d/themes/default/images/2008logo.gif
Report URL Base:	http://localhost/
Use 2008 RDLs:	No

- ロゴフィールドに指定されているレポートのロゴの URL を、<お使いの Kaseya Server のシステム名>から localhost に変更します。
- 自己署名 SSL 証明書を使用するように構成した Kaseya Server では、https を http に変更します。

注 : URL の他の部分を変更する必要はありません。

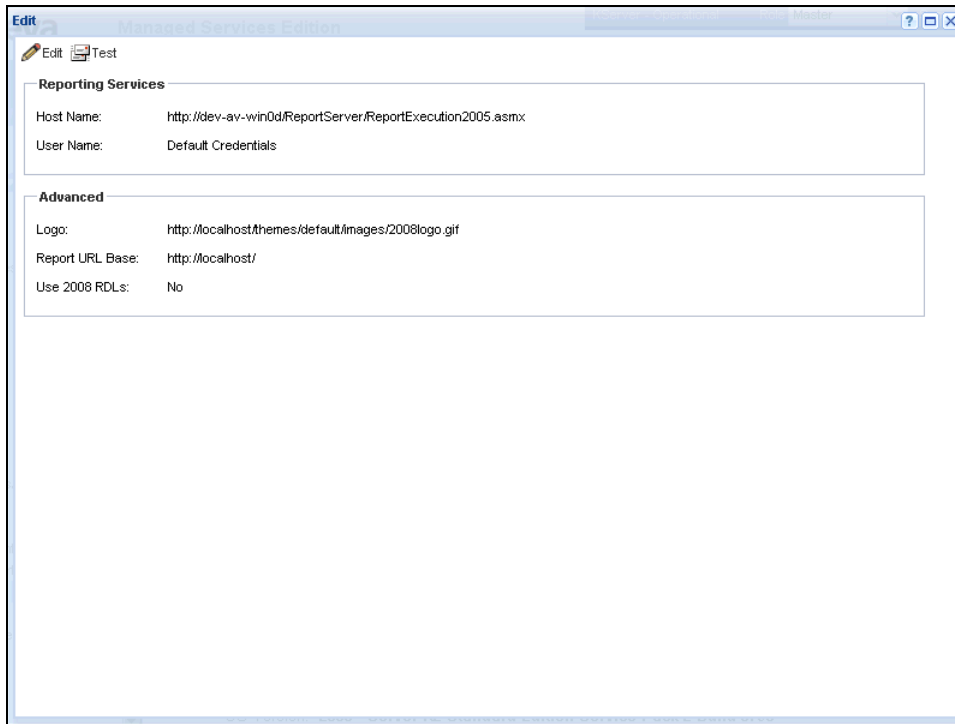


The screenshot shows the 'Edit' window with a modal dialog box open. The dialog box displays the following configuration:

Reporting Services	
Host Name:	http://dev-av-win0d/ReportServer/ReportExecution2005.aspx
☐ Specify Account	
User Name:	
Password:	
Confirm Password:	
Domain:	

Advanced	
Logo:	http://dev-av-win0d/themes/default/images/2008logo.gif
Report URL Base:	http://localhost/
☐ Use 2008 RDLs	

5. **保存**をクリックして変更を実行します。



The screenshot shows the 'Managed Services Edition' configuration window. The title bar includes 'Edit' and 'Test' buttons. The window is divided into two main sections: 'Reporting Services' and 'Advanced'. The 'Reporting Services' section contains the following fields:

Field	Value
Host Name:	http://dev-av-win0d/ReportServer/ReportExecution2005.aspx
User Name:	Default Credentials

The 'Advanced' section contains the following fields:

Field	Value
Logo:	http://localhost/themes/default/images/2008logo.gif
Report URL Base:	http://localhost/
Use 2008 RDLs:	No

これで URL は保存されました。レポートのヘッダ内のロゴ表示を見るために、レポートを作動します。

インデックス

1

- 1. 管理者としてログオンする - 3
- 10. SSL 証明書 - 9
- 11. サーバー更新オプションの選択 - 10
- 12. インストールディレクトリの選択 - 10
- 13. マスター管理者アカウントの入力 - 11
- 14. ネットワーク設定の入力 - 11
- 15. メールサーバー設定の入力 - 12
- 16. インストールするアドオンの選択 - 13
- 17. インストール変更の確認 - 15
- 18. インストールウィザードの実行 - 15

2

- 2. インストーラーのダウンロード - 3

3

- 3. インストールウィザードの起動 - 3

4

- 4. 言語の選択 - 5

5

- 5. ライセンス契約の確認 - 5

6

- 6. 自分の Kaseya ライセンスコードの入力 - 5

7

- 7. SQL サーバー認証の提供 - 6

8

- 8. ウイルス対策保護チェック - 7

9

- 9. システムチェックの実行 - 8

A

- ASP.NET State Service - 51
 - 2008、2008 R2、2012、および 2012 R2 - 54
 - 7 および 8 - 52
 - XP、2003 および 2003 R2 - 53

D

- DotNet

- 2008 R2 のバージョン 3.5 - 30
- バージョン 2.0 - 30
- バージョン 3.5 - 30
- バージョン 4.0 - 31

E

- Exchange - 28

H

- http
 - //download.kaseya.com へのアクセス - 24
 - //license.kaseya.net へのアクセス - 24
 - //vsupdate.kaseya.net へのアクセス - 24

I

- IIS
 - 2003 および 2003 R2 - 35, 42
 - 2008 および 2008 R2 - 35
 - 2012 および 2012 R2 - 37
 - 7 - 32
 - 8 および 8.1 - 34
 - XP - 32
- IIS IP アドレスとドメインの制限 - 54
- IIS SSL セキュリティ設定 - 46
 - 7、8、および 8.1 - 47
 - XP、2003 および 2003 R2 - 47
- IIS アプリケーションプール - 46
- IIS インストール完了 - 32
- IIS の HTTP のバインド - 48
- IIS の SSL セキュリティ設定
 - 2008、2008 R2、2012、および 2012 R2 - 48
- IIS のポートチェック - 48
- IIS ハンドラーマッピング - 46
- IIS ロールサービス - 39
 - 2008 および 2008 R2 - 42
 - 2012 および 2012 R2 - 44
 - 7 - 39
 - 8 および 8.1 - 40
- IIS 要件 - 31

J

- Java SE 7 - 31

K

- Kaseya Server をアーカイブする - 72
- Kaseya Server をバックアップする - 69
- Kaseya Server を移動する - 68, 69

L

- localhost/127.0.0.1 - 54

M

- Microsoft .Net Framework - 30
- MSMQ

インデックス

2003 および 2003 R2 - 56
2008 および 2008 R2 - 56
2012 および 2012 R2 - 57
7 および 8 - 55
XP - 55
MSMQ AD
2003 および 2003 R2 - 58
2008 および 2008 R2 - 59
2012 および 2012 R2 - 59
7 および 8 - 58
XP - 57
MSMQ アクティブディレクトリコンポーネント - 57

R

RAM がインストールされています - 65

S

SharePoint - 28
SQL
CLR - 62
SQL Server のその他の要件 - 64
SSRS のポート - 64
インストール済み - 60
サービスアカウント - 62
ドメイン - 61
バージョン - 61
フルテキスト検索 - 62
照合および互換性 - 60
追加のデータベースとインスタンス - 64
SQL Server Reporting Services の設定 - 78
SQL の要件 - 60
SSL 証明書を使用する - 74
SSRS URL を指定 - 79
SSRS2005 にデフォルト設定を再適用 - 86
SSRS 構成ガイドライン - 79

U

URL アクセス - 24

V

VSA をアップグレードする - 23

W

Windows Temp フォルダへのアクセス - 66
Windows アップデート - 28
7、2008 および 2008 R2 - 29
8、8.1、2012、および 2012 R2 - 29
XP、2003 および 2003 R2 - 28

あ

アウトバウンド E メールをテストする。 - 19
アップデート前チェックリスト - 68
アンチ-ウイルス・ソフトウェア - 69
アンチウィルス保護 - 67

インストーラの問題をレポートする - 17
インストールの前提条件 - 23
ウィザード使用方法 - 1
ウェブプロキシ証明書を設定する - 77
エージェントのインストールテスト - 19
エージェントの更新 - 21
オペレーティングシステム - 28

か

カスタム証明書をリモートレポートサーバーに加える
- 97
コマンドラインオプション - 75

さ

ステップバイステップインストール - 3

た

ディスクのスペース - 65
デフォルトウェブサイト
2008、2008 R2、2012、および 2012 R2 - 51
7 および 8 - 49
XP、2003 および 2003 R2 - 50

,

'デフォルトウェブサイトはウェブサイト 1 です。 - 49

た

ドメインコントローラ - 28

は

パッチリリースをインストールする - 22
ファイアウォールのポート - 65
ブラウザのアクセスのテスト - 17
ポートインストールの構成 - 17

ま

メッセージ キュー サービスが (MSMQ) - 55

ら

ライセンスされていないアドオンモジュール - 14
リモート SSRS 2005 構成 - 89
リモート SSRS 2008 構成 - 93
レポートロゴ URL の設定 - 103
レポート生成のテスト - 20

漢字

画面の解像度 - 28
監査結果のテスト表示 - 20
管理

2003 および 2003 R2 - 26
2008、2008 R2、2012、および 2012 R2 - 27
7、8、および 8.1 - 25
XP - 25
管理者アクセス - 24
更新を計画する - 69
設定ウィザードの確認 - 21
非インターネットインストール - 75